

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

聖句の言葉は聖書新改訳2017から引用されています。Copyright2017 新日本聖書刊行会
Scripture quotations are from The Holy Bible, English Standard Version (ESV), copyright 2001 by
Crossway. Used by permission. All rights reserved.

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

1:1-2

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

1:1-2

事前の勉強

ペテロの手紙第一全体を印刷して、読んでみましょう。読みながら、次のことをしてください。

- わからないところにはペンや鉛筆で下線を引いてください。
- ペテロがこの教えをしているときに、座って聞いているふりをして、質問をしてみましょう。
例: 「なぜそれを言うの?」「これは何の意味?」「これはどのように起こるの?」等々。
- 自分にとって特に意味のあるものには星印をつけておきましょう。
- 暗唱聖句を選ぶ。その1節を10回声に出して読んでください。その後、それを見ずに10回言う。このやり方を1週間で毎日やってみると暗記することはできます。そして、定期的に繰り返し、復唱しましょう。

学び

この最初の学びでは、手紙の挨拶文だけを取り上げます。たった2節ですが、ここには多くのことが書かれています。信頼できる聖書の翻訳はたくさんありますが、この学びでは主に新解約2017を使用します。この学びを読んでいくと、多くの聖句が引用されています。聖書を持って、これらを調べて、自分自身で聖書を直接見ることができるようにしてください。混乱したり、喜ばれたり、励まされたりしたことがあれば、メモしておいてください。

ペテロ第一1:1-2をゆっくりと読んで、一語一語声に出し、その意味を考えてみてください。何が気になりますか?

この手紙は、典型的なグレコローマン様式で始まり、最初に筆者の名前が書かれています。手紙は文脈の中で書かれるものです。関係性の中で書かれます。だから、読む前に誰から来たのかを知っておくと助かります。2000年前のギリシャ・ローマ文化では、このようにしていました。

この手紙はペテロからのものです。使徒ペテロからのものです。

Pre-Study

Print out a copy of the whole letter of 1 Peter and read through it. As you read it, do the following:

- Use a pen or pencil to underline anything that you don't understand.
- Pretend to be sitting and listening to Peter as he is giving this teaching and ask questions. Write "Why does he say that?" "What does that mean?" "How does this happen?" Etc.
- Put a star next to anything that is particularly meaningful to you.
- Pick one verse to memorize. Read that one verse out loud 10 times. Then say it 10 times without looking at it. Do this everyday for one week. In this way you will have memorized this verse. Then regularly repeat and recite the verse.

Study

This first study will only cover the greeting of the letter. This is only two verses, but there is a lot here. Although there are many reliable translations of Scripture, this study will mainly refer to the 新解約2017 and the English Standard Version Bibles. As you read through this study there will be many Scripture citations. Please have your Bible with you and look these up so you can see them in Scripture for yourself. Make any notes of anything that is confusing, exciting, or encouraging.

Please read 1 Peter 1:1-2 slowly saying every word out loud and thinking about its meaning. What catches your attention?

The letter begins in typical Greco-Roman style stating the writer's name first. Letters are written within a context. They are written within a relationship. So it is helpful to know who it is from before you start reading it. This was how it was done 2,000 years ago in Greco-Roman culture.

So this letter is from Peter. It is from the Apostle Peter.

「使徒」という言葉は、簡単に言うと「遣わされた者」という意味です。使徒とは、代表者や大使のようなものです。ある人や場所から別の人に送られて、メッセージを伝えたり、任務を遂行したりします。この意味では、誰でも使徒になることができます。ヘブル人への手紙では、イエス様を使徒と呼んでいます（ヘブル3:1）。イエス様は、父なる神から遣わされ、十字架によって地上の救いを成し遂げられました。

しかし、この言葉にはペテロが与える特異性があります。それは、自分がイエス・キリストの使徒の一人であるということです。イエス様は、ご自身の地上での働きの中で、12人の弟子を選び、使徒とされました。イエス様は彼らに霊的な力と権威を与え、福音を伝え、癒し、悪霊を追い出すために、イエス様から遣わされたご自身の個人的な使徒とされました。イエスの死と復活、そして昇天の後、使徒たちはイエス様の教会を設立する任務を与えられました（マタイ16:13-20、28:16-20、ルカ24:33-53、使徒の働き1:1-8、2:37、42、エペソ2:19-22）。そして、そのことが使徒の働きに記されています（使徒の働き1:2）。

イエス様が12人の使徒を選んだことについて書かれた以下の聖句を読んでみてください。マタイ10:1-4、マルコ3:13-19、ルカ6:12-16、使徒1:13、26。

それらと比較しながら、以下の質問に教えてください。

これらのリストには類似点がありますか？ 違いはありますか？ これらの文章から判断して、12使徒の役割は何でしたか？ イエス様の弟子たちは皆、使徒でしたか？

他にも、マッティア（使徒1:26）、パウロ（使徒22:21、ローマ1:1、コリント第一15:9）、イエス様の兄弟ヤコブも使徒の一人のようです（ガラテヤ1:19、コリント第一15:7）、バルナバ（使徒14:14）などが使徒に加えられています。

すべてのクリスチャンがイエス様の使徒ではありません（コリント第一12:28-29）。イエス様の使徒の一人になるための条件の一つは、あなたがイエス様と肉体的に会い、イエス様が個人的にあなたを指定の使徒の一人として送り出すことです（コリント第一9:1）。パウロは、自分が最後に任命された使徒であると言いました（コリント第一15:8-9）。

イエス様は、パウロの後、もう使徒を任命しませんでした。これは限られた人たちで、もちろん最終的には全員が亡くなりました。今はもう使徒はおらず、グローバルな教会にはイエス・キリストご自身という一人の指導者がいます。

The word “apostle” simply means “sent one.” An apostle is like a delegate or an ambassador. They are sent from one person or place to another to convey a message or perform a task. In this sense, anyone can be an apostle. In the book of Hebrews, it calls Jesus an apostle (Hebrews 3:1). Jesus was sent from God the Father to accomplish salvation on earth through the cross.

But there is a specificity that Peter gives with this word. He tells us that he is one of Jesus Christ’s apostles. During his earthly ministry, Jesus chose 12 of his disciples to be his apostles. He gave them spiritual power and authority and they were to be his personal apostles sent out by him to preach the gospel, heal, and cast out demons. After Jesus’ death, resurrection, and ascension to heaven, the apostles were given the task of establishing Jesus’ church (Matt. 16:13-20; 28:16-20; Luke 24:33-53; Acts 1:1-8; 2:37, 42; Eph. 2:19-22). And we see that happen in the book of Acts (Acts 1:2).

Take a moment to read the following scripture texts that describe Jesus choosing the original 12 Apostles: Matthew 10:1-4; Mark 3:13-19; Luke 6:12-16; Acts 1:13, 26
Answer these questions as you compare them: Are there any similarities in the lists? Are there differences? Judging by these texts, what was the role of the 12 Apostles? Were all of Jesus’ disciples apostles?

Other people were added to the Apostles like Matthias (Acts 1:26), Paul (Acts 22:21; Romans 1:1; 1 Corinthians 15:9), Jesus’ half-brother James seems to be another Apostle (Galatians 1:19; 1 Corinthians 15:7), as well as Barnabas (Acts 14:14).

Not every Christian is an apostle of Jesus (1 Corinthians 12:28-29). One of the requirements for being one of Jesus’ apostles is that you see him physically and he personally sends you out as one of his designated apostles (1 Corinthians 9:1). Paul said that he was the last apostle to be appointed (1 Corinthians 15:8-9).

Jesus did not appoint anymore apostles after Paul. This was a limited amount of people and of course, eventually they all died. Now there are no more apostles and the global church has one leader, Jesus Christ himself.

マタイ16:18、ヨハネ10:11-16、コリント第一1:2、テモテへの手紙第一3:15、ペテロ第一5:2を読みましょう。以下の質問に教えてください。(1) 教会はどなたのものですか。(2) それは、私たちが教会として何をすべきかを決定する上で、どのような意味がありますか?

次に、ペテロ第一5:1-4を読んでください。誰が世界の教会の地域的な表現を牧する責任がありますか。

世界の教会(マタイ16:18-19)は地域の教会に現れ(マタイ18:15-20)、その地域の教会は長老によって牧され、監督されています(ペテロ第一5:1-4)。実際、パウロの宣教の主な任務の一つは、教会に長老を置くように仕向けることだったようです。(使徒14:21-23とテトス1:5を読んでください。)

つまり、イエス様の使徒は救いの歴史の中で特別な役割を果たしていましたが、その役割は今日の教会では続いているのです。

この手紙は、使徒ペテロが書いたものです。福音書を読んでいけば、ペテロについてよく知ることができます。彼はイスラエル出身のユダヤ人でした。彼は結婚していました(コリント第一9:5、ケファはギリシャ語の「ペテロ」のアラム語名です。どちらも「岩」という意味です。)使徒になる前はガリラヤ海で漁業を営んでいた(マタイ4:18)。彼は、イエスの最初の弟子の一人でした(マルコ1:16、ヨハネ1:40-42)。彼は弟子としてイエスのもとで3年間過ごし、イエスについて行き、イエスから学んだ。彼は率直な人でした(マルコ8:27-33、使徒1:15-22)。体力もあったようです(ヨハネ21:10-11)。イエスの宣教中、イエスがキリストであることを認め、神の子と呼んだ(マタイ16:16)。しかし、イエスが逮捕されて裁判にかけられたとき、ペテロは群衆の一人に攻撃し、その場から逃げ出し、その後、イエスが誰であるかを知らないか否を否定しました(マルコ14:50、ヨハネ18:10-11、16-17、25-27)。

イエス様が死からよみがえられた後、イエス様はペテロを使徒としての地位に特別に回復されました(ヨハネ21:15-19)。そして、教会が始まったとき、ペテロは最初の説教をしました(使徒2:1-41)。ペテロは、初代教会のリーダーとして、また使徒の中でも認められていました(ガラテヤ2:9)。

ペテロがイエス様の12使徒の一人であり、キリストと呼ばれていたことを言いました。「キリスト」とはイエス様の姓ではなく、その役割を表す言葉です。キリストとは、神に特別に任命された人のことで、その人の民の救い主であり支配者です。

Read Matthew 16:18; John 10:11-16; 1 Corinthians 1:2; 1 Timothy 3:15; 1 Peter 5:2. Answer these questions: (1) Who does the church belong to? (2) What does that mean for how we decide what to do as a church?

Now read 1 Peter 5:1-4. Who is charged with shepherding local expressions of the global church?

The global church (Matthew 16:18-19) is manifested in local churches (Matthew 18:15-20) and those local churches are shepherded and overseen by elders (1 Peter 5:1-4). In fact, it seems that one of the main tasks of Paul's missionary journeys was to get churches to the point of having established elders. (Read Acts 14:21-23 and Titus 1:5.)

So Jesus' apostles were a special role in salvation history, but that role does not continue in the church today.

So this letter was written by the apostle Peter. If you read the Gospels you can know a good amount about Peter. He was a Jewish man from Israel. He was married (1 Corinthians 9:5, Cephas is the Aramaic name of the Greek "Peter." Both of these mean "rock."). He had a fishing business in the Sea of Galilee before he was an apostle (Matthew 4:18). He was one of Jesus' first disciples (Mark 1:16; John 1:40-42). He spent three years with Jesus as his disciple, following him around and learning from him. He was outspoken (Mark 8:27-33; Acts 1:15-22). He seems to have been physically strong (John 21:10-11). During Jesus' ministry, He affirmed Jesus to be the Christ and called him the Son of God (Matthew 16:16). When Jesus was arrested and put on trial however, Peter violently attacked one of the men in the crowd, fled the scene and then he denied even knowing who Jesus was (Mark 14:50; John 18:10-11, 16-17, 25-27).

After Jesus rose from the dead he specifically restored Peter to his position as Apostle (John 21:15-19). Then when the church began Peter gave the first sermon (Acts 2:1-41). Peter was recognized as a leader in the early church and even among the apostles (Gal. 2:9).

I mentioned that Peter was one of Jesus' 12 Apostles and that he called him the Christ. "Christ" is not Jesus' family name, it is a description of his role. The Christ is the person specifically appointed by God to be the savior and ruler of his people.

キリストという言葉は、ギリシャ語で「油が注がれた者」という意味です。聖書では、預言者（第1歴代16:22、詩篇105:15）、祭司（出エジプト29:29、40:12-15）、王（第1サムエル16:13）のいずれかの役割に任命されると、頭に油が注がれ、その役割のために神に選ばれたことを示しました。「キリスト」は、預言者、祭司、王の3つの役割をすべて成就しました。イエスが宣教を始めたとき、彼は神のキリストであることを示すために、聖霊を通して神ご自身から油を注がれました（詩篇2:2、マタイ3:16-17、使徒10:38）。

しかし、イエスがキリストであり、他に神の真のキリストは存在しないため、ペテロ第一1:1のように、「キリスト」がイエスの名前として使われるようになりました。

同じ名前の人を複数知っていて、その中の一人を指すときに、他の人と区別するために、その人の属性や仕事を使ったことはありませんか？ もしあなたが田中さんという名前の男性を2人知っていたら、共通の友人と話しているときに、1人を「エンジニアの田中」、もう1人を「大学生の田中」と呼ぶかもしれません。

それは、イエスの役割である「キリスト」が自分の名前として使われていたのと少し似ています。イエスの時代には、イエスという名前の人はたくさんいましたが、その中でキリストは一人だけでした。つまり、これはキリストであるイエスなのです。

話に戻ると、この手紙はそのペテロからのものなのです。イエス・キリストの使徒であるペテロ。

では、誰に対して書いたものなのか？ 1-2節の挨拶文をもう一度読んでください。

ペテロは、複数の教会を含む広い地域に向けて書いています。彼らは「散っている」と言っています。そして、彼らを「寄留している選ばれた人」と呼んでいます。

これはどういう意味でしょうか？ もともと別の場所に住んでいた人たちが、この地域に散らばったということですか？ おそらく違うでしょう。旧約聖書のイメージを使って、これらの教会のクリスチャンを表現しているのです。神の旧約の民であるイスラエル人は、イスラエルの地を与えられ、そこに住み、自分たちの生活を確立しましたが、神に忠実でなかったために、他の国々がやってきて彼らを征服し、他の土地に散らばってしまいました。

彼らは世界中に散らばっていましたが、いつの日かイスラエルに集まり、エルサレムに戻ってきて、神に忠実に生きることになっていたべきです。(申命記28~30章には、イスラエルの不従順、追放、そしてその後の悔い改めと回復についてのモーセの警告と予言が書かれています。)

The word Christ in Greek means “anointed one.” In the Bible, when someone was appointed to the role of either prophet (1 Chronicles 16:22; Psalm 105:15), priest (Exodus 29:29; 40:12-15), or king (1 Samuel 16:13) they had oil poured over their heads to signify their being chosen by God for this task. The “Christ” was the fulfillment of all three roles—prophet, priest and king. When Jesus began his ministry he was anointed by God himself through the Holy Spirit (Psalm 2:2; Matthew 3:16-17; Acts 10:38) to show that he was God’s Christ.

“Christ” is not Jesus’ family name, but because Jesus is the Christ and there is no other true Christ of God, it began to be used as his name, like it is here in 1 Peter 1:1.

Have you ever known multiple people with the same name and so when referring to one of them, in order to be clear you used an attribute of them or their job as the way to differentiate them from others? If you know two men named Tanaka, when you are talking to a mutual friend you might refer to one as “Engineer Tanaka” and the other as “university student Tanaka.”

That’s a little like how Jesus’ title “Christ” was being used as his name. In Jesus’ day there were a lot of people named Jesus, but only one of them was the Christ. So this is Jesus, the Christ.

So that’s who the letter is from. Peter, an apostle of Jesus Christ.

Who is it to? Again read the greeting in verses 1-2.

Peter is writing to a broad area that included multiple churches. He says they are “of the dispersion.” And he calls them “elect exiles.”

What does that mean? Are these people that all used to live somewhere else, but were scattered throughout this area? Probably not. He is using Old Testament imagery to describe the Christians in these churches. The Israelites, God’s Old Covenant people were given the land of Israel to live in and establish themselves, but because they were not faithful to God he caused other nations to come and conquer them and scatter them throughout other lands.

They were dispersed throughout the world and one day they were supposed to gather back to Israel and come back to Jerusalem and live faithfully to God. (You can read Moses’ warning and prediction of Israel’s disobedience, exile, and subsequent repentance and restoration in Deuteronomy 28-30.)

ペテロはこのイメージを使って教会のことを語っています。しかし、どのような形で？ 私たちも世界中に散らばっていて、いつかはイスラエルのエルサレムに帰るということでしょうか。そうではなくて、もっと素晴らしいのです。

ペテロ第一には、「苦しみ」という大きなテーマがあります。それはこの手紙全体に通じています。苦しみはクリスチャンの人生を特徴づけます。イエス様が戻ってこられるまでの間、私たちの人生の規範となり、支配的な経験となります。そして、そこがポイントです。私たちがクリスチャンになったとき、私たちはすぐに行ったことのない郷土に憧れるようになりました。たとえ自分の故郷に住んでいても、自分の住んでいる場所が自分の家じゃないと感じてしまうのです。

私たちはイエスを待っている。私たちは天国を待っています。すべてが新しく完璧になり、罪が永遠になくなるのを待っているのです。それが私たちの故郷です。今、私たちは異国の地で寄留の人たちのように暮らしています。何もかもがアットホームな感じとは思えません。

私たちの多くは、故郷ではない場所で生活していますし、青春時代を過ごした文化とは異なる文化の中で生活したことがある、あるいは現在生活している人も多いでしょう。ですから、「旅人」「寄留者」という感覚は、私たちにとって身近なものだと思うのです。

今の状態のこの世界は、しっくりこないはずですよ。あなたはここでつろぐべきではありません。場違いな感じがして、文化にうまく溶け込めていないように感じるはずだ。その感覚は、あなたが何か間違ったことをしているという指標ではありません。むしろ、それとは真逆なのです。

ペテロは彼らを「寄留している選ばれた人たち」と言っています。神に選ばれた人たちです。彼らはどのように選ばれたのでしょうか？ クリスチャンであるあなたは、どのように選ばれたのでしょうか？ あなたはどのようにして今の状況になったのでしょうか？ 父なる神の予知によるのです。

あなたが寄留している選ばれた人であることは、神の計画に従っています。人生が困難で、クリスチャン以外の誰にも理解されていないと感じるのは、神の御心に反することではありません。朝起きて、学校や職場に行くと、物事の進め方や人々の扱い方、教えられている哲学に同意できないのは、神があなたを不快に思っている証拠ではありません。それは、あなたがあなたの世界で寄留の人となることは、神の予知と計画に従っているからです。

考えてみてください。あなたは人間ですよ。地球はあなたが住むために作られたのです。それなのに、あなたはここにいてしっくりこなさを覚え、どこか合わない感じがします。なぜでしょう？ それは、あなたが聖霊によって聖別されたからです。

テンションをかなり感じるの、神の霊が私たちの中にいるからです。神は聖なる存在です。一般的なものとは異なります。罪が全くない方です。そして、神の霊をあなたの中に入れてくださいました。今、あなたの中には神の聖霊が住んでいます。そして、その聖霊はもちろん聖なるものです。彼には罪がありません。彼は他の何かに似ているのではなく、全く別の存在であり、あなたの中にいるのです。

Peter is using this imagery to talk about the church. In what way though? Is it that we are also scattered throughout the world and one day we will go back to Jerusalem in Israel? No. It's much better than that.

There is a major theme of suffering in 1 Peter. It runs throughout the letter. Suffering characterizes the Christian's life. It is our normative, predominate experience in life until Jesus comes back. And that's the point. When we became a Christian we instantly started longing for a home that we've never been too. We instantly felt not quite at home in the place that we live, even if it's our home town.

We are waiting for Jesus. We are waiting for heaven. We are waiting for everything to be made new and perfect and sin to be gone forever. That is our home. Right now we are living much like exiles in a foreign land. Nothing feels quite right.

Many of us are living in a place that is not our home and many of us have lived or are currently living in a culture that is not the one you spent your youth in. So I think the feeling of exile or sojourner is a familiar one to us.

This world in its current state should not feel right. You should not feel at home here. You should feel out of place and like you don't really fit into the culture quite right. That feeling is not an indicator that you are doing something wrong. Rather it is the total opposite of that.

Peter says they are "elect exiles." They are chosen by God. How were they chosen? How are you chosen if you are a Christian? How did you come to be in the current situation you are in? By the foreknowledge of God the Father.

It is according to God's plan that you are an elect exile. It is not contrary to his will that life is difficult and you don't really feel understood by anyone in your life other than Christians. It is not an indicator of God's displeasure with you that when you wake up and go to school or work you disagree with the way things are done or how people are treated or the philosophies that are taught. It is according to his foreknowledge, his plan that you would be an exile in your world.

Think about it! You're a human! The earth was made for you to live in it! And yet you don't feel quite right here. Why? Because you have been sanctified (or set apart) in the Spirit.

The reason we feel so much tension is because God's Spirit is in us. God is holy. He is unlike anything common. He is completely without sin. And he put his Spirit in you. Now there is the Holy Spirit of God living inside you. And His Holy Spirit is holy! He has no sin. He is not like anything else, but is entirely other, and he is inside you.

主は、あなたを聖なる者として証印しました。それは、あなたが違うということです。あなたは世界や文化とは違うのです。この世が大切にしているものと違って、他のものを大切にします。お金ですか？それは大したことではありません。人気ですか？苦勞して手に入れるほどの価値はありません。成功ですか？その成功が神に栄光を帰す場合のみ求めます。セックスですか？いいね。でも、自分にはそれはなくてもいい。

クリスチャンがこのように考えるのは、神様があなたの中に聖霊を入れてくださったからです。なぜ神様はそうされたのでしょうか？それは、神様のご計画通りだったからです。そして、何のためにそれをされたのでしょうか？

それは、2つの理由からです。それは、(1) 私たちがイエス・キリストを私たちの主として従うため、(2) イエス・キリストの血によって私たちが注ぎかけられるためです。

気持ち悪そうですね。どういうことでしょうか？

まず第一に、私たちは、イエス様の命令と権威の下にあるために、神様に選ばれ、神様の御霊によって聖なる者とされます。私たちが聖なる者として生きる実際の方法は、イエス様に従うことです。イエスは私たちの主人です。イエスは私たちの最大の権威です。私たちの人生に対するイエスの権威に勝るものはありません。

休みを取ろうと思ったら、配偶者や友人と「いつ、どこで」と相談して計画を立てる。しかし、最終的には上司に休みを取ってもいいかどうかを確認しなければなりません。それと同じように、上司や家族や友達に何かを頼まれたとき、クリスチャンとしてやっていいのかどうかかわからない場合は、「イエス様はこのことについて何と言っているのか？」と常に考える必要があります。そして、聖書に何が書かれているのかを調べる必要があります。そして、自分がどう感じようと、聖書に従わなければなりません。私たちは神の民です。私たちはイエス様の教会です。

現実的には、これがクリスチャンとこの世とを区別するものです。もしあなたが自分はクリスチャンだと言いながら、クリスチャンでない人がすることをすべてやっているとしたら、何かが間違っています。それは、聖霊があなたの中に住まわれる目的ではありません。

考えてみてください：あなたは人生のどの分野でイエス様に従わないというプレッシャーを感じますか？ これらのことについて、聖書は何と言っていますか？ もし、その答えを知らなければ、どのようにして知ることが出来ますか？

次のフレーズ、「その血の注ぎかけ。」

神様はご自分の民と契約に基づいた関係を持っておられます。契約の中には条件があります。それは、二者間の合意であり、契約関係を継続するためには、双方の合意が満たされなければなりません。

神様は聖なるお方です。神様は、罪を考えたり、罪を言ったり、罪を感じたり、罪をしたりしません。神様はいつも正しく、良い方です。いつもです。

He has marked you as someone who is holy! That means you are different. You are not like the world and the culture. You value other things. Money? It's not a big deal. Popularity? It's not worth the trouble. Success? Only if it glorifies God. Sex? Sounds great, but I don't have to have it.

Christians think this way because God has put his Holy Spirit in you. Why did God do that? Because it was according to his plan to do it. And to what end did he do it?

He did it for two reasons: (1) so that we would obey Jesus Christ as our Lord and (2) so that we would be sprinkled by his blood.

That sounds gross. What does that mean?

First of all, we are chosen by God and made holy in his Spirit in order to be under Jesus' command and authority. The practical way we are holy or set apart is by obeying Jesus. Jesus is our master. Jesus is our greatest authority. No one trumps Jesus' authority over our life.

If you think about taking a vacation and you talk with your spouse or friends about when and where and you make plan. But there's still one final step you have to take: you have to ask your boss if you can take that time off. In the same way, if your boss or your family or your friends ask you to do something and you're not sure if it is okay to do as a Christian, you need to always think, "What does Jesus say about this?" And then you need to search through the Bible to see what it says. And we have to obey the Bible no matter how we feel. We are God's people. We are Jesus' church.

In very practical terms that is what distinguishes Christians from the world. If you say you are a Christian, but still do everything that non-Christians do, something is wrong. That is not the purpose for which the Holy Spirit is dwelling in you.

Think about this: What areas of life do you feel pressure to disobey Jesus? What does the Bible say about these things? If you don't know the answer, how can you find out?

The next phrase, "and for sprinkling with his blood." その血の注ぎかけ。

God has a relationship with his people based on a covenant. Within a covenant there are terms and conditions. It is an agreement between two parties and both sides of the agreement have to be met in order for the covenant relationship to continue.

God is holy. God doesn't think sins or say sins or feel sins or do sins. He is always righteous and good. Always.

私たちはそうではありません。

では、どのようにして契約関係を結ぶことができるのでしょうか。

出エジプト記で神様が最初にイスラエルと契約を結ばれた時、それは血によってなされました。

出エジプト記24:3-8を読んでください。この質問を答えてください：神様はイスラエルに何を与えられましたか？ イスラエルはどう答えましたか？ その後、モーセは人々に何をしましたか？

出エジプト記ではこれまで、神様はイスラエルをエジプトの奴隷と圧迫から解放してきました。紅海では奇跡的に水を分け、乾いた土地を歩かせました。そして、シナイ山に戻ってきました。シナイ山では、神がモーセに現れ、イスラエルをエジプトから連れ出すように命じられました（出エジプト記3:12）。シナイ山に着いてから、出エジプト記19章で、神様はイスラエルに、もし彼らが神様の民となり、神様を神としたいなら、神様の契約の条件に従わなければならないと言われました。イスラエルはそれに同意します（出エジプト記19:1-8）。そして、20章で、神は彼らに十戒を与えます。21-23章では、神はさらに多くの律法を与え、それに従わない場合はさまざまな罰を与えます。様々な律法に対して、罰は死でした（例：21:15）。つまり、律法は、契約を履行するために私たち側が守らなければならない条件として、神がその民に要求することです。そして、もし私たちが律法を破ったら、もし私たちが罪を犯したら、その罰は死です。

一方、神は私たちの神であり、私たちに忠実であることを約束しています。

しかし、ここで実に奇妙なことが起こります。人々は神に従うこと、神との契約関係を結ぶことに同意し、犠牲が捧げられ、モーセはその犠牲から出た血の一部を取り、人々に投げかけました。

実際、神様の規則や法律の中には、罪の贖いのためにいけにえを捧げる方法についての規定があります。なぜ神は、私たちが従うべき律法の中に、私たちが従わなかったときのためにいけにえを捧げるという律法を入れたのでしょうか？

それは、私たちが契約を果たさないからです。

そして、神はそのことを知っている。それなのに、神様は私たちの神様になることを決めたのです。私たちと神との関係が避けられない死に至らないためには、贖いの犠牲が必要です。血が流されなければなりません。私たちの代わりに何かが死ななければなりません。

出エジプト記24章の牛の血は、実際には何も達成しませんでした。むしろ、それはイエスの唯一の真の贖いの犠牲を指し示していたのです。

ペテロは、私たちがイエスの血で注ぎかけられていると言います。それはどういうことでしょうか？ なぜなら、文字通りイエスの血で注ぎかけられた人は一人もいないからです。

これはもちろん、イエス様が十字架で死なれたことが、唯一の真の神を私たちの神とし、私たちがその民となることを可能にする贖罪のいけにえであったということです。

We are not.

So how can a covenant relationship possibly be achieved?

When God initially made is covenant with Israel in Exodus it was done through blood.

Read Exodus 24:3-8. Answer this question: What has God given Israel? How has Israel responded? Then what does Moses do to the people?

So far in Exodus God has freed Israel from the slavery and oppression of Egypt. He has brought them through the Red Sea by miraculously parting the waters and having them walk on dry land. He brought them all the way back to Mount Sinai where he initially appeared to Moses and told him to go bring Israel out of Egypt (Exodus 3:12). And once they were at Mount Sinai, in Exodus 19 God tells Israel that if they want to be his people and have him as their God then they must obey the terms of his covenant. Israel agrees to do so (Exodus 19:1-8). Then, in chapter 20, God gives them the 10 commandments. In chapters 21-23 God gives them more laws with various punishments for disobeying. For various rules, the punishment was death (i.e. 21:15). So the rules are what God demands from his people to do in order to fulfill our end of the covenant. And if we break the rules, if we sin, the punishment is death.

On the other end God promises to be our God and be faithful to us.

But then something really weird happens here. The people agree to obey and to enter into a covenant relationship with God and then sacrifices are given and Moses takes part of the blood from these sacrifices and throws it on the people.

And in fact, throughout God's rules and laws are regulations about how to offer sacrifices to make atonement for sin. Why would God put in his rules, which we are to obey, rules about making sacrifices for when we don't obey?

Because we don't fulfill our end of the covenant.

And God knows that. And yet God decides to be our God. In order for our relationship with God to not result in our inevitable death there has to be a sacrifice of atonement. Blood has to be shed. Something has to die in our place.

The blood of these oxen in Exodus 24 didn't actually accomplish anything. Rather it was pointing forward to the one true atoning sacrifice of Jesus.

Peter says we are sprinkled with Jesus' blood. What does that mean? Because no one was ever literally sprinkled with Jesus' blood.

This is of course a way of saying that the death that Jesus' died on the cross was the sacrifice of atonement that made it possible for us to have the one true God as our God and for us to be his people.

ペテロは、自分たちに御霊が宿っているのも、自分たちが神に選ばれた民であるのも、父なる神が、イエスの死によってイエスに従うために、自分の民とされ、御霊が宿ることを計画されたからだと伝えていきます。

あなたがクリスチャンである理由は、神がそれを計画したからです。神があなたを選んだ理由は、それが神の心の一部だったからです。神の聖霊があなたの中に宿るのは、神がそれを望んでいたからです。あなたがイエス様に従うために人生を生きているのは、神様がそれを計画したからです。これらのことが可能なのは、イエス様があなたの代わりに十字架で死んでくださったからです。そして今、その血があなたを覆っています。

ペテロは、イエス様がこのことを教えてくださったときのことを覚えています。イエス様が十字架にかけられる前夜、ペテロと他の使徒たちと食事をされ、ご自身の血によって確立される新しい契約を結ぶことを告げられました。

マタイ 26:26-28で、イエス様がご自分の死を新しい契約のための贖いのいけにえとして説明されたことについてお読みください。

罪を犯しているあなたを神が見るとき、もしあなたがイエスへの信仰を持っていれば、神はあなたがキリストの血で注ぎかけられたことを見て、神の怒りがあなたの上を通り過ぎるのです。クリスチャンには神からの怒りはありません。イエス様が私たちの代わりに神様の怒りを背負ってくださったので、あなたはいつも神様から愛のもを受けます。これを「宥め」といいます。イエス様は十字架での犠牲の死を通して、私たちの代わりに神様の怒りを満たしてくださいました。

もしあなたがクリスチャンであり、神の霊を受け、イエスに従おうとしているのであれば、あなたの人生には罪の定めや神からの怒りは何もありません。神は決してあなたに怒っているわけではありません。

そこで、神様はあなたとの関係を築き、あなたがその契約関係から抜け出すことのないように、失敗しない計画を立ててください。具体的に言えば、(1) 神様は、ご自分の契約に従って生きるために、御子を遣わされました。イエス様は神様のルールをすべて実行し、成就してくださいました。このようなことができるのは、イエス様だけです。ですから、イエス様は、神様との関係において、神様に完全に忠実であった唯一の方です。(2)その後、イエス様は契約を破った人のように死なれました。

ですから、もしあなたがクリスチャンであっても、あなたと神様との関係は、あなたが神様のルールに従うかどうかではありません。あなたが犯したすべての罪、つまり契約違反は、イエスの十字架の死によって赦されます。それに加えて、神様は、あなたがイエス様と同じように生きたように、あなたを扱います。イエス様の契約上の忠実さをあなたのものとしてみなしてください。イエス様ご自身の義があなたに認められます。

Peter is telling them that the reason they have the Spirit in them and the reason they are God's chosen people is because God the Father planned that they would be made his people and be indwelt with his Spirit in order to obey Jesus through the death of Jesus.

The reason you are a Christian is because God planned it. The reason God has chosen you is because it was part of his will. The reason God's Holy Spirit is in you is because he willed to do it. The reason you live your life in order to obey Jesus is because God planned it. And the reason any of that is possible is because Jesus died in your place on the cross. And now his blood covers you.

Peter remembers when Jesus taught him this. On the night before Jesus was crucified he had a meal with Peter and the rest of the apostles and told them that he was making a new covenant that would be established in his blood.

Read about when Jesus described his death as the atoning sacrifice for the new covenant in Matthew 26:26-28.

When God looks at you as you are sinning, if you have faith in Jesus, God sees you sprinkled with the blood of Christ and thus his wrath passes over you. There is no wrath from God for Christians. You only always get love from God because Jesus bore God's wrath in our place.

If you are a Christian, if you are indwelt with God's Spirit and are trying to follow Jesus, then nothing in your life is condemnation or wrath from God. God is not mad at you, ever.

So God establishes a relationship with you and he sets a fail-proof plan for you to never fall out of the covenant relationship. (1) He does that sending his Son to live according to his covenant. Jesus fulfilled all of God's rules. He's the only person ever to do that. So he is the only person who was ever perfectly faithful to God in his relationship with him. (2) Then Jesus died as if he was a covenant breaker.

So if you are a Christian, your relationship to God is not based on your obedience to his rules. All of your sins—your covenant breaking—is forgiven through Jesus death on the cross. Then, in addition to that, God treats you as if you lived as Jesus lived. He reckons the covenant faithfulness of Jesus to you. Jesus' own righteous record is imputed to you.

このことは、使徒パウロがコリント第二5:21、ローマ3:20-26、ガラテヤ2:16で明確に書いています。これらの文章に目を通し、以下の質問について考えてみてください。(1) 神様は、罪人のために何をしてくださいましたか。(2) 神様がイエス・キリストになされたことにより、私はどのような理由で神様に受け入れられますか。(3) イエス様を信じると、神様は私のことをどのように考えてくださるのでしょうか。

神様の愛を受けられなくなる罪はただ一つ、不信仰の罪です。もしあなたが、イエス・キリストにおいて神が罪人のためにしてくださったことについてのこの良い知らせを信じないなら、あなたは神の愛を受け取ることができません。

それ以外には、神様との関係を絶つような罪はありません。あなたのコントロール外のです。考えてみてください、あなたが神様のものであるのは、神様がそうなるように計画されたからです。あなたはその計画を立つことに何の貢献もありませんでした。だから、あなたがそれを台無しにすることはできません。神様はあなたを愛しています。神様はあなたを愛しています。神様はあなたを愛しています。神様はあなたを愛しています。

ここで注目していただきたいことがあります。2節では、三位一体の3つの位格のことが言及されています。

父、子、聖霊です。真の唯一の神は三位一体です。三つの位格で存在する唯一の神です。神は一つの存在であり、三つの位格である。父は神である。子（イエス）は神である。御霊は神である。神は唯一無二である。

神は3つの位格で1つの存在であり、三位一体の各位はお互いに等しい。しかし、彼らは異なる役割で活動しています。父は計画を持っておられます。そして、父は救い、導くために御子を遣わします。そして、御子は、私たちが聖なる者とし、御子に従うことを助けるために、御父から聖霊を送って私たちに宿させます。(ヨハネ1:14や17:18など多くの場所で、父が御子を遣わしたことが教えられています。また、ヨハネ15:26は、イエスが父から出る聖霊を遣わしていることを示しています。)

神は三位一体であり、三位一体の三つの位格ともが救いに関わっています。神様はあなたを望んでおられます。神様はあなたを愛しています。

さて、ペテロ第一1:2の最後の文をもう一回読んでみましょう。

ペテロは、私たちが多くの恵みと平安を受けていることをすでに立証しています。

1. 恵みによって、イエス様は私たちと神様との関係を可能にする贖いのいけにえとなってくださいました。
2. 恵みによって、私たちは神様に選ばれました。
3. 恵みによって、私たちは聖霊を受けました。
4. 恵みによって、私たちはイエス様を私たちのリーダーとして与えられました。私たちは、人生の目的と方向性を持っています。
5. そして、イエス様の十字架での贖いのおかげで、私たちは神様との平和を手に入れました。

This is also written clearly by the Apostle Paul in 2 Corinthians 5:21; Romans 3:20-26; and Galatians 2:16. Take some time to read through these texts and think about these questions: (1) What did God do on behalf of sinners? (2) Because of what God did in Jesus Christ, on what basis can I be accepted by God? (3) What does that mean for what God thinks of me if I believe in Jesus?

There is only one sin that you can do that will make you not receive God's love: the sin of unbelief. If you don't believe this good news of what God has done on behalf of sinners in Jesus Christ, then you won't receive God's love.

Other than that, there is no sin you can do that will put you out of a relationship with God. It is out of your control. Listen, you are his because he planned that it would be so. You didn't have anything to do with that. So you can't ruin it. He loves you. He loves you. He loves you. He loves you.

Now, I just want to draw your attention to something. In verse 2 all three Persons of the Trinity are mentioned.

Father, Son, Holy Spirit. The one true God is Triune. There is one God who exists in three persons. He is one being, three persons. The Father is God. The Son (Jesus) is God. The Spirit is God. There is only one God.

God is three in one and each person of the Trinity is equal to each other. But they operate in different roles. Look, the Father has the plan. And he sends the Son to save and to lead. And the Son sends the Spirit from the Father to indwell us to make us holy and help us obey the Son. (John 1:14 and 17:18 and many other places teaches that the Father sent the Son. And John 15:26 shows that Jesus sends the Spirit who proceeds from the Father.)

God is Triune and every person of the Trinity is involved in salvation. God wants you. God loves you.

Now read the last sentence of 1 Peter 1:2 one more time.

Peter has already established that we have received a lot of grace and peace.

1. By grace Jesus was the atoning sacrifice that makes our relationship with God possible.
2. By grace we have been chosen by God.
3. By grace we have received the Holy Spirit.
4. By grace we have been given Jesus to be our leader. We have purpose and direction in life.
5. And because of Jesus' atonement on the cross we have peace with God.

このことについて考えてみましょう。ペテロはなぜ、もっと恵みと平安があるようにと祈っているのでしょうか。私たちは何のために神様の恵みが必要なのでしょう？ 2つ以上の答えを考えてみてください。

ここでは、私たちが恵みと平和を必要とする3つの方法をさらに紹介します。

1. 私たちがイエス様に従うためには、神様からの恵みが必要です。私たちはまだとても罪深いので、イエス様に従うのを助けるために、神様の御霊が必要です。私たちがアイデンティティに従って生きるためには、神様からの恵みが必要です。この世界や文化の中で、人と違うことをするのは難しいことです。私たちは神様の助けを必要としています。

2. 私たちは、神様だけでなく、お互いに平和が必要です。私たちは寄留者です。寄留者であることは、非常に孤独な経験です。しかし、教会として、私たちは共に寄留者です。私たちはお互いを必要としています。つまり、私たちはお互いに和解決し、愛し合い、イエス様に従うように指示し続ける努力が必要なのです。

3. 私たちは周りの世界との平和を必要としています。私たちは寄留者ですが、まだ連れて行かれた同じ土地に住んでいます。ですから、自然に敵意が存在しています。つまり、私たちが社会と平和に暮らすためには、神様の助けが必要なのです。

また、ペテロが「ますます豊かに」と言っていることにも注目しましょう。イエス様に従うことや人との平和のための恵みは、あなたが今思っているよりも指数関数的に増やして必要です。

これは私たちがいつも祈るべきことです。「神様お願いします。私を助けてください。私は情欲に燃えないように、あなたの恵みが必要です。噂話をしないように、あなたの恵みが必要です。他の人を励ましたり、自分のことを高慢に考えたり、自分を哀れむようなことをしない人間になるために、あなたの恵みが必要です。そして、職場の人間関係、家族関係、友人関係に平安を与えていただきたいのです。そして、私の家族や友人、同僚を救っていただくことが一番の良い方法です。どうか私を助けてください！」

時間をとって、このような祈りをしてみましょう。自分が必要としていることを神様に正直に伝えましょう。心の貧しいものとなってください。神様だけが、あなたや他の誰かを救うことができます。

Think about this: Why does Peter pray that they would have more grace and peace? What do we need God's grace for? Think of at least 2 answers.

Here are three more ways we need grace and peace:

1. We need grace from God to help us obey Jesus. We are still very sinful and we need God's Spirit to help us obey Jesus. We need grace from God to help us live according to identity. It is difficult to stand out and be different in this world and this culture. We need God's help.

2. We need peace not just with God but with each other. We are exiles. To be an exile is an extremely lonely experience. But, as the church, we are exiles together. We need each other. Which means we need to work hard to stick together and love each other and keep directing each other to follow Jesus.

3. We need peace with the world around us. We are exiles, but we still live in the same land from which we were exiled. So, there is a natural enmity that exists. That means we need God to help us live in a peaceful way with the rest of society.

Also it is important to notice that Peter says, "multiplied." ますます豊かに。 You need grace to follow Jesus and peace with others exponentially more than you currently think you do.

This should be our prayer always. "God please! Help me. I need your grace to not lust. I need your grace to not gossip. I need your grace to be someone that encourages others and doesn't think about myself in either a prideful way or a self-pitying way. And I need you to give peace to my working relationships, my family relationships, my friendships. And the best way that could happen is if you would save my family and my friends and my coworkers. Please help me!"

Take some time and pray a prayer like this. Be honest with God about your need. Be desperate and needy. He alone can save you and anyone else.

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. クリスマンが周囲の文化と異なる点を10個以上リストアップしてください。
2. 地域の教会の一員であることが良いとされる理由を5つ以上考えてください。
3. 自分の周りの文化と違うことが怖いと思うことはありますか？ なぜそれが怖いのですか？ 話し合いの最後に、神様が私たちの恐れや心配を、神様の良い計画に対する謙虚な信頼に変えてくださるよう、一緒に祈りましょう。
4. どの聖句を覚えようと思いましたが？ なぜその聖句なのでしょう？ その節を暗記することができましたか？ 暗記できなかった場合、グループで手伝える方法がありますか？
5. この学習をした後、あなたの人生が変わってほしいと思うことは何ですか？ もっと深く信じたいと思う真理がありますか？ あなたが始めたい、または止めたいと思っている行動はありますか？ これらの目標に対して、グループはどのような手助けができますか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. Make a list of at least 10 ways Christians are different from the surrounding culture.
2. Think of at least five reasons it is good to be part of a local church.
3. Is there any way you are scared of being different from the culture around you? Why is this scary? At the end of discussion spend time praying together for God to replace our fears and worries with humble trust in His good plan.
4. What verse did you choose to memorize? Why that verse? Have you been able to memorize it? If not, is there a way the group can help?
5. After doing this study, what is one way you want your life to be different? Is there a truth you want to believe more deeply? Is there a behavior you want to start or stop? How can the group help you with these goals?

Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

1:3-12
新しく生まれた

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

1:3-12
Born Again

事前の勉強

1:3-12を読んで、この質問に答えてください。この節で、神様は私たちが救うために何をされましたか、何をされていますか、そしてこれから何をされますか。この部分をプリントアウトして、神様が人々を救うためにしてくださったことをすべて丸で囲んだり、ハイライトしたり、下線を引いたりすることをしてみてください。

ヨハネの福音書 3:1-21 を読んでください。これらの質問について考えてみましょう。この箇所によると、新しく生まれるとはどういうことですか。どのようにして人は新しく生まれるのですか？

学び

この学びでは、手紙の本文に入ります。1:3から始めて、1:12までを学びます。

前回の学びでは、ペテロの挨拶について学びました。この手紙が誰からのもので、誰に対して書かれたということがわかりました。この手紙は、イエス様が最初に遣わされた12人の使徒の一人である使徒ペテロからの手紙です。そして、小アジアの複数の教会に書きました。ペテロは、これらの教会のクリスチャンを「寄留している選ばれた人たち」と呼んでいます。この言葉は、彼らが神に選ばれた存在であると同時に、この世から拒絶された存在であることを意味しています。これは、クリスチャンであることの意味です。私たちは、神様に選ばれていると同時に、世や文化の価値観に拒絶されています。私たちは、イエス様に従い、イエス様の十字架での贖いの御業によって、神様の新しい契約の民の一員となるために、神様の御霊によって聖なる者とされます。

新約聖書はもともとギリシャ語で書かれました。この手紙の部分では、ギリシャ語で5つの文章がありますので、それぞれの文章を順番に見ていきます。

Pre-Study:

Read 1:3-12 and answer this question: In these verses, what has God done, what is God doing, and what will God do to save us? Consider printing out this section of Scripture and circling/highlighting/underlining all that God does to save his people.

Read John 3:1-21. Think about these questions: According to this passage, what does it mean to be born again? How does someone become born again?

Study:

This study will get into the body of the letter. We will start at 1:3 and go through 1:12.

The previous study was about Peter's greeting. It established who the letter is from and who it is too. This is a letter from the Apostle Peter, one of Jesus' original 12 apostles. And it is to multiple churches in Asia Minor. Peter calls the Christians in these churches "Elect Exiles." This phrase means that they are simultaneously chosen by God and rejected by the world. This is what it means to be a Christian. We are chosen by God and rejected by the values of the world and the culture. We are made holy by God's Spirit in us in order to be members of his new covenant people through obeying Jesus and through his work of atonement on the cross.

The New Testament was originally written in Greek. In this section of the letter there are 5 sentences in the Greek, so we will look at each sentence in order.

最初の文章は1:3-5です。

ペテロは、これらの教会への手紙を、神を賛美することから始めます。このように始めるのは、この5つの文の中で、神様が私たちが救うためにしてくださったこと、してくださっていること、してくださるであろうことのすべてを語っているからです。

では具体的に、なぜペテロは、そして私たちは神を賛美するのでしょうか？

それは、神が私たちがあわれんでくださったからです。

神様の前に出るとき、私たちはあわれみを非常に必要としています。あわれみは、あわれな人に与えられるものです。私たちが神の前に立つとき、神は裁きで対応することができます。（そして、神様はそうすると、それは正しい対応です。）それとも、あわれみをもって対応されるかです。そして、神は私たちにあわれみを与えることを選びました。

そして、神様のあわれみは効果的です。私たちの罪を許したり、ただあわれな状態のままにしておくのではなく、神が私たちがあわれんだからこそ、私たちが新たに生まれ変わらせてくださるのです。

イエス様も新しく生まれることについて語られました。ヨハネの福音書3章3節を読みましょう。新しく生まれるとは、どういうことですか？ 新しく生まれると、人はどうなるのでしょうか？

聖書が「新しく生まれる」と言っているのは、私たちが生活の中で行う道徳的な改革のことではありません（ただし、それは新しく生まれたことによる結果かもしれません）。また、生活の習慣を変えることでもありません（けれども、結果的にはそうなるかもしれません）。また、ある信念を否定して新しい信念を受け入れるという個人的な決断のことでもありません（これは確かに新生の結果です）。また、宗教的な儀式を受けることでもありません（ただし、バプテスマは新生で何が起こるかを示すものです）。

The first sentence is 1:3-5.

Peter begins his letter to these churches by praising God. He begins this way because in these 5 sentences he talks about all that God has done, is doing, and will do to save us.

So, specifically, why does Peter, and why do we praise God?

Because he has mercy on us!

When confronted with God, we have a great need for mercy. Mercy is given to people who are pitiable. When we are before God he can either respond with judgment, which would be just. Or he can respond with mercy. And God chose to give us mercy.

And God's mercy is effective. He doesn't excuse our sin or just leave us in a pitiful condition, but because God has mercy on us he causes us to be born again.

Jesus also talked about being born again. Read John 3:3. What does it mean to be born again? What happens to a person when they are born again?

When the Bible speaks about being born again it is not talking about a moral reformation that we do in our lives (although that might result from the new birth). It is not talking about changing your habits in life (although this might be a result as well). It's not even talking about your own personal decision to reject a certain set of beliefs and accept a new set of beliefs (although that is a product of the new birth). It is not about undergoing religious ceremonies (although baptism does give a picture of what happens in the new birth).

聖書で「新しく生まれる」と言っているのは、神があなたの魂を再生させる受動的な経験のことです。それは完全に神によって成し遂げられるものです。ペテロはこれを、慈悲深い神の出産という言葉で表現しています。神は、哀れな状態の私たちを見て、私たちが新しくすることにしました。そして、私たちへのあわれみのゆえに、私たちが新しく生まれさせてくださるのです。

3節によると、新しく生まれさせるとどうなるのか？

希望を受けるのです。「生ける望みを持たせてくださいました。」と書かれています。

クリスチャンになる前の私たちは、絶望的でした。私たちの未来には明るいものは何もありませんでした。死と永遠の裁きで終わるだけです。日々の生活の中で、自分の心を愛すべき人間に変えていくという希望もありませんでした。しかし、神様は私たちがあわれんでくださいました。

それはどのようなことだったのでしょうか。

もう一度、3節によると、私たちが裁くべき神様が私たちがあわれんで、私たちが新しく生まれさせ、希望を持たせることがどうしてできるのでしょうか。

それは、「イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによるのです。」

ペテロが「死者の中から」と言っているのは面白いですね。人が復活できる状態は死以外にはありません。しかし、ペテロはその明白な事実注目し、神のあわれみが、私たちの代わりにご自分の御子を死なせ、私たちが受けるべき正しい裁きを受けさせたことを思い出すようにしています。

そして、イエス様は死からよみがえられました。そして、イエス様の復活は、イエス様の死の達成を証明するだけでなく、希望といのちを与えるものでもあります。

When the Bible talks about being born again it is talking about the passive experience where God regenerates your soul. It is accomplished completely by God. Peter puts it in terms of a merciful divine birthing. God saw us in a pitiable state and decided to make us new. And so because of his mercy on us, he causes us to be born again.

According to verse 3, what happens when you are born again?

You receive hope. It says *“born again to a living hope.”*

Before becoming a Christian we were hopeless. There was nothing bright about our future. It would only end in death and then eternal judgement. There was no hope in our daily life for changing our hearts to be loving people. But God had mercy on us.

How did he do that?

Again, according to verse 3, how is it possible for God, who ought to judge us to have mercy on us to cause us to be born again, and thus give us hope?

It is *“through the resurrection of Jesus Christ from the dead.”*

It's funny that Peter says, “from the dead” because there is no other state from which someone can be resurrected except death. But he draws attention to that obvious fact so that we remember God's mercy resulted in him sending his own Son to die in our place and take the just judgment we deserve.

Then Jesus rose from the dead. And Jesus' resurrection not only validates the accomplishment of Jesus' death, but it also gives hope and life.

神様は、イエス・キリストの復活によって、私たちを新しく生まれさせてくださったのです。イエス様の復活は強力です。2,000年前にイエス様が死なれたとき、イエス様はあなたの命を代償にしました。あなたの代わりに死んでくださったのです。そして、今、あなたに新しい命を与えるために復活されたのです。

それはどのようにしてなされたのでしょうか？ 2,000年前のイエス様の死と復活は、どのようにして今の人々の人生に結果をもたらすのでしょうか？

それは、聖霊によるものです。

イエスは、ヨハネ3章で新生について語り続けた。5節では、新生は聖霊の力によって起こると言っています。

ここでもペテロは、救いにおける三位一体の役割を示しています。神は父、子、聖霊であり、それぞれの役割に応じて、常に互いに完全に服従して行動しているのです。父は私たちをあわれんでくださいます。だから、そのあわれみで御子を送り、死んでよみがえらせます。

そして、イエス様の死と復活の力を私たちに適用するために聖霊が遣わされ、私たちが古い罪の人生に死んで、神様のために生きる新しい人生に新しく生まれるようにされます。

では、新生したときに希望を受け取ったのであれば、私たちの希望は何でしょうか。4節を見てください。

私たちに与えられている希望とは、天における相続です。ペテロは、この相続財産を、(1)朽ちることのない、(2)汚れることのない、(3)消えていくことのない、(4)天に蓄えられている、(5)あなたのために、と表現しています。

- 朽ちることのない：この相続財産は不滅であり、決して分解したり消滅したりすることはありません。
- 汚れることのない：完全に純粋である。あるべき姿にならない部分はありません。完全なのです。

It is through the resurrection of Jesus Christ that God has caused us to be born again. Jesus' resurrection is powerful. 2,000 years ago when Jesus died, he paid for your life. He died instead of you. And then he rose to give you new life now.

And how does he do that? How does Jesus' death and resurrection 2,000 years ago produce results in people's lives now?

By the Holy Spirit.

Jesus continued to talk about the new birth in John 3. In verse 5 he says that the new birth happens by the power of the Holy Spirit.

So again, Peter is showing the roles of the Trinity in salvation. God is Father, Son, and Holy Spirit, and they are always acting in perfect submission to one another according to their different roles. The Father has mercy on us. So in his mercy he sends the Son to die and rise.

And then the Spirit is sent to apply the power of Jesus' death and resurrection to us so that we die to our old life of sin and are reborn to a new life that lives for God.

Then, if we received hope when we were born again, what is our hope? Look at verse 4.

The hope that we have been given is inheritance in heaven. Peter describes this inheritance as being (1) imperishable, (2) undefiled, (3) unfading, (4) kept in heaven, (5) for you.

Imperishable: This inheritance is indestructible and it will never decompose or disappear.

Undefiled: It is totally pure. There is no part of it that will not be what it ought to be. It is perfect.

- ・消えていくことのない：永遠に続きます。
- ・天に蓄えられている：相続の時が来るまで、見守られ、保持されています。
- ・あなたのため：相続者はあなたです。それは私たちです。他の人には行きません! 私たちが相続します。

それはとても素晴らしいことです。しかし、この相続とはなんでしょう?

相続資産はいろいろありますが、この箇所でもっと重要で、最もはっきりしているのは「救い」です。

救いとは、キリスト教ではよく言われる言葉ですが、救いとは何でしょうか? 7節の後半を見てください。

救いとは、神と一緒にいるということです。そして、それはイエス様が戻ってくるときに起こることです。イエス様は、私たちが待ち望んでいる方です。私たちは、イエス様に会いたいです。イエス様と一緒にいたいです。そして、イエスが帰ってくるのを待っています。

資産は不滅で、絶対に待つ価値があります。そして、私たちは新しく生まれたので、今はイエス様への望みと希望を持っています。

しかし、私たちがクリスチャンとして一生を耐え忍び、資産を受け取ることができると、どうやって確信できるのでしょうか?

5節をもう一度読んでみましょう。誰の力と守りによって、私たちは信仰を持つことができるのでしょうか。

ペテロは、私たちの信仰が、救いが最終的に得られ、イエス様に会うまで持続するのは、神の力によるものだと言っています。

Unfading: It lasts forever.

Kept in heaven: It is being watched over, guarded, held until the time of inheritance is to come.

For you: The inheritor is you! It's us! It won't go to someone else! We get the inheritance.

That sounds pretty great. But what is the inheritance?

It's a lot of things, but most importantly and most clearly in this passage, it is salvation.

Salvation is a word we say a lot in Christianity, but what is salvation? Look at the second half of verse 7.

Salvation is being united to God. And that is what will happen when Jesus comes back. Jesus is what we are looking forward to. We want to see Jesus. We want to be with Jesus. And we are waiting for him to come back.

The inheritance is indestructible and absolutely worth waiting for. And we have been born again so that now we have desire for and hope in Jesus.

But how can we be sure that we will persevere and last our whole life as Christians and receive the inheritance?

Read verse 5 again. By whose power and protection do we keep our faith?

Peter says that it is by God's power that our faith will persevere until salvation is final and we are united to Jesus.

では、私たちの改心は神の力によるものです。そして、私たちが耐え忍ぶ信仰は、神の力によるものです。そして、耐え忍んだ後に受ける資産は、保証された永遠のものです。つまり、神様は私たちを選び、保証された救いに導いてくださったのです！

だからこそ、ペテロは神を賛美することから始めるのです。

次の文章は、6節と7節です。

神様が私たちのために成し遂げてくださった救いについて考えるとき、私たちの反応は喜びです。しかし、私たちは救いの喜びを持つと同時に、人生を通じて経験する試練の中で悲しむこともあります。

クリスチャンの人生は、完全な喜びの経験でも、完全な悲しみの経験でもありません。いつも両方なのです。私たちは絶望から希望へと救われたので、完全な悲しみに陥ることはありません。しかし、まだ完全に救われたわけではないので、私たちはまだ罪を犯しており、それは悲しむべきことです。また、私たちはまだ他の人に罪を犯され、それは傷つけられます。また、世界には悲しむべき恐ろしいことが絶えず起こっていますから、悲しみます。

このような苦しみの中にあっても、ペテロが言うように「しばらくの間」であるからこそ、希望があるのです。ここでは、イエス様が再臨されるまでの私たちの人生全体のことを言っています。70～90年（これ以上場合もある！）生きることができるかもしれませんが、永遠に比べれば、ほんの少しの間です。

永遠のことを考えてみてください。あなたがこれまでに生きてきた年月や、世界やあなたの人生に起こったすべての変化について考えてみてください。さて、その時間を2倍にしてみましよう。そしてまたその倍です。それは長い人生のように思えます。想像できますか？ では、その3倍の時間を考えてみてください。

500年生きてても、終わりがないので、まるで時間が経っていないかのようです。このように、私たちが経験している試練は、私たちを悲しませますが（中には非常に深い苦しみもあります）、それは救いを待ち望む喜びと同時に持つものなのです。

So, our conversion is by God's power. And our faith to persevere is by God's power. And the inheritance that we will receive after persevering is guaranteed and eternal. So God has chosen us and brought us into a guaranteed salvation!

That's why Peter begins by praising God.

The next sentence is verses 6 and 7.

When we think about the salvation that God has accomplished for us our response is joy. But at the same time that we have joy in salvation, all throughout our life we also grieve in the trials we face.

The Christian life is neither an experience of complete joy nor utter grief. It is always both. We have been saved from despair to hope so we are never in utter grief. And yet we are not completely saved yet so we still sin, which is grievous. And we are still sinned against, which is hurtful. And there are still horrible things constantly happening in the world that cause us to grieve.

Even in the midst of this suffering, there is hope because as Peter says, it is only for a "little while." Here he is talking about our entire life before Jesus returns. You might live 70-90 years (or longer!), but it is still just a little while when compared with eternity.

Think of eternity. Think about the years you have lived so far and all the change that has taken place in the world and in your life. Now double that time. And double that again. That seems like a long life. Can you imagine? Now think about triple that amount of time!

Even after living 500 years, it will be as if no time has passed at all because there is no end! So, the trials that we face now do grieve us (some very deeply), but it is mixed with joy as we look forward to salvation.

そして7節では、試練の理由を説明しています。なぜ私たちの人生には苦しみがあるのか？なぜ困難なことがあるのか。私たちが経験する悪には目的があるのでしょうか？はい、あります。

ペテロは、私たちの信仰に関わる苦しみの理由を説明しています。ですから、これは一般的に「なぜ悪があるのか？」という大きな疑問に答えているわけではありません。むしろ、これはこの質問に答えているのです：「神の力で新しく生まれて、神の力で信仰が支えられているのなら、なぜキリスト教生活を送る中で苦しみがあるのか？」

7節を見ると、信仰と苦しみの関係はどうなっているのでしょうか。

私たちの信仰が耐え忍ぶためには、それが試され、本物であると認められなければなりません。ペテロは、金が火で焼かれて粗悪品になってしまうことの例を使っています。金が美しくなるためには、金に付いている不要な鉱物が焼き払われなければなりません。ペテロは、私たちの信仰は金よりも高価があると言っていますが、それは金が滅びるからです。

つまり、試練は私たちの信仰を清めるためにあるのです。それはどういうことでしょうか？

信仰とは、イエス様に頼ることです。自分がイエス様に救われる必要があることを認め、イエス様の救いを受けることです。ですから、信仰の敵は、自律性、つまり自分自身への頼ること、自信です。自信をなくし、イエス様への信頼に変えるために、私たちの人生には試練が起こります。これもまた、神が信仰によって私たちを救いに導くための方法なのです。

私たちが生涯にわたって信仰を持ち続け、それによってイエス様が信仰に値する方であることを示す結果、イエス様とクリスチャンに賛美と栄光と名誉がもたらされるのです。

これがペテロが神を賛美する2つ目の理由で、神が私たちの苦しみに目的を与えてくださるからです。無意味なものは何もないということは、慰めになります。

Then in verse 7 he gives a reason for the trials. Why do we have suffering in our lives? Why are there difficult things? Is there a purpose for the evil that we experience? Yes.

Peter gives the reason for suffering as it pertains to our faith. So this is not necessarily answering the great question of "Why is there evil?" Rather, this is answering the question: "If I am born again by God's power and my faith is supplied by God's power, why do I still suffer as I live the Christian life?"

Looking at verse 7, what is the relationship between faith and suffering?

If our faith is going to persevere, it must be tested and found genuine. Peter uses the metaphor of gold having the dross burned away in fire. The only way for gold to be beautiful is if the unwanted minerals formed on it are burned away. Peter says that our faith is more precious than gold because gold perishes.

So trials are for the purpose of purifying our faith. How does that work?

Faith is dependence on Jesus. It is acknowledging our need for him to save us and receiving his salvation. So the enemy of faith is autonomy or self-dependence, self-confidence. Trials happen in our lives to get rid of self-confidence and replace it with confidence in Jesus. This also is the means by which God guards us through faith for salvation.

The result of us keeping our faith throughout our lives and thus showing Jesus to be worthy of faith is praise and glory and honor for Jesus as well as Christians.

That's the second reason Peter praises God; because he gives purpose to our suffering. It is a comforting thought to know that nothing is pointless.

神様は、あなたがクリスチャンになったときと同じ状態であることを望んでおられません。神はあなたの聖なるさに関心を持っておられます。あなたがよりイエスに似ることを望んでおられます。私たちがより謙虚で、より愛に満ちた者になることを望んでおられます。ですから、神様は私たちの信仰を完成させるために、愛をもって私たちの人生に困難を与えてくださいます。

次の文章は8-9です。

これは、「神が生み出すような信仰を持っているかどうか、どうやって知ることができますか?」とか、「本当に新しく生まれたとどうやって知ることができますか?」とか、「その最終的な救いを得るとどうやって知ることができますか?」という質問に答えている部分があると思います。

8節で、ペテロは真の信仰の3つの側面を述べていますが、それは何でしょうか。

第一に、真の信仰とは、イエス様を愛する信仰です。あなたはイエス様を愛していますか? 一度も見たことがなくても? 1世紀の教会には、イエス様を見たことのない人がたくさんいました。私たちは時々、「もし1世紀に生きていたら、私はもっと良いクリスチャンになっていただろう。私の信仰はもっと強かっただろう。彼らはイエス様とイエス様がなさったことの全てを見たから今よりも簡単だっただろう」と思うことがあります。そうではありません。キリスト教は急速に広まっていったので、すぐに何千人もの人々がイエスのしたことを何も見ていませんでした。しかし、彼らは彼を愛しました。

見たことのない人を愛することがどれほど不思議なことかわかりますか? 本当に不思議ですよ。あなたはイエスを愛していますか?

次に、彼を信じているかどうか。これは信頼の一面です。ここでのギリシャ語は、実際には "信仰" です。ギリシャ語の原稿では、「彼に信仰する」と書かれています。これは、イエス様に信頼を置くことです。彼はあなたの信頼に絶対的に値する人だと思いますか? 彼は自分の言葉を実現してくれると思いますか? 彼はあなたの救いを本当に成し遂げ、それは信頼できると思いますか? 彼の命令は従うに値すると思いますか?

God does not want you to stay the same way you were when you became a Christian. God is interested in your holiness. He wants you to be more like Jesus. He wants us to be more humble and more loving. So God lovingly puts difficulties in our lives in order to perfect our faith.

The next sentence is 8-9.

I think this is partly answering the question, "How can I know if I have the kind of faith that is produced by God?" or "How can I know I'm really born again?" or, "How can I know I will obtain that final salvation?"

In verse 8, What are the three aspects of true faith that Peter gives?

First, true faith is faith that loves Jesus. Do you love Jesus? Even though you have never seen him? The church in the first century was full of people who had never seen Jesus. Sometimes we think, "If I had lived in the first century I would be a much better Christian. My faith would be much stronger. They saw Jesus and everything he did. It would be so much easier than now." That's not true. Christianity spread rapidly and so immediately there were thousands of people that never saw anything Jesus did. But they loved him.

You know how weird it is to love someone you have never seen? It's really weird. Do you love Jesus?

Next, do you believe in him? This is an aspect of trust. The Greek word here is actually "faith." And in the Greek text it says "believe in him." This is a putting trust in Jesus. Do find him to be absolutely worthy of your trust? Do you think he will fulfill his word? Do you think he really accomplished your salvation and it is reliable? Do you think his commands are worthy of being obeyed?

第三に、あなたはイエス様を喜んでいますか？ これは、いつも喜びだけではありません。しかし、イエス様のことを考え、イエス様があなたのためにしてくださったことを考え、イエス様が戻って来るときに会えることを考えるとき、あなたは喜びますか？ 嬉しいですか？ 「信じられない！ イエス様が私を救ってくださった。イエス様はすごい！ 彼に会える！」と書いていませんか？ 「イエス様を見るとき、駆け寄って、足元に身を投げ出して礼拝しようと思う」と思うことはありませんか？

ペテロは、私たちが経験するこの喜びは、実は私たちが手にする最終的な栄光を少しだけ味わっているのだと言います。だからこそ、言葉にならない喜びがあるのだと思います。(実際、日本語訳にもあるように、ギリシャ語では、私たちが喜んで踊っている姿が描かれています。) イエス様と一緒にいるときの喜びは、言葉では言い表せません。私たちは、喜びのあまり踊り出すのを止めることができないほどになります。そして、私たちが今、イエス様の素晴らしさを思うときに感じている喜びは、イエス様が戻って来るときに永遠に続くようなものであることの一例です。

9節でペテロは、このような信仰が真の信仰であると言っています。これは救いの信仰です。もしあなたがイエス様を愛し、イエス様を信じ、イエス様を喜ぶなら、あなたは新しく生まれたのです。そして、他の時ほど喜びや愛がない時もありますが、完全になくなることはありません。

最後の2つの文を一緒に見ていきましょう。10~11が一つの文で、12が最後の文です。

ここでは、聖書の性質について少しお話する必要があります。

まず、聖書とは何でしょうか？

何かを聖書とするのは、それが神によって吹き出されたものであるかどうかです。聖書とは、神様の言葉です。

テモテへの手紙第二3:16を読んでください。

Third, do you rejoice in Jesus? This is not only joy all the time. But when you think about Jesus and what he has done on your behalf, and when you think about seeing him when he comes back, do you get excited? Are you glad? Do you find yourself saying, "I can't believe it! Jesus saved me! Jesus is amazing! And I'm gonna see him!" Do you ever think, "When I see Jesus I am going to run to him and throw myself on the ground at his feet and worship him!"

Peter says this joy that we experience is actually a little taste of the final glory that we will have. I think that's why the joy is inexpressible. (Actually, as the Japanese translation reflects, the Greek pictures us dancing we're so happy!) There are no words to describe what it will be like to be with Jesus. And the joy that we feel now when we think about his goodness is a taste of what it will be like constantly forever when he comes back.

In verse 9 Peter says this kind of faith is true faith. This is saving faith. If you love Jesus, believe in Jesus and rejoice in Jesus then you have been born again. And there are times when we don't have as much joy and love as other times, but it's never totally gone.

The last two sentences we will look at together. 10-11 is one sentence and then 12 is the last sentence.

Here we need to talk about the nature of scripture a little bit:

First, what is scripture?

What makes something scripture is if it is breathed out by God. Scripture is God's words.

Read 2 Timothy 3:16

「神の靈感による」は、あるギリシャ語の複合語の翻訳です。その言葉は「テオプネウストス」。この言葉の前半はテオです。これはギリシャ語で「神」を意味します。2つ目の単語は「プネウストス」です。この言葉は、「霊」「息」「風」を意味する「プネウマ」という言葉と似ている意味です。これらの言葉を合わせると、「神が息した」という意味の言葉になります。あるいは、新解約2017では、「聖書はすべて神の靈感によるものです」とも言えます。

つまり、パウロはここで、すべての聖書は神によって息を吹き込まれたものであるから、聖書であると語っているのです。それは神の言葉です。聖書は神の言葉です。

第一ペテロ1:11では、聖霊が預言者たちの中でキリストを予言していたと書かれています。これも同じことですね。また、この箇所では、聖書、特に旧約聖書について語っています。聖書とは、聖霊によって人を通して神の言葉で語られる神からの啓示です。

(注: また、ここでは聖霊はキリストの霊と呼ばれているので、ある意味、三位一体の性質上、イエスは旧約聖書の預言者たちを通してご自身の苦しみと栄光を予言していたことになりま

す)。
ヨハネの福音書10章35節を読んでください。

第二に、私たちは聖書が破りのないものであり、誤りがないことも信じています。ヨハネの福音書10章35節では、イエス様ご自身が「聖書は廃棄されることはありません」と言っています。

第一ペテロ1:11、マタイ5:17、ルカ24:26-27、ヨハネ5:39-40を読んでください。

第三に、聖書はすべてイエス様について書かれていることを知る必要があります。聖書の主なテーマはイエス様です。聖書は、私たちについてのもではなく、私たちのためのものです。聖書は、神様がキリストを通して、罪人のために何をしてくださったかについて書かれています。私たちが聖書を読むときにいつも考えなければならないことは、「これはイエスについて何を言っているのだろうか?」ということです。

第一ペテロ1:10をもう一度読んでみてください。

“Breathed out by God” is the translation of one Greek compound word. The word is *theopneustos*. The first half of the word is *theo*. This is the Greek word for “God.” The second word is *pneustos*. This word is related to the same word for Spirit, breath, or wind; which is *pneuma*. So if you put these words together you get a word that means “God-breathed.” Or, as 新解約2017 translates this, you could say, “all is Scripture is according to God’s Spirit.”

So Paul here says that all scripture is scripture because it is breathed out by God. It is God’s word. That’s what makes something scripture.

In 1 Peter 1:11 it says that the Holy Spirit in the prophets was predicting the Christ. So this is the same thing. This passage is also talking about scripture and specifically the Old Testament. Scripture is revelation from God spoken with God’s words through people by the Holy Spirit.

(Note: Also the Holy Spirit is called the Spirit of Christ here so in some sense, because of the nature of the Trinity, Jesus was predicting his own suffering and glory through the Old Testament prophets.)

Read John 10:35

Second, we also believe scripture to be infallible and without error. In John 10:35 Jesus himself says, “Scripture cannot be broken.”

Read 1 Peter 1:11; Matthew 5:17; Luke 24:26-27; John 5:39-40

Third, it is necessary to know that all of Scripture is about Jesus. The main topic of the Bible is Jesus. The Bible is not about us, but it is for us. The Bible is about what God has done on behalf of sinners through Christ. This is what we should always be thinking when we read the Bible, “What is this saying about Jesus?”

Reread 1 Peter 1:10

第4に、聖書は複雑です。理解できないわけではありませんが、理解するために努力が必要です。聖書を預言した預言者たちは、自分たちの言っていることを理解しようと努力しました。もしあなたが聖書を理解するのが難しいと感じたことがあるなら、それはそうだからです。時間をかけて勉強することが必要です。そして、それは価値のあることなのです。前回の学びでは、この手紙の最初の2節だけを学びました。聖書をゆっくり読み、メモを取りましょう。

自分自身に、「著者は何を言おうとしているのか」と問いかけてください。その質問にできるだけ答えることで、あなたはこの本の中で驚くべきことを発見し始めるでしょう。

12節です。私たちは、今の時代に生きていることに大きな特権を持っています。旧約聖書の信者たちは、キリストが誰であるかを知りませんでした。彼らは、ナザレのイエスが自分たちの救い主であることを、死んでから初めて知ったのです。聖書のメッセージである福音は、私たちのためのものです。私たちが休業の時代のイスラエルに住んでいたなら、もっと有利になるわけではありません。現代に生きている私たちは、イエス様が誰なのか、十字架で何をされたのか、どうやって私たちを救ってくださったのかを知っています! 今は、唯一の真の神への信仰を持つための、歴史上最高の時なのです。

最後にもう2つの伝えたいことがあります。

10節では、救いの特徴として、神が私たちに対して持っている恵みを与えています。「あなたへの恵み。」それが救いなのです。救いというのは、神様と一緒にいる権利を得るための学習や生活の道ではありません。恵みです。神様は、あなたが価値のないもの、決して自分の力で得ることのできないものを与えてくださいます。

11節では、イエス様の人生のパターンが、まず苦しみ、次に栄光だったことがわかります。神の子は、死んでから復活するために来たのです。これは、イエス様が私たちに招いている人生のパターンでもあります。イエス様が戻ってこられるまでのこの期間は、苦しみの時です。ほんの少しの間です。たった80年です。しかし、私たちは今、苦しみを期待すべきです。人生が困難であることに驚くべきではありません。私たちが罪を犯し、告白と悔い改めをしなければならぬことに驚くべきではありません。他の人々が私たちに対して罪を犯しても、驚くべきことではありません。栄光はやってきます! しかし、それは苦しみの後に来るものです。それが私たちの希望なのです。Fourth, the Bible, scripture, is complicated. It's not impossible to understand, but it does require effort. The prophets who prophesied scripture worked hard to try to understand what they were saying! If you've ever felt like the Bible is hard to understand it's because it is! It

requires you to take time to study it. And it is worth it. In the previous study we only studied the the first 2 verses of this letter!

Read the Bible slow and take notes.

Ask yourself, "What is the author trying to say?" Answer that question as best you can and you will begin to discover amazing things in this book!

Now, verse 12. We have a huge privilege in living in the time we do. The believers in the Old Testament did not know who the Christ was. They never knew that Jesus of Nazareth was their savior until after they died. The message of scripture, the gospel, is for us! It would not be more advantageous if we lived in the Old Testament time in Israel. We know who Jesus is and what he did on the cross and how he saved us! This is the best time in history to have faith in the one true God!

Finally two more things:

In verse 10 it characterizes salvation as grace that God has toward us. Grace to you. That's what salvation is. It is not a path of learning or living to attain the right to be with God. It is grace. God gives you what you don't deserve and what you will never earn.

In verse 11 we see that the pattern of Jesus' life was suffering first, then glory. The Son of God came to die and then rise. This is also the pattern of life that Jesus calls us to. This time before Jesus comes back is a time of suffering. It's just a little while. Only 80 years. But we should expect suffering now. It should not be surprising to us when life is difficult. It should not be surprising to us when we sin and we need to confess and repent. It should not be surprising to us when other people sin against us. Glory is coming! But it comes after suffering. It is our hope.

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. これまでに新生という教義を聞いたことがありますか？ ペテロが述べた新生の特徴（イエスへの愛、イエスへの信頼、イエスへの喜び）を考えると、自分の生活や心の中にこれらを持っていると思いますか？
2. 救いとは、最終的に神様と一緒にいることだと考えるとき、それは幸せなことですか？ それとも、がっかりしますか？ なぜですか？
3. なぜ聖書を読むことが大切なのですか？ 5つの理由を考えてみてください。
4. 聖書を全部読んだことがありますか？ 現在、あなたはどのように聖書を読んでいますか？ 自分が実行している聖書読書計画を持っていますか？
5. 苦しんでいるときには、どんなことを考えたくになりますか？ 苦しみの中で、絶望したくなるようなことはありますか？ どうすれば希望を持ち、喜びを増すことができますか？ 話し合いの後、救いへの希望を持って信仰を続けることができるよう、お互いに祈りましょう。

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. Have you ever heard of the doctrine of the new birth before? When you think about the characteristics that Peter describes for the new birth (love for Jesus, trust in Jesus, and joy in Jesus) do you see these in your own life and in your heart?
2. When you think about salvation ultimately being with God, does that make you happy? Or is it disappointing? Why?
3. Why is it important to read the Bible? Think of 5 reasons.
4. Have you ever read through the entire Bible? What is your current habit of Bible reading? Do you have a Bible reading plan that you follow?
5. What are you tempted to think when you are suffering? Is there anything about suffering that makes you want to despair? How can we keep our hope and increase in joy? After the discussion, pray for each other to continue in faith with hope in salvation.

Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

1:13-2:3

神の家族へようこそ

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

1:13-2:3

Welcome to God's Family

事前の勉強

1:13-2:3を読んでください。この箇所では、神の家族の一員であることについてです。この質問について考えてみましょう：神の家族について、どのような特徴がありますか？

学び

1章の最初の部分で、ペテロは、私たちを救うために神様が私たちのためにしてくださったことをすべて話しました。神様は、イエス様を私たちの罪のために死なせ、死者の中からよみがえらせてくださいました。イエス様が成し遂げてくださった救いを適用するために、聖霊を私たちの心に送ってくださいました。そして、私たちが永遠に神様と共にある最終的な救いに導くことを約束されています。そして、クリスチャンを「寄留している選ばれた人たち」と呼ぶのは、私たちがこの地でくつろぐことはできないが、神に選ばれて永遠に神のものとなるという事実を明らかにするためです。そして、イエス様が戻ってきて、私たちを連れて帰ってくださる日を待ち望んでいるのです。私たちは、社会からも家族からも友人からも拒絶され、地上の寄留者です。しかし、私たちは神に選ばれているので、選民です。

だから、私たちは生ける望みに新しく生まれたのです。私たちには、唯一のまことの神がおられ、神の力と費用によって成し遂げられた恵みによる救いがあり、永遠の家族があり、素晴らしい未来を待ち望んでいるのです。

1章の後半から2章にかけて、ペテロは私たちの希望の現在の意味合いについて話しています。ペテロは、「ですから」という非常に重要な言葉で始めます。聖書の中でこの言葉を読むときはいつでも、立ち止まって、その前に何があったかを考え、著者の論理の筋道を考えるべきです。新約聖書の手紙では、神の救いの真理の後に命令が続くのが一般的です。すなわち、クリスチャン生活の論理は、「これをすれば救われる」とか、「こういう人になれば、神様はあなたを受け入れてくれる」というものではありません。むしろ、「神様は恵みによってあなたを救ってくださいました。あなたの過去を赦し、贖い、未来を変えてくださったのだから、今、この新しい人生の状況を受け取った者として、神様から与えられたものによって生きなさい」ということです。

Pre-study:

Read 1:13-2:3. This section is about being in God's family. What characteristics do you notice about the family of God?

Study:

In the first section of chapter 1 Peter discussed all that God has done on our behalf to save us. He sent Jesus to die for our sins and rise from the dead. He sent the Holy Spirit into our hearts to apply the salvation that Jesus accomplished. And he promises to bring us into final salvation when we will be with God forever. And he calls the Christians "elect exiles" in order to identify the fact that we don't feel at home here, but we are chosen by God to be his forever. And we are looking forward to the day when Jesus will come back and bring us home with him. We are exiles on earth because we are rejected by society, our family, and friends. But we are elect because we are chosen by God.

So we are born again to a living hope. We have the one and only true God, a salvation that is by grace accomplished by God's power and at God's expense, an eternal family, and a wonderful future to look forward to.

In the second part of chapter 1 and into chapter 2 Peter discusses the present implications of our hope. He begins with a very important word "therefore." Anytime you see this in scripture you should stop and think about what came before this and contemplate the author's line of reasoning. It is typical in the letters in the New Testament to have the commands follow the truths of God's salvation. So the logic of the Christian life is not, "Do this and you will be saved." or "Become this type of person and God will accept you." But rather, "God has saved you by grace. He has forgiven and redeemed your past and changed your future, so now in the present, as one who has received this new life situation, live in accord with what God has given you."

それが、この箇所ではペテロが始めたことです。1:13-2:3で、ペテロは主に4つの命令を出しています。そこで、それぞれの命令を文脈に沿って見ていきます。4つの命令とはこうです：(1) イエス様に完全に希望を持つこと、(2) 聖なる者となること、(3) 互いに愛し合うこと、(4) イエス様に完全に希望を持つことです。

最初の命令は、1:13にあります。

1:13を読んでください。「イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい」という命令です。私たちにもたらされる恵みとは、どんなものでしょうか？

1:3-12では、私たちのために天に蓄えている相続資産があることがわかります。それは、私たちがイエス様と一緒にいて、イエス様とともに賛美と栄光と名誉を得る最終的な救いのことです。これは確実にやってくることですが、ペテロはそのことにすべての望みをかけなさいと言っています。他のことに希望を持つてはいけません。

私たちが希望をかける他のすべてのものは、いずれ失望することが保証されています。自分の子供に希望をかけてはいけません。彼らの人生を台無しにしてしまう。私の知り合いに大希という人がいました。彼は私に「俺は親の大きな希望なんだ。これは大変なプレッシャーだ！」と言っていました。

仕事に希望をかけてはいけません。仕事は大切です！そして、私たちがする仕事のどれもが無駄ではありません。意味も目的もあります。しかし、たとえあなたが働いている仕事を達成したとしても、やるべき仕事は必ずあるのです。

注) エペソ人への手紙6章5～9節を見てください。

8節に注目してください。従業員、学生、上司、親、あるいはクリスチャンとしてお互いに与えるミニストリーや奉仕など、私たちが行う仕事は、すべてイエス様から返ってくるのです。これはどういうことでしょうか？ それは、私たちがイエスのために行ったすべての働きに対して、イエスが報いてくださるということです。これは、私たちが仕事として行っていることも含みます。クリスチャンとして、私たちはすべてをイエス様のために行います。そして、イエス様は私たちの行いをすべて見ておられます。そして、そのすべてが無駄になることはありません。すべての良い努力には報いがあるのです。

That is what Peter is beginning to do in this passage. In 1:13-2:3, Peter gives four main commands. So we will look at each command in its context. The four commands are this: (1) Hope fully in Jesus, (2) Be holy, (3) Love one another, (4) Hope fully in Jesus.

The first command is in 1:13.

Read 1:13. The command is to hope fully on the grace that will be brought to you at the revelation of Jesus. What is the grace that will be brought to us?

In 1:3-12 we see that we have an inheritance kept in heaven for us. It is final salvation where we will be united with Jesus and have praise and glory and honor with him. So, this is coming as a certainty, but Peter says to put all your hope in that. Don't hope in other things.

It is a guarantee that everything else we put our hope in will eventually disappoint. Don't put your hope in your children. You will ruin their lives. I knew a guy whose name was 大希 (Daiki, "Great Hope"). He told me "I am my parent's big hope! This is a lot of pressure!"

Don't put your hope in your work. Work is important! And none of the work we do is in vain. It has meaning and purpose. But even if you achieve the results you are looking for, there will always be more problems to fix.

Note: Take a look at Ephesians 6:5-9.

Notice verse 8. The work we do—whether as employees, students, managers, parents, or in the ministry and service we give to each other as Christians—we will receive it all back from Jesus. What does that mean? It means that Jesus will reward us for every bit of work we do for him. This includes the work we do as our job. As Christians, we do everything for Jesus. And Jesus sees everything we do. And none of it is in vain. There will be a reward for every good endeavor.

この世を直し、私たちの邪悪な心を含むすべてのものを治すものはただ一つです。その唯一の救いはイエスであり、彼はまだここにいません。しかし、彼は確かに戻ってきます。ペテロの手紙の残りの部分で見えていきますが、私たちが仕事をする理由は、イエス様が準備している新しい地球に希望を持っているからです。イエス様が戻ってこられたら、すべてのものを新しくしてください。それを待ち望んで、私たちは生きています。それが、私たちの現在にやっている仕事の目的です。私たちが働いている全ての良い目的はイエスが戻ってきて全てを新しくし、完璧にすることで成就します。

ペテロは、私たちがイエスの再臨に希望を置く方法について、いくつかの限定的な表現をしています。「心を引き締め」、「身を慎み」と言っています。この「心を引き締め」という表現はギリシャ語では、「心の腰を引き締め」となっています。

それはどういう意味ですか？日本では着物があるので、西洋文化よりもわかりやすいと思います。1世紀のグレコローマン文化では、誰もが衣服のような服を着ていました。もし男性が走ろうと思ったら、衣服の裾をベルトに通して、ローブをランニングパンツに変えてしまうのです。彼は行動を起こすための準備をしています。素早く行動し、敏捷に準備する必要があります。だから調整するのです。もう1つの表現は、「身を慎み」です。これは節酒のことです。酔っ払っているのではなく、頭脳明晰で自制心があり、集中できる状態であることを意味します。

そこでペテロは、イエスの再臨にすべての希望を置く私たちに、ある心構えを求めています。それは、準備と警戒の心構えです。怠惰に待つではありません。私たちが行う希望は、この世のすべてのものに対して運命的な絶望をもたらすものではありません。私たちの待ち望むことは、生産的な活動と明確で集中した思考に満ちています。

キリスト教は、唯一の真の神を礼拝しているから、唯一の真の宗教です。つまり、キリスト教は現実と真実のみに関心があるということです。意味のない瞑想はありません。キリスト教には、私たちが生きていて世界と関係のない神学的真理はありません。聖書に書かれていることはすべて、あなたの人生に関係しています。聖書は真理について教えているので、常に実践的な応用が可能です。

There is only one thing that will fix this world and cure all things, including our evil hearts. That one cure is Jesus and he is not here yet. But he is coming! We will see this in the rest of 1 Peter, but the reason we should do our work is because of our hope in the new earth that Jesus is preparing. When Jesus comes back he will make all things new. And so we live in hope of that now. That's what gives our work purpose now. All the good purposes we are working for will be fulfilled one day when Jesus makes all things new and perfect.

Peter has some qualifying phrases for how we are to set our hope on Jesus' return. He says, "prepare your minds for action" and "be sober minded." The Greek actually says "girding up the loins of your mind."

What does that mean? This is easier to understand in Japan than western cultures because of kimonos. In first century Greco-Roman culture everyone wore robe-like clothing. So if a man wanted to run he would take the bottom of his garment and tuck it into his belt so he would basically be transforming his robe into running shorts. He is preparing himself to take action. He needs to move quickly and be agile and ready. So he makes adjustments. The other phrase is "be sober minded." This is talking about sobriety. Not being drunk, but being clear-headed and self-controlled so we can be focused.

So Peter wants us to have a certain mindset as we put all our hope in Jesus' return. This is a mindset of readiness and alertness. We do not wait lazily. The kind of hoping we do does not result in fatalistic despair of all things on earth. Our waiting is full of productive activity and clear, focused thought.

Christianity is the one true religion because it alone worships the one true God. This means that Christianity is concerned only with reality and truth. There is no mindless meditation. There is not any theological truth in Christianity that doesn't have any relationship to the world we live in. Everything in Scripture is relevant to your life. There is always practical application because the Bible is teaching about truth!

考えてみてください: 待っている間、あなたは何をしていますか？ 待っている間に、あなたは何を学んでいますか？ あなたの思考とエネルギーは何に向けられているのでしょうか？

この1週間を振り返ってみてください。あなたはどのように時間を過ごしましたか？ 後悔していることはありますか？ 今、時間をとって、イエス様にあるあなたの希望に沿った目標を考えてみましょう。イエス様の再臨を待ちながら、今ある時間を有効に使うために、具体的な目標と計画を立てましょう。

次の2つの命令は、私たちの希望をイエスの再臨に完全に向けさせるための実践的な応用です。

次の命令は、「聖なる者となりなさい」です。

1:14-21を読んでください。もしあなたがイエス様に希望を置いているなら、あなたは聖なる人生を送ることになります。なぜでしょうか？ イエス様の再臨を待ち望む私たちが、なぜ聖なる生活をしなければならないのでしょうか？

私たちを「子ども」と呼んでいます。ここでペテロは、贖いと養子について語っています。18節では、「あなたがたが贖い出された」と言っています。また、17節で私たちは神を「父」と呼ぶと言っています。聖書の中で、救いは「贖い」と表現されています。私たちは罪の奴隷でしたが、神様は私たちが奴隷から解放されるための代価を支払ってくださり、私たちをご自身の子どもとしてくださいました。私たちを奴隷の生活から贖われて、ご自分の家族に引き入れてくださいました。

明確な思考が必要な理由のひとつは、ペテロが言うように、「ご存じように」からです。(14と18節)と言われています。あなたは新しい知識を得ました。あなたは救いの知識を持っています。神はあなたを贖い、あなたを養子にしたのですから、あなたが知っているこの救いについてのことを思い出してください。それを心に留めておいてください。神の子供であることの意味を考えてみてください。

Think about this: So what are you doing as you wait? What are you learning as you wait? What are you putting your thoughts and energy toward?

Take some time and reflect on the past week. How did you spend your time? Do you regret any of the ways you spent your time? Take some time now and think about some goals you can make that are in line with your hope in Jesus. Make specific goals and plans to use the time you have effectively as you wait for Jesus' return.

The next two commands are practical applications of what it looks like in our life when we set our hope fully in Jesus' return.

The next command is “be holy.”

Read 1:14-21. If you are setting your hope in Jesus you will live a holy life. Why? Why should we live holy lives as we look forward to Jesus' return?

He calls us “children.” Here Peter talks about redemption and adoption. In verse 18 he says, “you were ransomed.” And he says we call God “Father” in verse 17. Salvation is described throughout scripture as redemption. We were slaves to sin, God paid the price for our freedom from slavery and then he adopted us as his own children. He called us out of slavery into his family.

Part of the reason we need clear thinking is because, as Peter says, “You know this.” (14 and 18). You have acquired new knowledge. You have knowledge of salvation. God has redeemed you and adopted you, so remember what you know. Keep it on your mind. Think out the implications of being God's children.

そして、私たちが聖なる者でなければならない理由は、私たちの父である神が聖なる方だからです（1:15-16）。神は私たちが永遠に神と共にある未来へと召され、神は聖なるお方です。ですから、その未来を待ち望みながら、私たちは今、聖なる者であるべきなのです。あなたが育った家には、家族のルールがありましたか？ 神の家族は聖なる家族です。ですから、ルールは「聖なる者になりなさい」です。

この箇所では、他にもいくつか考えておきたいことがあります。

まず、17節は、私たちが行いによって救われているように聞こえますが、そこはどうなっているのでしょうか？ 神様は、それぞれの人の行いによって公平に裁くのですか？ はい、そうです。しかし、クリスチャンとノンクリスチャンでは、裁き方の違いがあります。クリスチャンでない人は、イエス様がすべての人を裁かれる日に、自分のしたことに応じて正当に裁かれ、非難されます。それは公平なものになります。神様は、公正な裁判官です。これまでに行われた悪と善のすべてを知っておられます。すべての人の心と動機を知っておられます。私たちの考えをすべて知っておられます。すべてを知っておられます。そして、完璧で正しい判断で裁いてくださいませ。誰も不当な判決を受けることはありません。

しかし、クリスチャンの場合、私たちのさばきはすでに起こりました。私たちは、イエス様が私たちの身代わりになってくださったという信仰に基づいて、私たちが正しいという宣言をすでに受けています。イエス様の正しい人生が私たちに与えられ、イエス様の死が私たちの罪を贖います。

ローマ人への手紙3章20～28節を読んでみましょう。どのような方法で、人は神の前に義と認められるのでしょうか。

裁きの日には、私たちは無罪と宣言されます。私たちはキリストにあって義と認められます。しかし、私たちの行いは裁かれますが、それは私たちが定められるためのことでも、救われるためのことでもありません。むしろ、私たちの行いは、私たちが本当に神の従順な子どもであることを証明するものとして裁かれます。私たちが実際に神のために人生を生きることが証明されるのです。

And the reason we ought to be holy is because God, our Father, is holy (1:15-16). God has called us to a future with him forever and he is holy, so we ought to be holy now as we wait and hope in that future. Did you have family rules in your house growing up? God's family is a holy family. So the rule is "be holy."

A few other things to talk through in this section.

First, verse 17 sounds like we are saved by our works, so what's going on there? Does God judge impartially according to each one's works? Yes. But it is a different sense of judgement for Christians than non-Christians. For non-Christians, on the day when Jesus judges all people they will justly be judged and condemned according to what they have done. It will be impartial. God is a just judge. He knows all the evil and good that has ever been done. He knows everyone's hearts and motivations. He knows all our thoughts. He knows everything. And he judges with perfect, righteous judgement. No one will receive an unfair sentence.

For Christians, our judgement has already happened. We have already received the declaration that we are righteous based on our faith in Jesus' substitution in our place. His righteous life is counted to us and his death pays for our sin.

Take a moment to read through Romans 3:20-28. Through what means is someone declared righteous before God? How are we justified?

So on the day of judgement we will be declared not guilty. We will be considered righteous in Christ. However, our works will still be judged, but not as a means by which we are condemned or a means by which we are saved. Rather our works will be judged as proofs that we are indeed God's obedient children. It will be evident that we actually lived our lives for God.

もしこれを見て、自分の救いに疑問を感じるのであれば、3つのことを聞いてください。

- (1) もし、自分の生活が本当にキリスト教の信仰を反映していないのではないかと恐れているのであれば、悔い改めて福音を信じ、神のために生きてください。あなたは信仰によって救われているのですから、救いを受けて、喜びをもってイエスのために生きましょう。
- (2) マタイ25:31-46で、イエスはこの審判の日について教えています。イエス様は義人たちが自分のために生きたことを認められますが、彼らは「主よ、私たちはいつあなたのためにこれらのことをしたのですか」と答えます。彼らは非常に混乱しているようで、おそらく自分たちはイエスのために何もしていないと思っていたのでしょうか。しかし、彼らが行い、イエスは記録を残しました。また、もっと確信を持っていただきたいのですが、クリスチャンになってから、誰かに福音を伝えたり、誰かのために祈ったり、誰かを励ましたり、クリスチャンとして誰かのために何か良いことをしようとしたことはありますか？ もしそうなら、神があなたを神のためにそのようなことをするような人にするために、あなたの心の中で働いておられるということで励ましを受けてください（ピリピ2:13）。
- (3) 第一ペテロ1:8をもう一度みてください。あなたはイエス様を愛していますか？ あなたは、イエス様をご自分で言われた通りの方で、聖書に書かれている通りのことをされたと信じていますか？ イエス様があなたのためにしてくださったこと、これからして下さることを考えると、喜びでいっぱいになりますか？ それなら、これはあなたの心の中にある神の御業なので、励ましを受けてください。

14節と18節では、「無知であったときの欲望」と「先祖伝来のむなしい生き方」について語られています。私たちの文化の中で尊重されてきた、代々受け継がれてきた生き方があります。これらの生き方は無益です。実りのない、無意味な、無知なものです。

これは、どのような文化の中で育ったとしても同じです。クリスチャンである私たちは、新しい家族の一員です。私たちは神の家族の一員であり、神がその家族に望んでいる文化は、聖書にはっきりと書かれています。神は、私たちが神を愛することを望んでおられます。そして、私たちが他のすべての人を愛することを望んでおられます（マタイ22:35-40）。過去や先祖から与えられた生き方で、神が言っていることに反しているものは、何が真実であるかを知らないことに基づいており、したがって無駄なことです。それには参加しないでください。

If this makes you feel doubtful about your salvation then let me say three things:

- (1) If you are fearful that your life really does not reflect a Christian faith, then repent and believe the gospel and live for God! You're saved by faith, so receive salvation and joyfully live for Jesus.
- (2) In Matthew 25:31-46 Jesus teaches about this judgement day. He approves the righteous because they lived for him and they respond to him, "Lord, when did we do these things for you?" They seem very confused and probably thought that they never really did anything for Jesus. But they did and Jesus kept a record. And just to give you more assurance, since becoming a Christian, have you ever told anyone the gospel or prayed for anyone or encouraged anyone or made any attempt to do anything good for anyone as a Christian? If so, please be encouraged that God is working in your heart to make you into the kind of person that does that for him (Philippians 2:13).
- (3) Look back at 1 Peter 1:8. Do you love Jesus? Do you believe Jesus is who he said he is and he did what the Bible says he did? Are you full of joy when you think about all that he has done for you and will do for? Then be encouraged because this is a work of God in your heart.

Verses 14 and 18 talk about "passions of your former ignorance" and "the futile ways inherited from your forefathers." There are ways of living that have been passed down to us from generation to generation that are honored in our cultures. These ways of living are futile. They are fruitless and pointless and ignorant.

This is true no matter what culture you grew up in. As Christians we are part of a new family. We are part of God's family and the culture that God wants in his family is written plainly in Scripture. He wants us to love him. And he wants us to love everyone else (Matthew 22:35-40). Any way of living given to us from our past or from our ancestors that is contrary to what God says is based on ignorance of what is true and is thus futile. Don't participate in it.

このことについて考えてみましょう：あなたの文化の中で、神と人を愛することに反する生き方はありますか？あなたの先祖から受け継がれてきた伝統の中で、神の言葉に反するものは何ですか？それらはあなたの人生にどのような影響を与えていますか？

私たちは、あらゆる文化を超越する文化、あらゆる家族を超越する家族に従って生きるという役割を与えられています。さて、あなたは何をしますか？家族との関わり方は？近所の人とどう接しますか？どうやって働くのか？どうやって子供を育てるのか？これまでに行われてきたことを行うだけではありません。神様が言われることをするのです。これは、あなたが聖書を読み、祈り、聖書をあなたの人生に適用するための知恵を神に与えていただくことを意味します。

最後に20-21節を見てください。イエス様は、永遠の神の子です。彼は永遠に存在していました。紀元前4～5年頃、民を罪から救うために父なる神からこの世に遣わされ、完全に正しい人生を歩まれました。私たちのために身代わりとなって十字架上で死なれました。そして、西暦30年から33年に死からよみがえり、栄光のうちに天に昇られました。

イエス様が地上に来られ、贖いを成し遂げられたことで、人類の歴史は「終わりの時」に入りました。今、私たちはイエスの教会として、イエスの再臨を希望を持って待つ段階にあります。私たちが希望を持つ理由は、イエス様の復活とその後の栄光です。

神がイエスを死者の中からよみがえらせたからこそ、イエスを信じる私たちを神がよみがえらせてくださると確信できるのです。また、イエス様が復活されたからこそ、イエス様が主であり、神の子であり、キリストであり、私たちの救い主であることを確信できるのです。このメッセージは、ペテロが教会の始まりであるペンテコステ（使徒2章）で説いた内容とよく似ています。

このことについて考えてみましょう。使徒2:22-40を読んでください。イエス様の復活とクリスチャンの信仰の確信との関係はなんでしょう？

Think about this: What are some ways of living from your culture that are contrary to loving God and others? What are traditions that have been handed down to you from your forefathers that are contrary to God's Word? How have these influenced your life?

We have been given the role of living according to a culture that transcends all cultures and a family that transcends all families. So what will you do? How will you relate to your family? How will you treat people in your neighborhood? How will you work? How will you raise you children? Don't just do what has always been done. Do what God says. This means you have to read the Bible and pray and ask God to give you wisdom to apply the Bible in your life.

Last of all look at verses 20-21. Jesus is the eternal Son of God. He existed from all eternity. He was sent by God the Father into the world to save his people from their sins around 4-5 B.C. He lived a perfectly righteous life. He died on the cross as a substitute for our sake. And then he rose from the dead and ascended into heaven in glory in 30 or 33 A.D.

Upon Jesus' coming to earth and accomplishing redemption, human history has entered the "last times." Now we are in the stage where, as Jesus' church, we wait for Jesus' return with hope. The reason we have hope is Jesus' resurrection and subsequent glory.

It is because God rose Jesus from the dead that we can be confident that God will also raise us who have faith in Jesus. It is also because of Jesus' resurrection that we can be confident that he is the Lord, the Son of God, the Christ and our savior. This message is very similar to what Peter preached on Pentecost at the beginning of the church in Acts 2.

Think about this: Read Acts 2:22-40. What is the relationship between Jesus' resurrection and Christian confidence in our faith?

第3の命令は、「互いに愛し合いなさい」です。

1:22-25を読んでください。これは、聖性の共同体的な側面です。聖なる生活は、他の人々との関わりの中でどのようなものになるのでしょうか？ その答えは「愛」です。キリスト教とは愛の宗教です。これは、私たちの性格のすべての目標：私たちが愛に満ちた存在になることです。私たちの成長において、これ以外に努力すべきことはありません。愛こそが私たちの究極の目標なのです。もしあなたが、毎年目標や計画を立てるのが好きな人であれば、これは常にあなたの個人的な目標の一つになるはずで、「今年は、もっと愛する人になりたい。」

この箇所は素晴らしいです。まず、22節では、真理に従うことで魂を清めたとあります。これは何を意味しているのでしょうか？ 聖書は矛盾していて、私たちは実際に良い行いをすることで聖なるものとされるということでしょうか？ そうではありません。

真理の言葉にどうやって従うのでしょうか？ それを信じるのですね。これは、信仰による救いについての話です。23節で神の言葉によって新しく生まれたと言っていますが、これも同じです。誰かが「イエス様があなたのために死んで、死の中からよみがえり、あなたに未来と希望を与えてくださったのは、ただ神様があなたを愛し、あなたを選んでくださったからです！」と言ったとき、あなたは信じるか信じないかで答えるしかありません。つまりペテロは、あなたが福音を信じているから、それはあなたが新しく生まれた証であり（魂が再生されたので、神の家族に養子されたことを意味する）、あなたの新しい家族を愛しなさいと言っているのです。

そして、重要なのは、彼が「きよい心で互いに熱く」と言っていることです。キリスト教とは、実際に内面を変えられることです。神様は私たちを内側から変えてくださるのです。あなたの性格や人格は、本当に愛に満ちたものに変えられることができます。実際、自分の性格や人格を変えるには、それ以外の方法はありません。外側から自分を変えようとしてもうまくいきません。良いことをしたり、新しい習慣を身につけたり、宗教的な儀式を行ったりしても、心は変わりません。神や他人への憎しみが心にあるままでたくさんの良いことができるのです。

The third command is “love one another.”

Read 1:22-25. This is the communal aspect of holiness. What does a holy life look like when it interacts with other people? The answer is love. Christianity is about love. This is the whole goal for our character: that we would be loving. There is nothing else we really need to be striving for in our character development. Love is our ultimate aim. If you are a person who likes to make goals and plans for each year, this should always be one of your personal goals all the time: “This year I want to be more loving.”

This passage is amazing. First of all, verse 22 says that we purified our souls by obeying truth. What does that mean? Does it mean that Scripture is contradictory and we are actually sanctified by doing good works? No.

How do you obey a statement of truth? You believe it. This is talking about salvation by faith. It's the same thing in verse 23 when he says we were born again through the word of God. When someone says, “Jesus died for you and rose from the dead to give you a future and a hope and all this just because God loves you and chose you!” you can only respond in belief or unbelief. So Peter is saying that because you believe the gospel—which is a sign of your new birth (which means your soul has been regenerated and thus you have been adopted into the family of God)—love your new family.

And it's important to note he says “earnestly from a pure heart.” Christianity is about actual internal transformation. God is changing us from the inside out. Your character and personality really can change to become more loving. In fact, there is no other way to change your character or personality. Trying to change ourselves from the outside in doesn't work. Doing good things or making new habits or performing religious ceremonies doesn't change your heart. You can do a lot of good things with hatred for God and others in your heart.

さて、ここからが非常に楽しみです。この変化はどのようにして起こるのでしょうか？ 私たちの心はどのように変化するのでしょうか？ 私たちは人としてどのように変わることができるのでしょうか？ 私は今よりももっと愛に満ちた人間になりたいのです！ それはどのようにして起こるのでしょうか？

1:22-23をもう一度見てください。心の変化はどのように起こりますか？ 神様はどのような方法で私たちを変えてくださるのでしょうか？

私たちが愛すべき人間に変えられるのは、「生きた、いつまでも残る神の言葉」を通してです。神の言葉は、あなたの心を変えるのに効果的です。神の言葉はあなたを救います。神の言葉は、神の霊の力によってあなたを聖なるものとします。これはなぜでしょうか？ それは、神のことが生きていてからです。それは、神の人々を変えるための命と力を持っています。神様の御霊は、聖書の中で働いているので、聖書の人々の生活の中で力強くしています。それは神の言葉です。あなたが聖書を読むとき、あなたは神様に耳を傾けているのです。(第一テサロニケ2:13を読んでください。)

ヘブル人への手紙4章11～13節を読んでください。ここでは、神様のことはどのように表現されていますか？ 神の言葉は何をしますか？

これを試してみてください：神の言葉は私たちの心のはかりごとを明らかにするので、聖書を読むときには、次の3つの質問について考えてみてください。

1. この箇所は神様について何を教えてくださいますか？
2. この箇所は私について何を教えていますか？
3. この箇所はどうやってイエス様と繋がっていますか？

そして、その答えを神様に祈ってみてください。神様がどのような方かをほめてください。神様の言葉にしたがって、自分自身を理解できるように祈ってください。あなたの心を神様の心と同じように変えてくださるように祈りましょう。イエス様がどのような方で、私たちのために何をしてくださったのか、イエス様を讃えましょう。

Now here's what's very exciting: How does this transformation take place? How does our heart change? How can we change as people? I want to be more loving than I am! How does that happen?

Look again at 1:22-23. How does heart transformation happen? Through what means does God change us?

It is through the living and abiding word of God that we are changed into loving people. God's word is effective to change your heart. God's word saves you. God's word sanctifies you by the power of his Spirit. Why is this? Because God's word is alive. It has life and power to change God's people. God's Spirit makes the Bible powerful in people's lives because he works in it! It's his words. When you read the Bible you are listening to God. (Read 1 Thessalonians 2:13.)

Read Hebrews 4:11-13. How is God's word described here? What does God's word do?

Try this: Since God's word exposes the intentions of our hearts, when you read the Bible think about these three questions:

1. **What does this tell me about God?**
2. **What does this tell me about me?**
3. **How is this connected to Jesus?**

Then pray about your answers to God. Praise him for who he is. Ask him to help you understand yourself according to what his word says. Ask him to change your heart to be more like his. Praise Jesus for who he is and what he has done for us.

1:24-25は、イザヤ書40:6-8からの引用です。イザヤ書からの引用の要点は、神の言葉は永遠に立つということです。それは永遠に続くわけです。神が言ったことで実現しないものはない。神様が言われたことで、真実でなくなることはありません。神の言葉は真実です。そして、その真実は変わらない。つまり、イザヤの聴衆にとっても、私たちにとっても、イエスが戻ってきて、イエスのために生きることが価値あるものになることを具体的に意味しています。日本でクリスチャンになったことに価値があることになります。

人は死ぬ。政府も社会も文化も終わる。ペテロがこれを書いたとき、ローマは世界の超大国でしたが、今は違います。神の言葉は存続する。それを信じてください。信頼してください。その約束に希望を持ちましょう。人や政治やお金や仕事に希望を託してはいけません。それはすべて消えてしまいます。私たちは皆、消えていく。私たちは皆、死にます。しかし、神の言葉は永遠に存続しますので、神の言葉に信頼と希望を置いてください。

この節では、他にも2つの注意点があります。

第一に、ペテロは、イザヤが言っている神の言葉とは、福音のことだと言っています。それは、「あなたがたに福音として宣べ伝えられたことば」です。聖書全体を要約すると「福音」となりますが、それは神が罪深い人類のためにキリストにおいてなされたことの知らせだからです。神の民のために地上で働かれている神の救いの良い知らせです。

第二に、私たちは永遠の種によって新しく生まれることに注目してください。神の言葉（福音）が誰かに伝えられ、聖霊によって新生されると、永遠の命が与えられます。これは、失うことができるものではありません。変えることができるものでもありません。もしあなたが神の子であるなら、永遠に神の子なのです。ペテロが教会に「互いに愛し合いなさい」と勧めているのは、このことが理由の一つになっています。私たちは永遠の家族なのです。もし教会の中に嫌いな人がいるなら、プライドや恨みを悔い改めて、その人との関係を改善しなければなりません。私たちは永遠に一緒にいるのだから、今からお互いを愛し始める必要があります。

最後に、最後の命令は最初の命令と同じです。2:1-3を読んでください。

1:24-25 are a quote from Isaiah 40:6-8. The main point of the quote from Isaiah is that God's word abides forever. It is eternal. It lasts forever. Nothing that God has said will not come true. Nothing that God has said will become untrue. God's word is true. And the truth will not change. Which means specifically for Isaiah's audience and for us that Jesus will come back and living for him will have been worth it. It's going to be worth it to have been a Christian in Japan.

People die. Governments, societies, and cultures end. When Peter wrote this, Rome was the superpower of the world and now it's not. God's word endures. Believe it. Trust it. Hope in its promises. Don't put your hope in people or politics or money or jobs. It will all fade away. We will all fade away. We will all die. But God's word will endure for all eternity, so put your trust and hope in God's word.

There are two other things to note in these verses.

First, Peter says that God's word that is referred to by Isaiah is the gospel. It is the "the good news that was preached to you." The whole Bible can be summarized as "the gospel" because it is the news of what God has done in Christ on behalf of sinful humanity. It is the good news of God's salvation that he is working on earth for his people.

Second, notice that we are born again by an eternal seed. When God's word—the gospel—is preached to someone and the Holy Spirit makes them born again they are given eternal life. This is not something that can be lost. This is not something that can change. If you are a child of God then you are a child of God forever. If you noticed, this is part of the reason why Peter exhorts the church to love one another. We are family forever! If there is anyone in your church you don't like, then you need to repent of your pride and resentment and begin working on your relationship with them. We will be together for all eternity so we need to start loving each other now.

Finally, the last command echoes the first. Read 2:1-3.

私たちが悪意、偽り、偽善、ねたみ、悪口を持つことになるのは、イエス様以外のものに望んでいるからです。私たちは、イエス様以外のものを求めているのです。これら罪はすべて、愛が欠けている証拠です。愛とは、イエス様を待ち望むことで生まれる、聖さの実践的な表現です。イエスを望み、その言葉によって変えられましょう。神の子どもとしての自分のアイデンティティーに沿って生きましょう。

これについて考えてみましょう。2:1をもう一度読んでみてください。それぞれの罪について考え、自分がどのようにこの罪を犯しているか、時間をかけて考えてみましょう。悪意とは、誰かのために悪いことをしようしたり、望んだりすることです。偽りとは、誰かに真実でないことを信じさせることです。偽善とは、外見上の自分と内面の本当の自分との間に矛盾があることです。ねたみとは、他の人のようになりたい、あるいは他の人が持っているものを手に入れたいという恨みがましい願望です。悪口とは、他人について良くないことを言うことです。

あなたの人生におけるこれらの罪について、神様に心を砕いていただくように祈りましょう。そして、あなたの人生に関わる人々に対して、より愛のある人間に変えてくださるようお願いします。

ペテロは最後に、乳児と乳の例え話をします。彼は詩篇34:8を引き用いて、「主がいつくしみ深い方であることを、味わいました」と言っています。聖書の「味わう」とは、経験という意味です。ペテロはこういうふうに使っています、「あなたは、主を知ることの良さを経験しました。主が良い方であることを知っています。あなたは、イエスの聖霊があなたの中にいます。あなたはイエスを愛しています。あなたは、イエス様を喜びます。あなたはイエスを信じています。あなたは、イエスが生きる価値のある方だと知っています。だから、もっとイエスを慕い求めよう。もっとイエスに希望を持ってください。」

乳を欲しがっているのにもらえない乳児を抱えたことがある人や、そばにいたことがある人は、彼らが泣くことを知っています。彼らは幸せではありません。乳をととても欲しがっています。乳児にとって、乳はおやつではありません。乳は彼らのメインコースです。彼らの栄養源なのです。乳がなければ、乳児は死んでしまいます。だからこそ、ペテロはこの比喩を選んだのでしょう。キリスト教は、単に私たちが信じている真理ではありません。大昔に起こった歴史的な出来事に基づいた、古い書物に書かれた宗教ということだけではありません。(ただし、キリスト教は真実です! そしてそれは、歴史的な出来事に関して聖書に記録されている報告と成就した予言に基づいています!)

The reason we would have malice, deceit, hypocrisy, envy and slander is because we are hoping in something other than Jesus. We are longing for something other than Jesus. These are all evidence of a lack of love. Love is the practical expression of holiness which is a product of hoping in and longing for Jesus. Hope in Jesus and be transformed by his word. Live according to your identity as God's child.

Think about this: Read 2:1 again. Think about each of these sins and take time to identify ways that you commit each one.

- **Malice is willing or wanting bad for someone else.**
- **Deceit is leading someone to believe a non-truth.**
- **Hypocrisy is having inconsistencies in who you portray yourself to be outwardly and who you really are on the inside.**
- **Envy is a resentful desire to be who someone else is or have what they have.**
- **Slander is saying something bad about someone else.**

Pray and ask God to break your heart about these sins in your life. Ask him to change you to be a more loving person toward the people in your life.

Peter finishes with an analogy of an infant and milk. He references Psalm 34:8 when he says "tasted that the Lord is good." "Taste" in scripture refers to experience. Peter is saying, "You have experienced the goodness of knowing the Lord. You know he is good. You have the Holy Spirit of Jesus inside you. You love Jesus. You rejoice in Jesus. You believe in Jesus. You know he's worth living for. So long for him more! Hope in Jesus more."

If you have ever had an infant or been around an infant that wants milk and is not receiving it, you know that they protest. They are not happy. They want milk really bad. Milk is not a snack or a treat for an infant. It is their main course. It is their sustenance. Without milk, an infant will die. That is probably why Peter chose this metaphor. Christianity is not simply truths that we believe. It is not simply a religion from an old book based on historical events that happened a long time ago. (However Christianity is true! And it is based on the reports and fulfilled prophecies recorded in Scripture concerning historical events!)

キリスト教は、真の生ける唯一の神と関わる宗教である。クリスチャンは、神の経験によって大きく変えられた普通の人々です。万物の創造者であり維持者である唯一の真の神は、旧約聖書の中で様々な方法でご自身を人々に啓示されました。そして、人間の肉を着て地上に来られ、イエス・キリストという人で、私たちの間を歩き、話し、住まわれました。今、イエスが十字架上で成し遂げた贖いを通して、唯一の真の神は、その聖霊によって私たちの心の中に入ってくるのです。

神様は私たちに必要なすべてのものです。神様が私たちの人生に積極的に働いてくださらなければ、私たちは死んでしまいます。私たちの心を変えるためには、神様が必要です。私たちが愛する人間になるためには、神様が必要です。私たちは、生命と呼吸とすべてのもののために、神を必要としています。神様を下もてください。求め続けてください。神に望みを置き、他の何ものでも望んではいけません。そうすることで、聖なる生活とお互いへの愛が生まれます。

しかし、実際には、どうすればもっと神を得ることができるのでしょうか。ペテロは、生まれたての幼子ようになって、自分の心に神がもっと働いてくれるようになるまで泣き叫びなさいと言っています。どうすればいいのでしょうか？ その答えはとてもシンプルで、あなたを驚かせるかもしれません。

1:23でペテロは、私たちは神の言葉によって新しく生まれたと言いました。聖書を読み、聞き、理解し、適用し、歌い、祈ることによって、個人としても教会としても、私たちは神の力と臨在を経験することができるのです。そして、その経験を通して、私たちは「成長し、救いを得る」のです。

言い換えれば、もしあなたが神様を愛していて、自分の人生でもっと神様を経験したいとっていて、神様にもっと愛する人に変えてもらいたいと思っているなら、聖書を読みましょう。聖書に書かれていることについて祈りましょう。聖書を読み、祈ることが、神様とのコミュニケーションになります。地域の教会にメンバー（教会員）として参加し、互いに聖書を読み、祈り、歌い、教え合いましょう。これを忍耐強く続けることによって、私たちは皆、「成長し、救いを得る」のです。そして、やはり、成長することは一生続くことなのです。

Christianity is a religion—the only religion—that interacts with the one true living God. Christians are ordinary people who have been—and are being—profoundly changed because of our experience of God. The one true God, the creator and sustainer of all things, revealed himself to his people in the Old Testament in various ways. Then, he put on human flesh and came to earth and walked and talked and lived among us in the man Jesus Christ. Now, through the redemption that Jesus accomplished on the cross, the one true God comes into our hearts by his Holy Spirit!

God is everything we need. Without him actively working in our lives we will die. We need him to change our hearts. We need him to make us loving people. We need him for life and breath and everything. Long for him. Keep longing for him. Hope in him and nothing else. This produces a holy life and love for each other.

But, very practically, how can we get more of him? Peter says to be like newborn infants and cry out until we get more of God working in our heart. How do you do that? The answer is so simple it might surprise you.

In 1:23 Peter said that we were born again by the word of God. It is through reading, hearing, understanding, applying, singing, and praying Scripture both individually and together as a church that we experience the power and presence of God. And through that experience we “grow up into salvation.”

In other words, if you love God and want to experience Him in your life more, and you want him to change you to be a more loving person, then read your Bible. Pray about what the Bible says. Reading the Bible and praying is how you communicate with God. Be an active member of a local church and read, pray, sing, and teach the Bible to one another. Through persevering in this, we will all “grow up into salvation.” And yes, growing up is a lifelong process.

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

6. あなたがイエス様以上に希望するように誘惑されるものはどんなものですか？
7. 仕事や家族や教会のためにした良い仕事がすべて報われると知ったら、どんな気持ちになりますか？ そのことは、あなたが持っている仕事についてどのように考えさせますか？
8. 「先祖伝来のむなしい生き方」のいくつかを振り返ったとき、家族や友人に伝えたい聖書の伝統や生き方はありますか？
9. 神様が聖書と祈りの中で個人を変える方法を与えてくださっていることを知って、どんな気持ちになりますか？ 何をしたいと思いますか？
10. 2:1の罪を振り返って、あなたはグループにどのように祈ってもらいたいですか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. What are some things you are tempted to put your hope in more than Jesus?
2. How does it make you feel to know that you will be rewarded for all the good work you do, whether it is for your job or family or the church? What does that make you think about the work you have?
3. As you reflected on some of the “futile ways of your forefathers,” what are some Biblical traditions and ways of living you would like to pass on to your family and friends?
4. What feelings do you have knowing that God has provided the means for personal change in the Bible and prayer? What does it make you want to do?
5. Reflecting on the sins in 2:1, how do you want the group to pray for you?

Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

2:4-10
教会へようこそ

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

2:4-10
Welcome to the Church

事前の勉強

- ・ 出エジプト記19章、イザヤ書43章、ホセア書2章を読んでください。次に、第一ペテロ2:9-10節に目を通し、上記の旧約聖書の箇所にも書かれている、神様の民である教会に与えられている名前をすべて書き出してください。ペテロは、新約の民である教会にこれらの称号を与えることで、何を示唆しているのか考えてみましょう。

学び

ここまでの手紙では、ペテロは複数の名詞を使っていますが、個々の信者の救いの経験に対して集中してきました。選ばれた亡命者としての私たちのアイデンティティについて語ってきましたが、このテキストでもそのテーマは重要な意味を持っています。また、神様の選びの計画、新生、イエス様と永遠に共にいるという将来の希望、そしてその将来の希望が私たちの生活や考え方にどのような影響を与えるか、といった概念についても語っています。

イエス様への希望は、聖なる人生を生み出します。そして、聖なる生活とは、愛に満ちた生活と定義されます。

そして、この希望が残念なものにならないように、当初の聴衆や私たちに絶えず注意を促しています。私たちは、私たちのために守られている相続財産を受け取ることができます。私たちは、世間から拒絶されることもあります。イエス様と同じように、神様から名誉と栄光を受けません。

この章では、2:4-10を学んでいますが、ここでペテロは、神に選ばれたからといって、一人で生きる人生ではないことを教えています。神様は、私たちを選び、残りの民である教会と一緒に選んでくださるのです。この文章は、教会の教義を語る上で非常に重要です。

教会とは何か? 2:4-5を読んでください。

この直前にペテロは、もし私たちが新しく生まれたのなら、乳児がミルクを欲しがるように、私たちは本当にイエス様を欲しているのだと言いました。そして、私たちは救いに向かって成長しているのです。ペテロが2:4で示している救いのイメージは、イエス様に直接お会いするための旅です。ですから、4節の冒頭で「主のもとに来なさい。」と言っています。これは、クリスチャンの生活全体についての別の言い方です。私たちは、救い主に会うための巡礼の旅をしているのです。

Pre-Study

- ・ Read Exodus 19; Isaiah 43; Hosea 2. Then, look through 1 Peter 2:9-10 and write down all the names that are given to God's people, the church, that are also written in the Old Testament passages above. Think about what Peter is inferring by giving these titles to God's New Covenant people, the church.

Study

Up to this point in his letter, although Peter has been using plural nouns he has been giving a lot of attention to the personal experience of individual believers in salvation. He has talked about our identity as elect exiles, a theme he continues in a significant way in this text. He has talked through concepts like God's plan of election, the new birth, our future hope of being with Jesus forever and how that future hope effects our lives and the way we think now.

Hope in Jesus produces a holy life. And a holy life is defined as a life that is loving.

And he continually reminds his original audience, and us, that this hope will not turn out to be a disappointment. We will receive the inheritance that is being kept for us. We experience rejection from the world, but we will receive honor and glory from God, just as Jesus did.

In this chapter we are studying 2:4-10 and here Peter tells us that to be chosen by God does not produce a life lived alone. God chooses us and elects us together with the rest of his people, the church. This text is very significant in discussing the doctrine of the church.

What is the church? Read 2:4-5.

Just previous to this Peter said that if we are born again then we really crave Jesus the way an infant craves milk. And we are growing up into salvation. The picture of salvation that Peter gives in 2:4 is a journey toward meeting Jesus in person. So at the beginning of verse 4 he says, "As you come to him." This is another way of talking about the Christian life as a whole. We are on a pilgrimage to meet our savior.

次に彼は、イエスは「人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。」と語ります。ペテロは、イエス様と教会を説明するために、石と構造物の比喩を始めます。まず、イエス様は人には捨てられた石ですが、神には選ばれたと記述されています。イエス様は、典型的な選ばれた亡命者です。彼は人には捨てられました。

神が人となって地上に来られたのに、私たちは彼を誤解し、裏切り、否定し、間違いだと思い、憎み、殺してしまいました。しかし、イエスは本当はそのような苦しみを受けるはずでした。キリストが来て、苦しみ、死に、葬られ、そして復活することは、キリストとしての役割の一部だったのです。イエス様は、地上の最悪の状況を経験されたので、それを理解されています。イエス様はすべての人から拒絶されました。家族も、故郷も、弟子たちも、仲間たちも、宗教指導者たちも（誰よりも彼を救い主と認めるべきだった）彼を拒絶しました。

しかし、彼は神様に選ばれました。それは、イエス様が死からよみがえられたからです。イエス様の復活は、神様がイエス様をあがめられた証です。イエス様は生ける神の御子、キリストであり、私たちの救い主です。そして、神様がイエス様を二度と死なないように死からよみがえらせたので、私たちはそのことを知っています。イエス様の全生涯は、その復活によって証明されたのです。ペテロがイエスを「生ける石」と呼んだのはそのためです。私たちは、彼が生きていることによって、彼が神に選ばれた者であり、神のメシアであり、神のキリストであることを知っています。

ペテロは、私たちがイエス様のもとに来て、イエス様に期待してクリスチャン生活を送るとき、神様は私たちを建造物にしてくださいと言っています。つまり、神様はあなただけを心配しているのではなく、あなたを多くの人の中の一つの石として、この霊の家に築き上げてくださっているのです。ペテロは例え話をしています。霊の家だと言っています。私たちは、教会が集まっている建物や場所を「教会」と呼んでいるかもしれませんが、そうではありません。ただの建物なのです。この地域教会は、集まった教会のメンバーによって構成されています。

想像してみてください。神様が建築の名人で、設計図に沿って石を選び、自分のために家を建てているとしましょう。そしてペテロは、イエス様が要石であると言います。イエス様は、この構造物の最も重要で必要な部分です。他のすべての石は、このイエスという一つの石に合わせて並べられています。

Next he says Jesus is a “living stone rejected by men but in the sight of God chosen and precious.” Peter begins a metaphor of stones and a structure to describe Jesus and the church. To start, he describes Jesus as a stone that is rejected by men, but chosen by God. Jesus is the prototypical elect exile. He was rejected by mankind.

God put on flesh and came to earth and we misunderstood him, betrayed him, denied him, thought he was crazy, hated him and killed him. However Jesus was actually supposed to suffer that way. It was part of his role as the Christ to come and suffer and die and be buried and then rise. Jesus understands the very worst that earth has to give because he experienced it first hand. He was rejected by everyone. His family, his hometown, his disciples, his people group, the religious leaders (who of all people should have recognized him as their savior) also rejected him.

But he was chosen by God. And we know that because he rose from the dead. Jesus’ resurrection is the sign that God vindicated him. Jesus is the Christ, the Son of the living God and he is our savior. And we know that because God rose him from the dead never to die again. Jesus’ whole life was authenticated by his resurrection. And that’s why Peter calls him a living stone. We know that he is God’s chosen one, God’s messiah, God’s Christ, because he is alive.

Peter says, as we come to Jesus, as we live our Christian life hoping in Jesus, God is building us up into a structure. So God is not concerned only for you, but he is building you up as one stone among many into this spiritual house. Peter is using a metaphor. He says it is a spiritual house. Even though we might call the building or location where our church meets “the church,” it’s not. It’s just a building. This local church is comprised of the members of the church that gather together.

So imagine, if you will, God being a master builder and he is selecting stones according to his blueprints and he is building a house for himself. And Peter will say in a moment that Jesus is the cornerstone. He is the most important and necessary part of this structure. Every other stone is lined up according to this one stone, Jesus.

このことについて考えてみましょう。キリスト教の信仰の中には、特に受け入れがたいものがあります。その一例が "キリストの唯一性" です。私たちは、救われる唯一の方法は、ナザレのイエス・キリストを信じることでであると信じています。

使徒の働き4:1-12を読んでみてください。ここでペテロは、イエス様を「要の石」と呼び、救いはイエス様を通してのみ得られるという事実につなげています。

また、ヨハネの福音書14章6節には、イエス様ご自身が神への唯一の道であると主張され

また、この構造で興味深いのは、すべての石が生きていることです。つまり、神が石を積み重ねることで構造が成長するだけでなく、石自体が、それぞれの役割に応じて成長し、動き、構造に貢献しているのです。

また、これらの石はすべて祭司であり、いけにえを捧げると言っています。つまり、石はただ座っているだけでなく、実際にやるべき仕事があるのです。石たちは祭司なのです。

これは非常に有名な聖句で、キリスト教においては、信者に代わって宗教的なことをするように指定された祭司のカーストや階級があるわけではないことを明確に教えています。すべてのキリスト教徒、すべての信者が祭司です。これは、教会内での役割を否定するものではありません。ある日曜日に牧師のところに行って、「じゃあ、今週は私が牧師になります」と言える人はいません。そうではなく、私たちにはリーダーシップと役割があり、特定の方法で奉仕するための特定の賜物があります。このことについては、ペテロが4章と5章で詳しく説明します。しかし、すべての信者がお互いに祭司としての役割を果たしているという意味があります。

その意味は、すべてのクリスチャンが神に対して平等な立場にあり、お互いに祭司としての役割を果たすことができるということです。では、どのようにしてお互いのために奉仕すればよいのでしょうか？

Think about this: Some beliefs in Christianity can be particularly difficult to accept. One example is the "Exclusivity of Christ." We believe that the only way to be saved is through faith in Jesus Christ of Nazareth.

Read Acts 4:1-12. Here Peter identifies Jesus as "the cornerstone" and connects that to the fact that salvation is only through Jesus.

Also what is really intriguing about this structure is that all the stones are alive. So it's not simply that when God stacks stones on top of each other the structure grows, but the stones themselves, each one, is also growing, moving, and personally contributing to the structure according to its role.

He also says all these stones are priests and offer sacrifices. So the stones don't just sit, but we actually have tasks to do. The stones are the priests.

This is a very well known passage in scripture that clearly teaches that in Christianity, there is not a priestly caste or class of people that are designated to doing the religious things on behalf of the adherents. All Christians, all believers are priests. This does not negate roles within the church. No one could go up to their pastor one Sunday and say, "So, this week I'm gonna be the pastor." No, we still have leadership and roles and specific gifting for serving in specific ways. Peter will talk more about this in chapters 4 and 5. But there is a sense in which all believers act as priests for each other.

What it does mean is that all Christians have equal standing with God and we are all able to perform priestly duties for one another. How do we do that for each other?

例えば、人生で何かが起こり、祈りが必要だと感じたら、牧師に相談するのが賢明です。牧師はあなたの魂を見守る役目を担っているからです（ヘブル13: 17）。しかし、教会の他のクリスチャンに相談することもできます。私たちは皆、祈りの中でお互いのためにとりなし合うことができます。もし、聖書に書かれていることが分からなければ、自分で調べて勉強することができます。そして、他のクリスチャンに助けを求めることができます。キリスト教の聖なる書物は、一般の人々には伏せられていません。誰もが神様の言葉を読めるように、できるだけ多くの言語や方言に翻訳されています。

聖書についての重要な信念は、それが明確であるということです。 聖書のすべてが同じように明確なわけではありませんが（第二ペテロ3:15-16）、聖書は、神様を知りたいと心から願う人が読んで理解することができます。

申命記29:29を読んでみましょう。神は人類に知識を啓示されました。それは、聖書に書き記されています（別の例として、エペソ3:1-5も見てください）。聖書を持つ目的は、私たちがそれに書かれていることに従うためです。聖書の著者は、自分が書いていることが、それを読む人に理解されることを前提としています。新約聖書の著者も、旧約聖書から利益を得るために、旧約聖書が読まれ、理解されることを前提としています（ローマ15:4、第二テモテ3:16-17参照）。

しかし、神の霊が私たちに理解を与えてくださらなければ、私たちは聖書の意味を見分けることができません。神様の助けが必要なのです。しかし、神を賛美しましょう。神はご自分の民に御霊を与えてくださいました（第一コリント2:1-16参照）。

このことは、私たちにとってどのような意味があるのでしょうか？

一つの応用として、私たちは聖書を読むべきです。たくさん読むべきです。これは、万物の創造主からの啓示であり、この世界が何であるか、私たちがなぜここにいるのか、神が誰であり、どうすれば神を知ることができるのかを教えてくださいます。聖書を読みましょう！

なぜこのようなことが言えるのか？ どうしてこのようなことが可能なのでしょうか？ 私たちのように罪深い者が、他のクリスチャンのために祈り、罪が赦されているという保証を与えることができるのでしょうか？ 神に受け入れられるような生き方ができるのでしょうか？

For example, if something happens in your life and you feel like you need some prayer, it would be wise to talk to your pastors because they are charged with keeping watch over your soul (Hebrews 13:17). But you can also talk to any other Christian in the church. We can all intercede for one another in prayer. If you don't understand something the Bible says, you can look it up yourself and study it yourself! And you can ask other Christians for help. The sacred book of Christianity is not withheld from the general people. It is translated into as many languages and dialects as possible so that everyone can read God's Word.

An important belief about the Bible is that it is clear. Although not all of Scripture is equally clear (2 Peter 3:15-16), the Bible is able to be read and understood by those who sincerely wish to know God.

Read Deuteronomy 29:29. God has revealed knowledge to humanity. It is written down in the Bible (see also Ephesians 3:1-5 for another example). The purpose of having the Bible is that we would obey what it says. The authors of Scripture assume that what they are writing can be understood by those who will read it. Writers of the New Testament also assume that the Old Testament can be read and understood for purpose of receiving benefit from it (see Romans 15:4; 2 Timothy 3:16-17).

Even so, unless God's Spirit gives us understanding we will not be able to discern the meaning of Scripture. We need God's help. However, praise God, he has given his Spirit to his people (see 1 Corinthians 2:1-16).

What does this mean for us?

One application is that we should read our Bibles. We should read them a lot! This is revelation from the creator of all things to tell us what this world is about and why we are here and who he is and how we can know him! Read the Bible!

Why is all this true? How is this possible? How could we, being as sinful as we are, pray for another Christian and give them assurance that their sins are forgiven? How could we ever hope to live our lives in a way that is acceptable to God?

5節の最後で、ペテロは「イエスを通して」と言っています。イエス様は、唯一の真の祭司です。贖いに必要な唯一の真のいけにえを捧げてくださいました。ご自身を捧げられたのです。イエス様の死によって私たちの罪がすべて赦されるので、イエス様の死が私たちの死の代わりになります。また、イエス様の完全な人生が私たちの人生の代わりになっているので、私たちの良い行いはすべて罪で汚染されていますが、神様は私たちを完全なものとして扱ってくださるので、私たちが神様のために行うことはすべて完全なものとして受け入れてくださいます。

つまり、教会とは、神の民が全体として集まったものです。私たちは、神様とお互いに仕えるために結ばれています。教会は、成長する構造物です。教会は組織であると同時に有機体でもあります。組織化された有機体です。それは有機的な構造です。教会は、単に構造や組織ではありません。また、単に有機的に成長するものでもありません。両方なのです。

教会にはリーダーシップがあります。聖書が地域教会に規定しているリーダーシップは、複数の男性の長老です（ピリピ1: 1、第一テモテ3: 1-7）。また、地元の教会には、執事という職があります（ピリピ1: 1、第一テモテ3: 8~13）。執事たちは、教会の様々な働きをコーディネートします。また、教会のメンバーもいます（ピリピ1: 1）。地元の教会のすべてのメンバーは、お互いにミニストリーを行い、ノンクリスチャンに手を差し伸べて福音を伝え、教会に連れてくるのです。長老や執事たちももちろん教会のメンバーであり、教会の全員がそれぞれの役割に応じてお互いに服従します。

建物のレンガの例えで考えてみましょう。神様は、教会を建てる棟梁のような方です。神様は私たち一人一人を選び、その教会に置いてくださいました。これには2つの意味があります。(1) あなたが必要だということです。神様は、あなたが必要だと判断されました。あなたが与えられた賜物を使って周りの人々に仕えるために、あなたを選び、救い、特定の地域の教会に置いてくださったのです。そして、私たちは皆、あなたの奉仕を必要としています。だから、あなたは必要なのです。(2)これは、あなたが自律的ではないということです。私たちがあなたを必要としているように、あなたも他の人を必要としています。あなたは多くの人の一つの石です。あなたは、他の多くの石の上に安置されており、その石はすべてイエスの上に安置されているのです。あなたのことを知っているのは誰ですか？あなたがどのように罪の誘惑にさらされているか、誰が知っていますか？誰があなたのことを知っているのでしょうか？もし、あなたの人生にそのような人がいなければ、あなたはクリスチャンが生きるべきように生きることができません。

At the end of verse 5, Peter says, “through Jesus.” Jesus is the one true priest. He offered the one true sacrifice that is necessary for atonement. He gave himself. Jesus’ death is substituted for our death, because through his death all our sins are forgiven. And because Jesus’ perfect life is substituted for our life, even though all our good works are polluted with sin, God treats us as though we are perfect and so everything that we do for God he accepts as though it is perfect.

So, the church is God’s people together as a whole. We are united together to serve God and each other. The church is a structure that grows. It is both an organization and an organism. It is an organized organism. It is an organic structure. The church is not simply structure and organization. And it is not simply an organic growing thing. It is both.

There is leadership in churches. The leadership that the Bible prescribes for local churches is multiple male elders (Philippians 1:1; 1 Timothy 3:1-7). There is also an office of deacons in local churches (Philippians 1:1; 1 Timothy 3:8-13). Deacons coordinate the various ministries of the church. And there are members of churches (Philippians 1:1). All the members of a local church are to do ministry for each other and to reach out to non-Christians to tell them the gospel and bring them into the church. Elders and Deacons, of course, are also members of the church and everyone in the church submits to one another according to their roles.

Think about the metaphor of bricks in a building. God is like the master builder of his church. God chose each one of us and placed us in his church. This means two things. (1) It means that you are necessary. God has decided you are necessary. He has chosen you, saved you and placed you in a specific local church in order that you would use the gifts he has given you to serve those around you. And we all need your service. So you are necessary. (2) This means that you are not autonomous. Just as we need you, you need others. You are one stone among many. You are resting on top of a lot of other stones that are all resting on Jesus. Who knows you? Who knows the ways you are tempted to sin? Who can you call in a moment’s notice and say, “I need some prayer”? If you don’t have people like that in your life then you are not able to live as a Christian ought to live.

6-8節をお読みください。

ペテロが手紙を書いた人々は、社会や家族、友人から拒絶された経験を持っていました。そのため、様々な人から恥をかかされた経験から、イエス様に従ったこと、クリスチャンになったことは間違いだったのではないかと考えたくなったのではないのでしょうか。

ペテロは、旧約聖書の3つの箇所を引用して、神がイエスを選び、イエスが唯一の真のキリストであることを示しました。また、ペテロが生きた石という比喩を用いたのもここからです。だから、もしあなたが彼を信じるなら、イエスが一時的に拒絶され、恥をかかされたように、あなたもまた拒絶され、恥をかかされることになる。しかし、イエスは神に選ばれた要の石です。そして、イエス様は復活と昇天によって、苦難の時の後に栄光と名誉を受けられました。そして、私たちがそうなるのです。イエス様が戻ってこられるとき、私たちはあがないを受け、永遠に栄光と名誉を受けるのです。

私たちの人生のパターンは、イエス様の人生のパターンに似ています。それは苦しみであり、そして栄光です。聖書の中には、クリスチャンの人生全体が苦しみとして特徴づけられている箇所があります（使徒の働き14: 22、ローマ8: 17）。「苦しみ」という言葉は、クリスチャンの人生を指して使うことができます。イエスは、自分に従うことは、十字架につけられるようなものだと言われました（マタイ16:24、マルコ8:34、ルカ14:27）。それは毎日の耐え難い死のようなものです。しかし、それは死では終わりません。復活で終わるのです。これが私たちの希望であり、今の私たちの生き方を変えるものなのです。

しかし、イエス様を信じない人はどうでしょうか？ ペテロは7-8節でこの質問に答えています。彼らはイエス様を拒絶しており、それがつまずきにつながっていると言います。イエス様は要の石であり続けます。誰かがイエス様を信じていないからといって、イエス様は何も変わりません。しかし、イエス様を信じて、神様に選ばれてイエス様の上に建つもう一つの石になるのではなく、イエス様の上でつまずくのです。

イエス様につまずくとは、どういうことでしょうか？ ペテロは詩篇118:22を引用しています。詩篇118:21-24を読んでみましょう。

Read verses 6-8.

The audience Peter wrote to experienced rejection from society, family, and friends. And so as they experienced shame from various people in their lives it was probably tempting for them to think that they had made a mistake in following Jesus and becoming a Christian.

Peter quotes three Old Testament passages to show that God chose Jesus and he is the one true Christ. And this is also where Peter got his metaphor of living stones. So if you believe in him, just as Jesus was rejected and shamed for a time, so you also will be rejected and shamed. But Jesus is God's chosen cornerstone. And by his resurrection and ascension, Jesus received glory and honor after his time of suffering. And so it will be with us. When Jesus comes back, we will be vindicated and we will receive glory and honor forever.

The pattern of our lives mimic the pattern of Jesus' life. It is suffering and then glory. There are places in scripture where the entire Christian life is characterized as suffering (Acts 14:22; Romans 8:17). You could use the word "suffering" to refer to the Christian life. Jesus said following him is like being crucified (Matthew 16:24; Mark 8:34; Luke 14:27). It is like excruciating death everyday. But, it does not end in death. It ends in resurrection! This is our hope and this is what changes the way we live now.

But what about people that don't believe in Jesus? Peter answers this question in verses 7-8. He says they have rejected Jesus and that leads to them stumbling. Jesus remains the cornerstone. Nothing changes about Jesus just because someone doesn't believe in him. But rather than believe in him and thus be another stone that is chosen by God and built on Jesus, they stumble over him.

What does it mean to stumble over Jesus? Peter quotes Psalm 118:22. Read Psalm 118:21-24.

イエス様を望み、イエス様を信じる事が救いにつながります。だから、そうしないでいると、非難される結果になります。イエス様を信じないと、あなたは救われません。そして、それはあなたの没落をもたらします。ノンクリスチャンは、今は輝かしい人生を送っているかもしれませんが、イエス様が戻ってきたときには、永遠の恥と不名誉の中で生きることになります。

そして、8節の最後には、「彼らがつまずくのは、みことばに従わないからであり、また、そうなるように定められていたのです。」という言葉があります。

これはどういうことでしょうか？ 神は、人々が救われず、永遠に非難される運命にしているのでしょうか。神様は、この人たちは信じないとあらかじめ決めていただろうのでしょうか。

ですから、難しい文章を明確な文章で解釈するという聖書解釈の原則があります。聖書は、いろいろな人が、いろいろな場所で、いろいろな時代に書いたものですが、主著者は神様一人です。ですから、全体として統一されているのです。

新約聖書の他の場所から、ここで参考になるテキストがいくつかあります。マタイ11:25-26とローマ1:18-31を読んでみてください。

これはとても重要なことです。神様が救われるように選ばれた人々のグループ、すなわち教会があります。マタイ11:25-26で、イエス様が「幼子たち」と言っているのはこの人たちです。

そして、それ以外の人たちがいます。この他のグループは、救いに選ばれていません。しかし、神様はそのような人たちを非難するように定めてはいません。彼らの人生に介入して、彼らを硬化させ、非難の方向に押しやるのではなく、むしろ、彼らを救いに選ばないのです。神は彼らの人生に介入しないのです。ローマ人への手紙1章にあるように、神の怒りは、人々が自分の欲望のままに生きるのを許すことに表れています。その人の人生に介入して恵みや憐れみを与えるのではなく、その人が好きなように生きることを許しているのです。

私たちは高慢になり、クリスチャンでない人を見下して、「あの人たちはひどい罪人だ」と思うかもしれませんが。しかしそれは、私たちが罪深い欲望のままに生きないのは、神が恵みによって私たちの人生に介入してくださるからだということを忘れているということです。

Hoping in Jesus and believing in Jesus results in salvation. So to not do so results in condemnation. If you do not believe in Jesus, you are not saved. And it results in your downfall. Non-Christians might live a glorious life now, but they will live in eternal shame and dishonor when Jesus comes back.

Then at the end of verse 8 we have this phrase: "They stumble because they disobey the word, as they were destined to do."

What does that mean? Is God making it people's destiny to not be saved and be condemned forever? Does God decide beforehand that these people will not believe?

So there is a Bible interpretation principle that says to interpret difficult texts with clear texts. The Bible was written by all kinds of different people in different places at different times, but it has one main author, God. And so it is a unified whole.

There are a couple texts from other places in the New Testament that are helpful here. Read Matthew 11:25-26 and Romans 1:18-31.

This is very important. There is a group of people that God elects to be saved: the church. In Matthew 11:25-26 this is who Jesus refers to as "little children."

And there is everyone else. This other group is not elected to salvation. But also God does not predestine them to condemnation. He does not intervene in their lives and harden them and push them toward condemnation, but rather he just does not elect them to salvation. He does not intervene in their lives. As Romans 1 says, God's wrath is revealed in that He lets people live according to their desires. Rather than intervening in their lives and giving grace and mercy, he gives them up to live as they wish.

And we could get very prideful and look down at non-Christians and think, "Those horrible sinners." But that would mean that we forgot that the only reason we ever don't live according to our sinful desires is because God intervenes in our lives by grace.

このようなやり方をする神様は悪だと思いかもかもしれません。人々が救われないのは、神様のせいだと思いかもかもしれません。ペテロは、すべての責任を人間に負わせることに問題はありません。私たちにはすべての責任があります。「彼らがつまずくのは、みことばに従わないからだ」と言っています。

それが、イエス様を信じない人の運命なのです。恵みによって、栄光と名誉のために運命づけられているのです。そして、信じていないからこそ、その罪による罰を正当に受けるのです。

そうすると、私たちはつまずく運命にあるのではなく、グループとして、神の民である教会として、名誉と栄光のために運命づけられているということになります。では、今ここにいる私たちはどのような集団なのでしょう。

9-10節を読んでください

ペテロは再び旧約聖書に戻って、教会が、神が最初にイスラエルを選んだときの計画の成就であることを示しています。出エジプト記19章1～8節とイザヤ書43章19～21節を読んでみましょう。

出エジプト記19章では、神は民をエジプトの奴隷状態から救い出し、彼らを新しい民、国民として確立しようとしています。彼らを神の民とし、神ご自身がそこにおられる神となるための契約を結ばれるのです。

神は彼らを王である祭司、すなわち祭司の王国と呼んでいます。神の祭司、神の民として、彼らには特別な目的がありました。イスラエルは世界の中で特別な役割を持っていました。彼らは、神様と地上の他のすべての国々との間の仲介者でした。神様を知るためには、神様の民であるイスラエルを通さなければなりません。

イザヤ書43章では、神様がご自分の民をバビロンからの亡命から連れ出すことを示すために、エジプトからの出エジプトの言葉を使っています。神は、選ばれた民が神の賛美を宣言するために、その民のために道を開くと約束されています。

You might think that God is evil for doing things this way. You might feel like God is to blame for people not being saved. Peter has no problem putting all the blame on humans. We are entirely culpable. He says, “**they** stumble because they disobey the word.”

So that is the destiny of people who do not believe in Jesus. By grace, we are destined for glory and honor. And they will justly receive the punishment due their sins because they don't believe.

So then, we are not destined to stumble, but rather we, as a group, as God's people, the church, are destined for honor and glory. So what kind of group are we here and now?

Read verses 9-10

Peter is once again reaching back into the Old Testament to show that the church is the fulfillment of God's plan when he initially chose Israel. Take a moment to read Exodus 19:1-8 and Isaiah 43:19-21.

In Exodus 19, God has just redeemed his people from slavery in Egypt and he is about to establish them as a new people, a nation. He is making a covenant with them for them to be his people and for He himself to be their God.

God calls them a royal priesthood, or a kingdom of priests. As God's priests and his people, they had a special purpose. Israel had a special role in the world. They were the mediators between God and all the other nations on earth. In order to know God, you needed to come through his people, Israel.

In Isaiah 43, God is using language from the original exodus from Egypt to show that he will bring his people out of exile from Babylon. He promises to make a way for his chosen people in order that they will declare his praise.

そして、第一ペテロ2:9-10では、ペテロはこれらの箇所を参照し、これらの称号をすべて神の新しい契約の民である教会に与えています。教会は、神に選ばれた民族であり、王である祭司であり、聖なる国民です。教会は神の民です。そして、その目的は、教会が神の聖なる祭司職として、神の優れた点を世に宣言し、人々を神のもとに導くことです。

神様が他の誰よりも愛している特定の民族はありません。ペテロは小アジアの教会群に向けて書いていますが、そこには様々な種類の人々が集まっています。ユダヤ人も非ユダヤ人もいろんなタイプの人っていて、ペテロは彼らは一つの民族だと言っています。教会は神の民です。民族が私たちを分けることはありません。私たちは、イエス様という一人の究極の王を持つ新しい民族です。そして、彼がすべてを支配しています。

そして私たちの使命は、神の素晴らしさを宣べ伝えることです。伝道は、教会の使命を遂行する仕事です。そして、私たちが伝道するときには、何も恥じることはありません! 神様は栄光に満ちた素晴らしい方です。実際に伝道の会話をして、時間をかけて福音を説明することができ、誰かが本当に聞いてくれたら、神様がしてくださった素晴らしいことや、神様がどれほど美しいかを伝えるのはとても楽しいことです。

教会は神の民です。私たちは、あわれみを受けた人々です。そして、神の民としての私たちの主な仕事は、神の素晴らしさを人々に伝えることです。

And here in 1 Peter 2:9-10, Peter references these passages and assigns all these titles to God's new covenant people, the church. The church is God's chosen race, royal priesthood, and holy nation. The church is God's people. And the purpose is that the church, as God's holy priesthood, would declare God's excellencies to the world to bring people to him.

There is not one specific ethnicity that God loves more than any other. Peter is writing to a group of churches in Asia Minor that are full of all kinds of people. Jews and non-Jews of all types and Peter says they are one race. The church is the people of God. Ethnicity does not separate us. We are a new nation with one ultimate king, Jesus. And he rules over everything.

And our mission is to proclaim God's excellencies. Evangelism is the task that carries out the mission of the church. And there is nothing to be ashamed about when we evangelize! God is glorious and excellent! When you actually get to have a good evangelistic conversation where you are able to take time to explain the gospel—and someone really listens—it is very enjoyable to tell people all the wonderful things that God has done and how beautiful he is.

The church is God's people. We are the people that have received mercy. And our main task as God's people is to tell people how great God is.

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

6. 自分が他のクリスチャンのために司祭としての役割を果たすことができると知って、どのように感じますか？ あなたは教会の重要な一員です。聖書と祈りを通して、他のクリスチャンが神のもとに来るのを助けることができます。
7. 神様がどのようにあなたを選び、どのようにあなたをあわれみ、どのようにあなたを救いに導いたかという、救いにおける神様の主権について考えるとき、あなたはどのように感じますか？
8. 神様の優れた点をリストアップしてください。私たちを救うために神様がしてくださったすべてのことを考えてみましょう。
9. 神様の素晴らしさを伝えたい人を思い浮かべてください。その人たちの名前を書いて、その人たちが福音を信じてくれるように祈る習慣を始めましょう。神様がどれほど偉大で、イエス様を通して何をしてくださったかを伝える大胆さを神様が与えてくださるように祈りましょう。
10. あなたが伝道について考えるとき、興奮しますか？ 怖いですか？ 威圧的ですか？ なぜでしょうか？ イエス様のことを人々に伝えるために、何を変える必要がありますか？ 福音についてもっと知識が必要ですか？ 恐れを悔い改める必要がありますか？ ノンクリスチャンに会うのに、もっと戦略的になる必要がありますか？ これらを祈りのリクエストとして神様に届けましょう。神様に助けを求めましょう。他の人にもあなたのために祈ってもらいましょう。

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. How does it feel to know that you can act as a priest for other Christians? You are an important part of the church! Through the Bible and prayer, you can help other Christians to come to God.
2. When you think about God's sovereignty in salvation — how he actively chose you and had mercy on you and brought you to salvation — how does it make you feel?
3. Make a list of God's excellencies. Think about all the things God has done to save us.
4. Think of people you want to tell about God's excellencies. Write down their names and begin a habit of praying for them to believe the gospel. Pray that God will give you boldness to tell them how great God is and what he has done through Jesus.
5. When you think about evangelism is it exciting? Scary? Intimidating? Why? What needs to change so that you feel more able and glad to tell people about Jesus? Do you need more knowledge of the gospel? Do you need to repent of fear? Do you need to be more strategic in meeting non-Christians? Take these to God as prayer requests. Ask God for help! Ask others to pray for you too.

Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

2:11-3:12

キリスト教の倫理観：寄留者として生きること

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

2:11-3:12

Christian Ethics: Living as Exiles

事前の勉強

- ・詩篇34篇を祈りとして読んでみてください。

学び

この学びも半分が過ぎました。おさらいをしましょう。

この手紙は、使徒ペテロのもので、小アジアの教会に向けて書かれたもので、彼らを「寄留している選ばれた人たち」と呼んでいます。これは、この手紙全体のメインテーマです。私たちのアイデンティティは、世間や社会からは拒絶されているが、神様からは選ばれているということです。クリスチャンは寄留者です。私たちは世間から拒絶されていますが、神に選ばれています。私たちは、自分が住んでいる文化や都市にアットホームな感じはありません。そして、私たちは旅人で、イエス様に会うために旅をしているのです。私たちは、この世界が約束してくれる何かを楽しみにしているのではなく、イエス様が戻ってきたときにもたらして下さる救いに待ち望んでいるのです。

この学習では、キリスト教倫理について学びます。私たちはこの質問に答えていきます：私たちは寄留者であり、旅人なので、この世界でどのように生きていけばよいのでしょうか？

2:11-12を読んでください。ペテロは、クリスチャンとして社会と関わる際に、まず最初にしないといけないことはなんだとっていますか？

クリスチャンではない人や社会との関わり方として、私たちが最初にすべきことは、「肉の欲を避ける」ことです。肉の欲を避ける？ どうやってやるんですか？ 心の中にある邪悪な欲望をどうやって断つのでしょうか？ これは悔い改めの話ではありません。悔い改めとは、心を変えることです。それは、罪から離れ、福音を信じ、イエス様に服従することです。悔い改めはクリスチャンの主な特徴の一つですが、これは実は、悔い改めの前に起こるべきことについて語っているのです。

悔い改めは罪に対して行うものですが、実はペテロは、心に欲望がある時点ですでに罪を犯していると言っています。だから、ペテロは、欲望を断つことを勧めています。言い換えれば、避けるということです。自分の欲望を避けるにはどうすればいいのでしょうか？ それはその原因となるものを避けるのです。

Pre-Study

- ・ Read Psalm 34 as a prayer.

Study

We are halfway through this study. Let's do a recap.

This letter is from the Apostle Peter. He writes to a group of churches in Asia Minor and he refers to them as elect exiles. This is the main theme throughout the letter. Our identity is that we are rejected by the world and society, but chosen by God. Christians are exiles. We are rejected by the world, but chosen by God. We don't feel at home in the cultures and cities that we live in. And we are sojourners. We are on our way to meet Jesus. We are not looking forward to anything this world promises to fulfill us, but we are hoping in salvation that Jesus will bring when he comes back.

In this study we will learn about Christian ethics. We will be answering the question: Since we are sojourners and exiles, how are we to live in this world? So as we go through each section we will ask that question.

Read 2:11-12. What is the first thing Peter commands us to do as we relate to society as Christians?

The first thing we do as we relate to non-Christians and society in general is "abstain from the passions of the flesh." Abstain from passions? How do you do that? How do you abstain from evil desires that just happen in your heart? This is not talking about repentance. Repentance is heart change. It is turning away from sin and toward belief in the gospel and submission to Jesus. Repentance is one of the main characteristics of a Christian, but this is actually talking about something that should happen before repentance.

Repentance is something we do in response to sin, but Peter actually says that by the time you have the desires in your heart you have already sinned. So his recommendation is that we abstain from them. In other words, avoid them. How do you avoid your own passions? Avoid the things that cause them.

これは非常に重要なことです。なぜなら、これらの欲望は私たちの魂に戦いを挑んでいるからです。つまり、欲望そのものが私たちの魂を破壊しているのです。ですから、罪深い欲望を持ち続けたり、危険ではないと考えたりすることは、あなたの魂にダメージをもたらすのです。

あなたは情欲に溺れやすいですか？ あなたはメディアの摂取量を見直す必要があります。もしかしたら、ソーシャル・メディアから完全に離れる必要があるかもしれません。あなたは苦味や恨み、不平不満を感じやすいですか？ 友達のグループを変えたり、ソーシャルメディアでフォローするものを変化したりする必要があるかもしれません（1コリント15：33を読んでみてください）。あなたは欲張りですか？ もしかしたら、教会の他のクリスチャンにあなたの予算や支出の習慣を評価してもらい、聖書の原則と照らし合わせる必要があるかもしれません。自分の心を支配しているのはどんな欲望なのか、わからないではありませんか？ その場合、あなたは霊的に非常に危険な状態にあります。あなたのことをよく知っていて、あなたのことを気にかけている信頼できるクリスチャンに、あなたの人生に見られる罪のパターンを教えてもらう必要があります。そうすれば、あなたの明らかなプライドを解消することができるでしょう。

私たちは、日々の生活を意図的に調整し、スケジュールを立て、アレンジすることで、罪深い欲望から離れ、神にふさわしい楽しみに向かうような習慣を身につける必要があります。

どうすればいいのでしょうか？ 非常に現実的な話ですが、自分のカレンダーをみて、時間をかけて、罪深いものではなく、神にかなった生活をするようにスケジュールを組む必要があります。毎日、毎週、毎月、毎年のスケジュールの中で、あなたの心を神に向け、罪から遠ざけるためのシステムを作る必要があります。そして、その作ったシステムに従う必要があります。

This is extremely important because these passions wage war against our souls. So the passions themselves are destructive to our souls. So holding on to sinful passions or thinking they are not dangerous will bring damage to your soul.

Are you prone to lust? You need to reevaluate your media intake. Perhaps you need to get off social media altogether. Are you prone toward bitterness and resentment and complaining? Perhaps you need to change your friend group or edit what you follow on social media (see 1 Corinthians 15:33). Are you greedy? Perhaps you need to have another Christian in your church evaluate your budget and spending habits and match it with Biblical principles. Are you not sure what passions rule your heart? Then you are in a very dangerous position spiritually and you need to ask some trustworthy Christians who know you well and care about you to tell you the sin patterns they see in your life. This will help with your obvious pride.

We need to purposely adjust and schedule and arrange our daily lives so that we have habits in place that push us away from sinful passions and toward godly ones.

How do you do this? This is very practical, but you need to take some time with your personal calendar and schedule a life that is godly and not sinful. You need to set up systems in your daily, weekly, monthly, and yearly schedule that guide your heart toward God and away from sin. And then you need to follow the systems you set up.

ここでは、その例を紹介しします。

私たちが非常に頻繁に行わなければならない神性の2つの最も強力なクリスチャンの習慣は、聖書を読むことと祈ることです。これらは私たちの生活の中で優先されなければなりません。そこで、あなたの一日のスケジュールをこのように考えてみましょう。何時までに仕事に行かなければなりませんか（もしあなたが主婦で、家に子供がいるなら、何時までに親の役割をしななければならないか考えてみてください）。もし、朝9時までに出勤しなければならないのであれば、通勤時間を考える必要があります。例えば、通勤に30分かかるとします。8時30分に家を出ます。家を出る前に何をする必要がありますでしょうか？ シャワーを浴びて、着替えて、朝食を食べて…。これらのことにどれくらいの時間がかかるでしょうか？ 例えば、あなたは朝食に時間をかけたいので、まるまる1時間かかるとします。今、あなたは午前7時30分です。クリスチャンであれば、祈りや聖書を読むことも必要です。例えば、約20分かけて聖書を読む計画を立て、10分は祈りに費やしたいとします。そうすると、さらに30分かかります。7時までに聖書を読み始めなければなりません。しかし、その前にコーヒーを入れて、目を覚ます時間を作る必要があるかもしれません。目覚ましを6時30分にセットしておきましょう。

さて、あなたは朝の計画を立てました。しかし、問題は午前1時に寝ることで、この方法では5時間半の睡眠しか得られず、結局死ぬこととなります。通常、人は毎晩7～8時間の睡眠が必要です。6時30分から逆に数えて10時30分。つまり、10時30分までにベッドに入って眠っている状態です。つまり、9時30分までに寝る準備を始める必要があるのです。スクリーンの電源を切り、アルコールやカフェインを摂らず、刺激の少ない本を30分ほど読みます。そして、聖書を手に取り、詩篇を読んで祈ります。そして、10時15分までに寝室に行き、ベッドに入って電気を消し、眠りにつきます。

これは、夕食をやや早めに食べることを意味しています。つまり、遅くまで仕事をしないということです。子供がいる場合は、子供を早く寝かしつけて、自分にこの時間を与えます。そして、ほとんどの夜、友人や同僚と遅くまで外出しないということです。

他にどんなことができるでしょうか？ 自分が誘惑される特定の欲望に気づいているのであれば、それと戦うのに役立つ聖書箇所を携帯電話や財布にメモしておき、1日のうちの重要な時間にそれを見ることができます。通勤時間には、説教やオーディオ・バイブルを聞いて、礼拝の時間にもできます。

Here's an example of what I mean:

The two most powerful Christian habits of godliness that we must do very frequently are Bible reading and prayer. These must be prioritized in our lives. So think through your daily schedule this way. What time do you need to be at work (if you are a stay at home mom and you have children at home then think about what time you need to be available to parent)? If you need to be at work by 9 am then you need to think about your commute time. Maybe it takes 30 minutes to get to work. So you leave home at 8:30. Before you leave home what do you need to do? Probably shower, get dressed, eat breakfast, etc. How long does all of that take? Let's say you like to take your time at breakfast so it's a whole hour. So now you are at 7:30 am. As a Christian you also need to pray and read your Bible. So let's say you have a Bible reading plan that takes about 20 minutes and you want to spend 10 minutes in prayer. That is another 30 minutes. You need to start reading your Bible by 7:00. But before that you might need to make some coffee and give yourself a few minutes to wake up. So go ahead and set your alarm for 6:30.

Okay, you have your morning planned. However, the problem is you go to bed at 1:00 am so you will only get 5 and a half hours of sleep this way which will eventually kill you. Typically people need 7-8 hours of sleep every night. Count backwards from 6:30 and you get 10:30. This means you need to be in bed *asleep* by 10:30. What that means is that you need to start your process of getting ready for bed by 9:30. Turn off all screens, don't drink alcohol or caffeine, and perhaps read a low-stimulation book for half an hour or so. Then pick up your Bible and pray through a Psalm. Then, go to your bedroom by 10:15, get in bed and turn off the light and go to sleep.

This means you will eat dinner somewhat early. It means you will not work late. It means that if you have children you will put them to bed early enough to give yourself this time. And it means that most nights you will not go out late with friends or coworkers.

What else can you do? If you are aware of specific passions you are tempted by you can copy some Bible verses that help you fight those on a note in your phone or wallet and look at that at key times during the day. You can take your commute and make it a time of worship by listening to a sermon or to an audio Bible.

祈りと聖書を読むことは、クリスチャンの生活にとって非常に重要であり（詩篇1篇を読んでください）、一日のすべてをその活動に費やす必要があります。そして、これを毎日、何週間、何ヶ月、何年も続けると、神様があなたの心に驚くべき働きをしてくださるのがわかりますし、それが立派なふるまいにつながります。その結果、あなたの周りのノンクリスチャンが神をあがめるようになるのです。

12節では、クリスチャンたちが中傷され、悪者扱いされていたことがわかります。しかしペテロは、たとえ彼らがあなたを中傷し、誣告したとしても、訪れの日（イエス様が戻ってくる日）に、彼らが「イエス様、あなたの信者は悪い人です」と言えないように、立派にふるまいなさいと言います。むしろ、私たちの人生が弁護されるので、彼らができることは神をあがめることだけなのです。

11節と12節は、この後の考えの大まかな構成を示しています。クリスチャンとして、私たちは世間から不当な扱いを受けたり、誤解されたりするでしょう。しかし、それに対する私たちの反応は、報復ではありません。むしろ、私たちの反応は、立派に生きるために、肉の欲を断つことです。ですから、たとえ今、あなたの信仰を嘲笑う人がいたとしても、イエス様が戻ってこられる日には、あなたの立派な生き方のため、尊敬の念を抱くはずですよ。

この箇所では、クリスチャンが社会の中でどのように振る舞うべきかを、(1) 政府、(2) 職場、(3) 配偶者、(4) お互いの関係について見ていきます。

2:13-17 - クリスチャンは政府とどのように関わっていくのか？

13節では、クリスチャンが統治者にどのように関わるべきかについて述べています。私たちは、「従わなければなりません。」言い換えれば、少なくとも、クリスチャンは法を守る市民でなければなりません。日本の名誉ある市民、または一時的な居住者であること。それは簡単なことですが、実際にはそんなに簡単なことではありません。だから、「もし、政府に賛成できなかったらどうしよう?」と思うかもしれません。

次の節を見てみましょう。14節では、政府の役割について簡単に説明しています。ペテロは、教会にローマ政府に服従するように言っています。そして、ローマ政府は悪を罰し、善をほめる政府であると説明しています。そして、ローマ政府はそのためイエス様から遣わされたと言っています。

Prayer and Bible reading are so important to the life of a Christian (read Psalm 1) that our whole day must be scheduled around those activities. And then, when you do this everyday for weeks, months, and years on end, you will see God do some amazing work on your heart which will lead to conduct that is honorable. And that will make the non-Christians around you glorify God.

In verse 12 we see that the Christians were being slandered, they were being spoken against as evil. But Peter says even though they slander and falsely accuse you, be honorable so that on the day of visitation (when Jesus comes back) they will not be able to say, "Jesus, your followers are bad people." But rather, our lives will be vindicated and so the only thing they will be able to do is glorify God.

Verses 11 and 12 give the general structure for the thoughts that follow. As Christians we will be mistreated and misunderstood by the world. But our response to that is not retaliation. Rather, our response is abstaining from the passions of the flesh in order to live honorably. So even if people ridicule you for your faith now, they must respect you on the day Jesus comes back for your honorable lifestyle.

In this section we will look at how Christians are to behave in society in relation to (1) government, (2) the workplace, (3) their spouse, and (4) one another.

2:13-17 - How do Christians relate to the government?

Verse 13 discusses how Christians are supposed to relate to the governing authorities. We are to "be subject." In other words, at the very least, Christians are to be law-abiding citizens. Be honorable citizens or temporary residents of Japan. That is simple enough, but nothing is really that simple. So you might be thinking, "What if I don't agree with the government?"

Look at the next verse. Verse 14 gives a quick description of the function of government. Peter is telling the churches to submit to the Roman government. And he is describing the Roman government as one that punishes evil and praises good. And he says the Roman government was sent by Jesus to do so.

ペテロは無知ではない。この政府が、イエスを無罪で十字架にかけた政府であることを知っているからです。しかし、ローマが行った明らかな悪事にもかかわらず、ペテロはローマを、一般的には悪を罰し、善をほめる役割を持つ政府であると表現しています。だから、私たちは政府に従うべきなのです。

では、「もし、政府がこれらの仕事を逆にして、善を罰し、悪をほめるように機能し始めたらどうだろう?」と考え始めるかもしれません。使徒5:29でペテロは、「私たちは人よりも神に従わなければなりません。」と言いました。ですから、クリスチャンは、従うことが神の命令に背くことになる場合、政府に従うべきではありません。もし政府が「福音を伝えるな」と言っても、クリスチャンは伝えます。もし政府が「キリストを否定しろ」と言ったとしても、クリスチャンはキリストを否定しません。(クリスチャンが政府とどのように関わるかについての詳しい聖句は、ローマ人への手紙13:1-7を読むか、使徒の働きを読んで、クリスチャンと教会が政府とどのように関わるかをメモしてください)

次に、15節を見てください。なぜ、それほど立派ではない政府に服従しなければならないのでしょうか? その答えは、政府に服従し、善良な市民となることによって、キリスト教が社会にとって悪いものと言う人々を黙らせることが神の御心だからです。そしてペテロは、人々がそう言うのは、無知だからだと付け加えます。あなたは、キリスト教徒が設立した学校や病院の恩恵を受けたことがありますか? おそらく、あると思います。それは、キリスト教徒が時代を超えて、社会的に良いことをしようとしてきたからです。単に人目につかないように、迷惑をかけないようにしてきたものではありません。そうではなく、社会の改善、向上、善良さを求めてきたのです。「善を行う」とは、単に悪いことをしないことではありません。それは、世の中のために積極的に力を発揮することです。

考えてみてください。

あなたの街にはどんな良いことが必要ですか? あなたの近所ではどんな良いことが必要ですか? ボランティアを必要としているフードバンクはありますか? 障がい者を助ける福祉団体はありますか? 面倒を見なければならないお年寄りはいいますか? 養子縁組をしなければならない孤児がいますか? あなたの街で積極的に良いことをするにはどうしたらいいでしょうか? もし知らなければ、あなたの教会に聞いてみてください。もし教会が知らなければ、地元の役所に行ってボランティア活動の方法を尋ね、教会の長老たちに伝えれば、教会も手伝えることができます。

Peter is not ignorant. He knows this is the same government that crucified Jesus without charges. However, in spite of the obvious evils that Rome did, Peter describes it as one that — in general— functioned to punish evil and praise good. Thus, we ought to submit to it.

Then you might start to ask, “What if a government reverses those tasks and begins to function so that it punishes good and praises evil?” In Acts 5:29 Peter said, “We must obey God rather than men.” So Christians should not obey the government when obedience would mean disobeying a command of God. If a government says “don’t evangelize” then Christians still evangelize. If a government says “deny Christ,” then Christians don’t deny Christ. (For more Scripture about how Christians relate to government, read Romans 13:1-7 or read through Acts taking notes on how Christians and the church interact with the governing authorities.)

Next, look at verse 15. Why should we submit to governments that aren’t that great? The answer is it is God’s will that through submission to government and being good citizens we would silence people who say Christianity is bad for society. And Peter adds, people say that because they are ignorant. Have you ever benefited from a school or hospital established by Christians? Probably, you have. That’s because Christians, throughout the ages, have sought to do good in society. They have not simply wanted to go unnoticed or not be an annoyance. No, they have sought the betterment, the improvement, the good of society. To “do good” is not simply not doing bad. It is to actually be a proactive force for good in the world.

Think about this:

What good needs to be done in your city? What good needs to be done in your neighborhood? Is there a food bank that needs volunteers? Is there a welfare organization that helps people with disabilities? Are there elderly who need to be looked after? Are there orphans that need to be adopted? How can you proactively be a force for good in your city? If you don’t know, ask your church. If your church doesn’t know then go to your local government office and ask for ways to volunteer and then tell the elders of your church so the church can help too.

次に、16節が興味深い。ペテロは、「自由な者として」生きなさいと言っています。ペテロが言及しているのは、神のことされることの教義です。クリスチャンである私たちは、イエスの血によって買い取られ、贖われ、聖霊によって新しく生まれ変わり、父なる神の養子となりました。神は万物を支配する真の支配者ですから、私たちは神の子どもでもあり、現実には世のあらゆる権力者の上にいるのです。私たちは、神以外の誰にも服従する必要はありません。しかし、ペテロは、このような理由から、私たちは神のしもべとして、神が私たちの人生に置かれた権威に自由に服従して、立派に生きることを選ぶのだと言っています。つまり、私たちは政府への義務や忠誠心からではありません。神に栄光をもたらすために、自由に政府に服従するのです。イエスはこの同じことをマタイ17:24-27で教えています。

17節は、先ほどの話をまとめたものだと思います。「全ての人を敬い」（誰もが平等に扱われ、それは良い扱いを受けることを意味します）。「兄弟たちを愛し」（クリスチャンには特別な愛があります）。「神を恐れ」（神は究極の権威であるから、神への信頼をやめず、神の上になんか権威も置かない）。「王を敬いなさい」（クリスチャンとしてふさわしい政府への服従）。

2:18-20 労働者は上司や職場とどのように関わっているのか？

すぐに気がつくと思いますが、この節では、従業員と雇用者の関係について語っているのではありません。奴隷と主人の関係について述べています。1世紀のグレコローマン世界では、奴隷制度は社会の基本的な制度でした。人種によるものではありませんでしたが、奴隷になるには様々な理由がありました。ペテロはここで、善良で優しい主人もいれば、不正な主人もいたと言っています。主人によって、奴隷としての経験は明らかに異なります。

当時の奴隷制度についての聖書の教えは、理想的には、主人は奴隷を解放して対等に扱うべきだということです（ピレモンへの手紙）。それができなければ、主人は奴隷を公平かつ親切に扱うべきです（エペソ6:9、コリント4:1）。奴隷は、自由になれるなら、そうすべきです（1コリント7:20-22）。そうでなければ、もし奴隷であり続けるなら、主人によく仕えなければなりません（エペソ6:1-8、コリント3:22-25）。これらのほとんどの箇所では、社会的にどのような立場にあっても、私たちは皆等しくイエスの奴隷であることが肯定されており、他人を奴隷化したり虐待したりすることは正しくありません。実際には、主人はただ一人で、それはイエス様です。

Next, verse 16 is interesting. Peter says, live as people who are free. Peter is referencing the doctrine of adoption. As Christians, we have been purchased and redeemed by the blood of Jesus and born again by the Holy Spirit and adopted by God the Father. God is the actual true ruler of all things, so since we are his children we are, in reality, above all the authorities of the world. We don't have to submit to anyone but God. But Peter says it is for this exact reason that, as God's servants, we would choose to live honorably and freely submit to authorities that he has placed in our lives. So we don't do this out of obligation or allegiance to the government. We submit to the government freely in order to bring glory to God. Jesus teaches this same thing in Matt. 17:24-27.

Verse 17 I think is a summary of what he just said. "Honor everyone" (everyone gets treated equally and that means they are treated well), "Love the brotherhood" (there is special love for Christians). "Fear God" (he is the ultimate authority, so don't stop trusting in him, don't put any authority above him). "Honor the emperor" (submit to the government as is appropriate as a Christian).

2:18-20 - How do workers relate to their bosses and work places?

You'll notice right away that these verses are not talking about the employee and employer relationship. They are talking about the slave and master relationship. In the Greco-Roman world in the first century, slavery was a fundamental institution of society. It was not based on race, but there were all kinds of reasons that someone would become a slave. Peter says here that there were good and gentle masters, but there were also unjust masters. Depending on your master, your experience as a slave would differ obviously.

The Biblical teaching concerning the kind of slavery that was happening in that place and time is that ideally, masters should set their slaves free and treat them as equals (Philemon). If they would not, then masters should treat them fairly and kindly (Eph. 6:9; Col. 4:1). Slaves, if they can get free, should do so (1 Corinthians 7:20-22). Otherwise, if they continue as slaves they should serve their masters well (Eph. 6:1-8; Col. 3:22-25). In most of these passages it is affirmed that, no matter what position we have in society, we are all equally slaves of Jesus so it is not right to enslave or mistreat other people. In reality, there is only one master and that is Jesus.

そうは言っても、ちょっと応用を広げて、日本の都市部に住む私たちにとっての職場に当てはめて考えてみます。では、クリスチャンとしてどのような働き手であるべきか。「敬意を込めて主人に従いなさい」とあります。言い換えれば、良い仕事を良い態度ですることです。そして、自分の上司がそれに値すると思うかどうかにかかわらず、それを実行するのです。

奴隷制度と従業員として働くことの大きな違いは、奴隷の場合、許可なく辞めれば、おそらく厳しい罰を受けるということです。だからこそ、ペテロは不当な主人に殴られても、良い仕事を続けなさいと言っているのです。しかし、私たちは奴隷ではありませんから、もし上司や同僚から虐待や嫌がらせを受けているのであれば、仕事を辞めて、弁護士を立てて告発することも検討すべきだと言う必要があると思います。あなたは奴隷ではありません。職場でのセクシャルハラスメントや不道德な行為、虐待を一瞬たりとも容認してはいけません。それを報告し、明らかにし、社会を改善してください。

さて、ペテロが明記しているのは、もしあなたが職場で悪事を働き、そのために罰せられたとしても、それは何の賞賛にも値しないということです。しかし、もしあなたが本当に素晴らしい仕事をして、イエスのしもべとして神の栄光のために働いているのに、上司や同僚があなたにひどい仕打ちをしていたら、その瞬間に神は喜んでおられます。

なぜ神様は私たちの無実の苦しみの瞬間を喜んでくださるのでしょうか？そして、私たちはどうやってそのように行動する強さを見つけようとしているのでしょうか？

2:21-25 - 私たちの救い主であり、報復せずに無実の苦しみを与える模範であるイエス。

私たちが善いことをしながら無実の苦しみを受けることが神様に喜ばれる理由は2つあると思います。(1)神の前に行くなら、神がコントロールしていて信頼できると考えていることを示す。イエス様も私たちのお手本としてこのようにされました(23節)。そして、(2)それは私たちの召しです。これがクリスチャンの人生です。それは、善を行いながら無罪に苦しむという特徴があります。

さて、イエス様の十字架上の苦しみと死は、私たちがどのように生きるべきかの手本となったわけではありません。それはまた、私たちが救われる方法でもあります。24節を見てください。

With that said, I'm going to stretch the application a bit and apply it to the workplace for us in urban Japan. So, what kind of workers should we be as Christians? It says to "be subject to your masters with all respect." In other words, do a good job with a good attitude. And do it whether you think your boss deserves it or not.

One big difference between slavery and working as an employee is that as a slave, if you quit without permission then you will be punished, probably severely. That's why Peter says to continue doing good work despite being beaten by an unjust master. However, since we are not slaves, I must say that if you are being abused or harassed by your boss or coworkers then you need to quit your job and perhaps consider getting a lawyer and pressing charges. You are not a slave. Do not tolerate sexual harassment or immorality or abuse in the workplace for a moment. Report it, expose it, and improve society.

Now, he specifies that if you do evil things at work and are punished for it, there's nothing admirable about that. But if you do a really great job and work for God's glory as a servant of Jesus, and yet your boss or coworkers treat you badly, God is beaming in that moment.

Why is God glad in our moments of innocent suffering? And how are we going to find the strength to act that way?

2:21-25 - Jesus, our savior and example of innocent suffering without retaliating.

I think there are two reasons it would please God when we suffer innocently while doing good.

(1) If we do it mindful of God, then it shows we think God is in control and trustworthy. Jesus did this too as an example to us (see verse 23). And (2) it is our calling. This is the Christian life. It can be characterized as innocent suffering while doing good.

Now Jesus' suffering and death on the cross was not only an example for how we are to live. It is also the way that we are saved. Look at verse 24.

ペテロはこれらの節の中で、イザヤ書52章と53章を参照しています。そこでは、キリストが他の人の罪を贖う身代わりの死を遂げることが預言されています。また、申命記21章22-23節も参照しています。「木」と書いてある英訳の方がわかりやすいが、日本語が間違っているわけではありませんが、ここでの言葉は特に十字架を指しているわけではなく、どちらかという木や単なる材木を指しています。申命記の一節には、木に吊るされた人は死刑を受けたことになり、神に呪われていると書かれています。

イエス様が誰よりも最悪の苦しみを経験されたと言えるのは、十字架の上で私たちの罪に対する神の怒りを受けられたからです。私たちの代わりに罪の呪いを経験されたのです。単にイエス様が肉体的に十字架で死なれたのではなく、他の人の罪のために霊的な、神の罰を経験されたのです。ですから、イエス様の死によって、私たちは神様から罪の罰を受けることはありません。イエス様を信じることによって、私たちの罪に対する神様からの非難や怒りはありません。

しかし、それ以上に、イエス様の死は、私たちの新生を保証するという点でも効果的でした。イエス様の死によって、私たちの魂は買い取られ、聖霊によって新しく生まれ変わりました。私たちは以前の罪の生活に死に、今は義のために生きています。

ペテロは、この逆転現象を要約して、再びイザヤ書53章5節を引用し、「その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された」と言っています。イエスが傷ついたから、私たちはいやしを受ける。イエスは殺され、私たちは命を受けます。イエスは断罪され、私たちは義と認められる。ペテロが25節で言っているように、イエス様の死は私たちの救出を効果的に保証してくれました。私たちは迷子の羊のようでしたが、イエス様は良い羊飼いとして、自分の羊のために命を捧げ、私たち一人一人を救って下さいました。

さて、これをあなたの倫理観に当てはめてみましょう。自分を憎む人のために自分を犠牲にして無罪に苦しみ、その間、文句や脅しを言わず、むしろ許すという倫理観を学校で習ったことはありませんか？

これがキリスト教の倫理観です。私たちの生き方のガイドとなるものです。

Throughout these verses Peter is referencing Isaiah 52 and 53 where it is prophesied that the Christ will die a substitutionary death where he atones for the sins of others. He also references Deuteronomy 21:22-23. It's more obvious in the English translation which says "tree." The Japanese is not necessarily wrong, but the word here doesn't specifically refer to a cross, but more like a tree or just a piece of lumber. The verse in Deuteronomy says that a man who is hanged on a tree has received the death penalty and is cursed by God.

The reason why we can say that Jesus experienced the worst suffering of anyone is because on the cross he received the wrath of God for our sin. He experienced the curse of sin in our place. It was not simply that Jesus physically died on the cross, but rather he experienced spiritual, divine punishment for the sins of others. So through Jesus' death we do not receive punishment for sin from God. Through belief in Jesus, there is no condemnation or wrath from God for our sin.

But more than that, Jesus' death was also effective in that it secured our new birth. Through Jesus' death our souls were bought and the Holy Spirit made us born again. We have died to our old life of sin and now we live to righteousness.

Peter summarizes this reversal by again referencing Isaiah 53:5 saying, "By his wounds you have been healed." Jesus was wounded and we receive healing. Jesus was killed and we receive life. Jesus was condemned and we are declared righteous. As Peter says in verse 25, Jesus' death effectively secured our rescue. We were like sheep lost and going astray, but Jesus, being the Good Shepherd, gave his life for his sheep and saved every one of us.

So now apply this to your ethics. Did you ever learn this ethic in school: suffer innocently while sacrificing yourself for people that hate you; and while you do that, don't complain or make threats, but rather forgive?

This is the Christian ethic. This is the guide for how we live.

イエス様が私たちのために犠牲になってくださったことを考えれば考えるほど、私たちはこのように生きていく強さを持つことができます。現実には、本当に無罪に苦しみを味わった人はこれまでに一人しかいませんでした。それがイエス様でした。そして、あなたとあなたの罪のために苦しんでくださいました。

3:1-7 - クリスチャンの配偶者はどのように関係するのか?

聖書の結婚は、一人の男と一人の女が一生を共にするものです。そして、男も女も価値は同じですが、役割が違います。妻の役割は、夫を尊敬し、服従することです。夫の役割は、妻を導き、愛をもって世話をすることです。

ペテロは、イエス様を待つクリスチャンの妻としてどうあるべきか、延々と教えています。彼は何と言っているのでしょうか？ 夫を尊敬し、服従しなさい。もし、あなたの夫がノンクリスチャンだったらどうしますか？ 同じです。あなたは夫をイエス様に導きたいですか？ それなら、愛と尊敬と服従の妻になりましょう。彼は実際に、もしあなたの夫がクリスチャンでなかったり、聖書に従順でなかったりするなら、夫をクリスチャンにするための最も効果的な方法は、妻の立派なクリスチャンとしての行動を通してかもしれないと言っています。

聖書では、人々を信仰に導くために、言葉で福音を伝えること（マタイ28:18-20、ローマ10:14-15）を重視しているので、これは注目に値します。しかし、未信者の夫を持つ妻にとっては、悔い改めて福音を信じなさいと言うことが、必ずしも彼を信じるようにする最も効果的な手段ではなく、彼女の正しい生活習慣を通して表される神への純粋な恐れなのです。もちろん、ご主人があなたの信仰について尋ねてきたら、それを伝えましょう。誰かに福音を伝える機会を逃さないように、特に身近な人たちに。しかし、ご主人に口うるさく言ったり、プレッシャーをかけたりしてはいけません。

警告：もしあなたの夫が虐待をしているなら、家を出てください。そのために教会があるのですから。クリスチャンの友人を呼んで、事態が解決するまで彼らの家に住みましょう。安全を確保し、必要な助けと保護を受けましょう。

次に、3節と4節で、ペテロは女性の美しさの特徴について述べています。彼は、「あなたの飾りを外面的なものであってはいけません」と言います。これは何を意味しているのでしょうか？ ペテロは「宝石をつけたり、髪を編んだり、化粧をしてはいけない」と言っているのでしょうか？ 私はそうは思いません。多くの聖書と同じように、私たちの心に向けて言っているのです。

The more we think on Jesus' sacrifice for us the more we will have the strength to live this way. In reality, there has only ever been one truly innocent sufferer. And that was Jesus. And he suffered for you and your sin.

3:1-7 - How do Christian spouses relate to each other?

Biblical marriage is one man, one woman, for life. And both the man and the woman are equal in value, but have different roles. The role of the wife is to respect and submit to the husband. The role of the husband is to lead and lovingly care for the wife.

Peter gives an extended teaching on how to be a Christian wife as you wait for Jesus. What does he say? Respect and submit to your husband. What if your husband is a non-Christian? Yes, it's the same. Do you want to win your husband to Jesus? Then be a loving, respectful, submissive wife. He actually says that if your husband is not a Christian, or if he is not submissive to the Bible, then the most effective way to bring him to become a Christian may be through his wife's upstanding Christian conduct.

This is remarkable because the Bible puts a great emphasis on telling people the gospel with words (Matthew 28:18-20; Romans 10:14-15) in order to bring people to faith. But for a wife of an unbelieving husband, it is not telling him to repent and believe the gospel that will necessarily be the most effective means of bringing him to believe, but it is her genuine fear of God expressed through her righteous lifestyle. Of course, if your husband asks you about your faith, then tell him! Don't miss any opportunities to tell anyone the gospel, especially those who are closest to you. But also don't nag or pressure your husband.

Caveat: If your husband is abusive, then get out of the house. That's why the church exists. Call a Christian friend and live at their house while things get sorted out. Be safe and get the help and protection you need.

Next in verses 3 and 4 Peter discusses what makes women beautiful. He says "Don't let your adorning be external." What does that mean? Is Peter saying "Don't wear jewelry, braid your hair or wear makeup"? I don't think that's what he is intending to say. He is —like much of Scripture — addressing our hearts.

あなたの「飾り」とは？飾りとは、あなたを美しくすることです。他の人があなたを見て、「わあ、あの人は美しい」と思うようにすることです。ペテロは、あなたの飾りを外面的なものにしないようにと言っています。むしろ、あなたの心を飾りなさいと言っています。柔和で穏やかな霊で自分を飾りなさい。正しい性格で自分を飾りましょう。愛と善行で自分を飾りましょう。どこに行くかわからないままアブラハムに従ったサラのように、恐れを知らない信仰で自分を飾りましょう。

ペテロは、この美しさは神にとって非常に価値あるものだと言います。そして、神の意見は本当に唯一の重要なものです。また、この美しさが唯一の永遠の美しさであることにも注目してください。他のすべての美は、老朽化し、朽ち果て、崩壊し、死にます。神のためになされたものだけが永遠なのです。

女性は髪を編んだり、宝石をつけたりしてはいけないということですか？それは、あなたがなぜそれを身につけることを選んだかによります。ですから、自分が身につけているものを選ぶ理由を自問すべきです。また、外見よりも心を美しくすることにもっと時間をかけるべきだということでしょう（もちろん、これは男性にも当てはまります）。

次に「夫」です。この節の日本語訳と英語訳は少し違います。ギリシャ語は1つの文で、注解書ではこの文の順序を異なる方法で受け入れています。この「妻...を理解して...暮らしなさい」という言葉は、文字通り「知識に従って妻と暮らしなさい」ということです。では、何の知識でしょうか？まあ、関連する知識であれば何でもいいのです。私たちは頭を使って妻のことを知り、理解すべきです。自分の妻とはどんな女性でしょう？神がお造りになった女性で、あなたが結ばれている女性とは？妻への接し方は、全体の状況に関する知識を考慮に入れなければなりません。ですから、「聖書は女性について何を教えているのか」「女性を元気づけるものは何か」「彼女を疲れさせるものは何か？」「彼女の家族はどのようなもので、彼女は家族とどのような関係を築いているのか？」「彼女の家庭の文化はどのようなもので、それは彼女が世界をどのように理解しているかをどのように形成していますか？」「現在、どのような住居に住んでいて、それが彼女にどのような影響を与えているか？」もし彼女が外で仕事をしているなら、「彼女の仕事は何で、それが彼女にどのような影響を与えるのか？」子供がいる場合は、「子供の年齢とその行動が彼女にどのような影響を与えるのか？」自分と他人を結びつけるには、考えなければならぬことがたくさんありますので、配慮が必要です。

What is your “adorning?” Adorning is what makes you beautiful. It is what makes others look at you and think, “Wow. She’s beautiful.” Peter says to not make your adorning external things. Rather, make your adorning your heart. Adorn yourself with a gentle and quiet spirit. Adorn yourself with righteous character. Adorn yourself with love and good works. Adorn yourself with fearless faith like Sarah who followed Abraham not knowing where they would go.

Peter says that this beauty is very precious to God. And God’s opinion really is the only one that matters. Also notice that this is the only beauty that is eternal. All other beauty ages, decays, disintegrates, and dies. Only what is done unto God is eternal.

Does this mean women cannot braid their hair or wear jewelry? It depends on why you choose to wear it. So you should ask yourself why you choose to wear what you wear. It probably also means that we should spend much more time working on beautifying our heart than our outward appearance (and this applies to men too of course).

Next is husbands. The Japanese and English translations of this verse are a little different. The Greek is one sentence and commentaries accept different ways of ordering this sentence. This phrase, “live with your wives in an understanding way” is literally, “live with your wife according to knowledge.” So knowledge of what? Well, whatever knowledge is relevant. We should use our brains to know and understand our wife. Who is she? Who is the woman that God has made and to whom you are united? The way that we treat our wives should take knowledge of the entire situation into account. So we need to think about things like, “What does the Bible teach about women?” “What are things that energize her? “What are things that exhaust her?” “What is her family like and what kind of relationship does she have with them?” “What is her home culture and how does that shape how she understands the world?” “What kind of housing are you currently in and how does that affect her?” If she has a job outside the home, then, “What is her job and how does that affect her?” If you have kids, then, “What are their ages and how does their behavior affect her?” There’s a lot to think about if you are to unite yourself to another person, so we need to be considerate.

二つ目。夫は、妻をより弱い器として尊敬したり、その生き方を理解することになっています。これはどういうことでしょうか？ あなたが女性であれば、もしかしたら一見してそれに不快感を覚えるかもしれません。これは、一般的に男性の方が女性よりも強いという解剖学的な主な事実を指しています。これは、彼女の心が弱いとか、信仰が弱いとか言っているわけではありません。1-6節を見れば明らかなように、ペテロは自分が書いている教会の中に、夫よりも謙虚で強い信仰を持っている女性を知っています。ペテロが言いたいのは、男性は妻を守り、世話をする義務があるということです。

アメリカの牧師ジョン・パイパーの例えですが、ある男性が女性をデートに誘います。このデートで、彼は彼女が空手、柔術、テコンドーの黒帯であることを知ります。そして彼は、これまで一度も戦ったこともトレーニングをしたこともない。そして二人は夜、大阪のどこか危険な場所を一緒に歩いていた。すると突然、ヤクザが銃を持って飛び出してきて、「お前の財布をよこせ、女も連れて行くぞ」と言う。その時の男は、横に出て女の子に「捕ましろ！」とは言いません。そうではなく、彼女の前に進み出て、「彼女を手に入れるためには、俺を殺さなければならぬ」と言うのです。そして、彼は撃たれるか倒されるかもしれませんが、彼女は武装解除して攻撃者を倒します。

つまり、これは能力や知性の問題ではなく、神から与えられた役割の問題なのです。守り抜くのが男性の役割であり、それを受け取るのが女性の役割です。女性は服従における自己犠牲に、男性はリーダーシップにおける自己犠牲に召されているのです。

第3: 彼女は、あなたとともに命の恵みを受け継ぐ者です。あなたが神の息子として神から持っているのと同じ相続権と地位を、彼女も神の娘として持っているのです。あなた方は対等であるだけでなく、パイパー牧師が言うように、「あなた方は世界のお姫様と一緒に暮らしている」のです。あなたの妻は王族であり、そのことはあなたが彼女に接する方法に大きな影響を与えるはずです。

実はここには条件があります。もしあなたが妻に対して親切でなく、尊敬の念を抱いていなければ、神はあなたの祈りを聞いてくださらないかもしれません。これは恐ろしい警告であり、夫たちは妻に多くの敬意を払うべきです。

Second. Husbands are supposed to honor or understand how to live with their wife as a weaker vessel. What does that mean? And if you're a woman, maybe at first glance you might feel offended by that. This is referring to the main anatomical fact that men, in general, are stronger than women. This is not saying she has a weaker mind or weaker faith. It is obvious from verses 1-6 that Peter knows of women in the churches he's writing to that are more humble and have stronger faith than their husbands. What Peter is saying is that men have the obligation to protect and care for their wives.

Here's an illustration from John Piper, a pastor in the USA: A man asks a woman to go on a date. On this date, he learns that she is a blackbelt in Karate, JiuJitsu, and Tae Kwon Do. And he has never fought or trained at all. And they are walking together at night somewhere dangerous in Osaka. And suddenly Yakuza jumps out with a gun and says "give me your wallet and I'll take the girl too." The man in that situation does not step to the side and tell the girl, "Get him!" No. Rather, he steps in front of her and says, "You'll have to kill me to get to her." And he might get shot or knocked out and then she disarms and knocks out the attacker.

So this is not about competencies or intelligence, this is about God-given roles. It is the role of the man to defend and protect and the role of the woman to receive that. Women are called to self-sacrifice in submission and men are called to self-sacrifice in leadership.

Third: She is an heir with you of the grace of life. The same inheritance and status that you have from God as a son of God, she also has as a daughter of God. You are not only equal, but as Piper put it, "you live with an heiress of the earth." Your wife is royalty and that should have a profound effect on the way you treat her.

There's actually a condition here. If you are not kind and honoring toward your wife then God might not listen to your prayers. This is a terrifying warning that ought to bring husbands to show a lot of honor to their wife.

3:8-9-教会としてどうやって一緒にやっていくか?

もし、あなたが結婚していなかったら? そして、今は仕事探し中であれば? それ以外の人たちはどう行動すればいいのでしょうか? 同じようにです。中傷されても祝福するように召されています。悪には愛をもって対応し、神が支配していることを信頼するように求められています。もし、イエス様が私たちのために死ぬことができ、死刑執行人に文句を言ったり、脅したりせずに死ねたのなら、私たちも正しい生き方をしながら、無罪に苦しみを味わうことができます。そして、私たちはお互いに一致し、愛と優しさをもって、共にこれを行うべきです。

無罪の苦しみについて考えるときに起こりうる誤解は、自分自身を哀れな犠牲者と考え始めることです。そして、ただ自分を哀れに思い、自分の人生がいかに辛いかを考えてしまうのです。

それはペテロが教えていることではありません。それは、とても自己中心的で罪深い生き方です。ペテロは、苦しみの中でも積極的に行動しなさいと言っています。善を行いなさいと教えているのです。

自分が寄留者であると考えたと、世間から距離を置いて、イエス様が戻ってくるのをただ待ちたいと思いかもかもしれません。ペテロは、私たちの結婚生活や街や職場に投資するように教えています。正しいことのために立ち上がり、社会の中で立派な人になることを教えているのです。悪に悪を返すのではなく、祝福する。これが私たちに求められていることなのです。受け身になってはいけません。撤退してはいけません。あなたの街で、職場で、結婚生活や家族で、そして教会で、積極的に善の力となりましょう。

10-12節は、詩篇34:12-16からの引用です。ペテロは、この手紙の中で語ることの多くをこの詩篇に依拠しており、詩篇34篇のテーマや指示の多くは、第一ペテロにも見られます。ペテロが引用している詩の主なメッセージは、このセクションで彼が言い続けてきたことと同じです。すなわち、正しく生き、善を行い、神を信頼しなさい、なぜならあなたの報酬とあがないが来るからです。

3:8-9- How do we do this together as a church?

So what if you're not married? Or what if you're not employed? How are the rest of us supposed to act? The same way. We are called to bless when slandered. We are called to respond to evil with love and trust that God is in control. If Jesus can die for us and do it without complaining or threatening his executioners then we can suffer innocently while living righteously. And we are to do this together with unity and love and tenderness toward each other.

One potential misunderstanding that can happen when we think about suffering innocently is we can start to think of ourselves as pitiful victims. And we just end up feeling sorry for ourselves and thinking about how hard our life is.

That's not what Peter is teaching. That is a very self-centered and sinful way of living. Peter is talking about being proactive in the midst of suffering. He is teaching us to do good.

When we think of ourselves as sojourners it can be tempting to distance ourselves from the world and just wait for Jesus to come back. Peter is teaching us to invest in our marriages and in our cities and workplaces. He is teaching us to stand up for what is right and to be honorable people in society. Rather than repaying evil for evil, we bless. This is what we are called to. Don't be passive. Don't retreat. Be a positive force for good in your city, at your workplace, in your marriage and family, and in your church.

Verses 10-12 are a quotation from Psalm 34:12-16. Peter relies on this Psalm for a lot of what he says in this letter and many of the themes and instructions in Psalm 34 can be found in 1 Peter. The main message of the verse Peter quotes is the same thing he has been saying in this section; namely, live righteously, do good, and trust God because your reward and vindication is coming.

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

6. 聖書を読むことと祈りを優先するために、毎日のスケジュールをどのように調整する必要がありますか？
7. 肉欲を断つために、あなたのライフスタイルをどのように変える必要がありますか？
8. あなたは自分の街でどんな良いことができますか？
9. 仕事でもっと尊敬できる人になるにはどうしたらいいですか？
10. もしあなたが妻なら、どうすればもっと夫に服従できますか。もしあなたが夫ならば、妻をもっと理解するために何ができますか？
11. イエス様があなたにしてくださったように、あなたの心の中で他の人に接するためには、何が必要ですか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. What adjustments do you need to make to your daily schedule to prioritize Bible reading and prayer?
2. What changes do you need to make in your lifestyle in order to abstain from passions of the flesh?
3. What good can you do in your city?
4. How can you be a more respectful worker at your job?
5. If you are a wife, how can you submit to your husband more? If you are a husband, what can you do to understand your wife better?
6. What needs to happen in your heart to treat others as Jesus treated you?

Spend some time praying together. Pray specifically for the requests that were mentioned.

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

3:13-22

イエス様のように生きること

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

3:13-22

Living like Jesus

事前の勉強

まず、ペテロの手紙の今までの内容を思い出しましょう。

1-2節では、これらの教会を「選ばれた寄留しているものたち」として取り上げています。これは、クリスチャンが持っているアイデンティティです。恵みのみによって、私たちは神に選ばれて救われ、イエス様と同じように栄光と名誉を受けていますが、世間からは拒絶されています。世界は私たちを理解せず、私たちは世界でくつろぐことができません。

確かに、救いの時にはとても不思議なことが起こります。ペテロはこのことを1:3-12で語っています。新生または再生は、神の霊の力によって私たちの中で行われ、一瞬にして新しい望みを持つようになります。イエス様を見たこともないのに、突然、イエス様を愛し、イエス様にすべての希望をかけるようになります。そして、自分の故郷や家族に安住することなく、神ご自身を父とする新しい家族を与えられたのです。孤児や奴隷だった私たちは、一瞬にして神の子となり、神の個人的な愛を実際に心で感じることができるのです。ですから、私たちは永遠に神様と共にある日を待ち望んでいるのです。

そして、ペテロは1:13-2:3で、神の前で神と共にあるという希望があるからこそ、今、聖なる生き方が求められていると語ります。私たちの父である神が聖なる方なので、私たちは聖なる者でなければなりません。それは、私たちが世間とは違うというわけです。全世界に共通しているのは、罪です。しかし、神の民は世間とは違うはずで、それが聖なるものという意味です。罪から離されているということです。だから私たちは罪を犯さないように努力するのです。

次に2:4-10では、私たちはこの聖なる人生を一人で生きるのではなく、神の民の一人となることで、まさに神の大勢の民の一人となったことがわかります。そして、神は制度であり、有機体である教会というものを設立しました。教会とは、全世界で一致している神の民が地域の教会に現れたものです。

2:11-3:12でペテロは、私たちの希望が神のもとにあるからといって、ここでの生活に関心を持たないということではないと教えています。それどころか、私たちは善を行うべきなのです。この世で良いことをしようとする者として、私たちの主な働きは、常に悔い改めることです。私たちは、自分たちを支配している政府の下での市民や住民、従業員や雇用者など、すべての役割において善良でなければなりません。私たちは、愛と尊敬に満ちた配偶者でなければなりません。私たちは、お互いを思いやる一致した教会であるように努力しなければなりません。

Pre-study:

Let's begin with a quick refresh of where we've been in Peter's letter.

He begins in verses 1-2 addressing these churches as “elect exiles.” This is the identity that Christians have. By pure grace, we are chosen by God to be saved and receive glory and honor just as Jesus did, but we are rejected by the world. The world doesn't understand us and we don't feel at home in the world.

Indeed something very odd happens at salvation. Peter talks about this 1:3-12. The new birth or regeneration is effected by the power of God's Spirit in us and in a moment we have new affections. All of a sudden, despite never seeing Jesus, we love him and put all our hope in him. And we no longer feel at home in our own hometown or with our own family because we are given a new family where God himself is our Father. And in an instant we go from being orphans and slaves to being a child of God and we actually feel his personal love for us as individuals in our hearts. So, we are looking forward to the day when we will be with him forever.

Then Peter tells us in 1:13-2:3 that because of the hope we have to be with God in his presence, it requires holy living now. We are to be holy because our God, who is our Father, is holy. That means we are different from the world. The one thing the whole world has in common is sin. But God's people are supposed to be different from the world. That's what being holy means. It is being set apart. So we are to strive to not sin.

Next in 2:4-10 we find out that we don't live this holy life alone, but rather when we become one of God's people we have become just that, one of God's many many people. And God has set up an organized organism called the church, which is his globally united people manifested into local churches.

In 2:11-3:12 Peter tells us that even though our hope is in being with God that does not mean that we don't care about our lives here. On the contrary, we are to do good. As people that try to do good on earth, our main task is to constantly repent. We are to be good in all our roles: citizens or residents under the government that rules over us, as employees and employers. We are to be loving and respectful spouses. We are to strive to be a united church that cares for one another.

学び

3:13-22を見てみましょう。

この文章には2つのセクションがあると思います。1つ目は13-16節で、ペテロが前回の続きを語っています。彼は基本的に、「一般的に、もしあなたが良いことをしようとしているなら、常に苦しみを期待する必要はないはずです。しかし、それとは関係なく、おそらくそれは起こるだろうから、それにどう対応するかはここから説明する。」

そして、17-22では、不当な苦しみを受けることは、キリスト教とは切り離せないものであることを、再び思い出させてくれます。それが、イエス様が私たちが救ってくださった方法なのです。そして、私たちの人生は、苦しみ、死に、その後、栄光と名誉と義認を受けるといふ、イエスの同じパターンを反映しています。

3:13を読んでください

クリスチャンとして、迫害されている人々の話を聞いたり、聖書に書かれていることを読んだりして、そのことに焦点を当てすぎてしまうことがあると思います。迫害や苦しみが自分のアイデンティティになってしまい、実際にはそれほどの苦しみを経験していなくても、自分のことを「苦しむ人」だと思ってしまうことがあります。

私たちは、「クリスチャンだから上司につらい仕事をさせた」というようなことを考えるかもしれませんが、あるいは上司はそうしなかったかもしれません。もしかしたら、その日は上司の調子が悪かっただけかもしれません。ただ、仕事が増えただけかもしれません。いずれにしても、ペテロはここで、もし私たちが社会や家族や友人の中で善の力になろうと意図している人であれば、ほとんどの場合、敵はあまりいないだろうと指摘しています。

ペテロはまだ他の人のためになるような目的のある生き方をするように勧めています。私たちは受動的な生き方をしてはいけません。言い換えれば、人生で何かが起こって、それに反応してという生き方をしてはいけないということです。神様が私たちに与えてくださった方法で、私たちはこの世界で積極的に良いことをしていくべきなのです。それができるのは、神様がそのために必要なものをすべて与えてくださっているからです。私たちの心には、神の聖霊が宿っています。そして、あなたの周りには、教会というコミュニティがあります。

Study:

Let's look at 3:13-22.

I think there are two sections in this text. The first one is verses 13-16 where Peter picks where he left off. He basically says, "In general if you are trying to do good you shouldn't need to constantly be wary of suffering. But regardless, it probably will happen, so here is how to respond to that."

Then in 17-22 he reminds us again that suffering unjustly is inseparable from Christianity. It is how Jesus saved us. And our lives reflect the same pattern of Jesus', which is to suffer and die and then, after that, receive glory and honor and vindication.

Read 3:13

I think sometimes as Christians we might hear of people being persecuted (typically in other countries) or we read about some of it in scripture and we can tend to focus too much on this. Persecution and suffering can sometimes become our identity and even when we are not really experiencing much suffering we will tend to think of ourselves as a "sufferer."

We might think things like, "My boss gave me extra work because I'm a Christian." Or maybe not. Maybe he's just having a bad day. Maybe there is just more work to be done. Regardless, Peter makes a point here that for the most part, if we are people who are intent on being forces of good in society and in our family and friends, then we probably won't have very many enemies.

He's still encouraging us to live purposeful lives that seek to be beneficial to others. We are not to be passive in life. In other words, we should not live constantly reacting to everything that happens in our life. But, in the ways that God has gifted us, we should be proactively doing good in our world. And we can do that because God has given us everything we need to do it. We have the Holy Spirit of God in our hearts! And we have the community of the church around you.

考えてみてください：あなたは自分の人生の目的が何であるか知っていますか？ 神様が与えてくださった目的に沿って生きているのか、それとも人生で何が起っても受動的に反応しているのか。受動的で反応的な生き方をやめて、実際に他の人の人生に良い影響を与えるポジティブな力になるためには、どのようなステップを踏むことができますか？

3:14-16を読んでください

ここでペテロは、バランスのとれた現実的な人生観を示しています。一般的には、良い人であることでトラブルに巻き込まれることはありませんが、もしトラブルに巻き込まれた場合には、次のように行動すべきです。

彼は、「たとえ義のために苦しむことがあっても」と言っています。「義」とはどういうことでしょうか。それは、神様に忠実な生き方のことです。真の唯一の神への信仰を持って生きる生き方のことです。あなたは神の存在を信じて、そして神に信頼する。言い換えれば、あなたは神を信頼し、その結果、神に従うのです。あなたは、神が大切にしているものを大切に、神が重要だと考えていることを成し遂げようとしています。

この世界でクリスチャンであることの葛藤は、たとえ「義である」人生を送っていても、「義」の定義を神さまがどのように定義しているかということです。そして、神が好むものを好まない人々がいます。そして、その人々はクリスチャンが正しいことをするのを阻止しようとします。これは、国の法律から社会的・人間関係的な圧力まで、あらゆるレベルで起こります。

クリスチャンがクリスチャンらしく生きることは、とても説得力があるので、世間は嫌がります。例えば、クリスチャンの性的倫理は常に攻撃されてきました。「結婚していないとセックスしてはいけないし、結婚というものは一人の男性と一人の女性が死ぬまでの結びだ」と言うと嫌われます。

ですから、私たちが義である生活をしていれば、何らかの形で他人からの苦しみを経験することになるでしょう。それは、「あの子がセックスしていないなんて信じられない」というゴシップかもしれません。それは、「あなたはとても偏屈だ！クリスチャン以外はみんな地獄に行くと知っているなんて信じられない！」という侮辱です。非難、誹謗中傷、不当な差別、あるいは身体的な虐待であるかもしれません。

Think about this: Do you know what the purpose of your life is? Are you living according to the purpose that God has given you or are you passively reacting to whatever happens in your life? What steps can you take to stop living a life that is passive and reactionary, but actually be a positive force for good in the lives of others?

Read 3:14-16

Here Peter shows his balanced realistic viewpoint of life. In general, being a good person won't get you into trouble, but if it does, here's what we do.

He says, "even if you should suffer for righteousness' sake." What does that mean — "righteousness"? This is the way of living that is faithful to God. It is the life lived with faith in the one true God. You believe *in* God, you also *believe* God. In other words you trust him and thus you obey him. You value what God values and you try to accomplish what God thinks is important.

The conflict with being a Christian in this world is that even if we live lives that are "good" we are still defining "good" how God defines it. And there are people that don't like what God likes. And they will try to discourage and stop Christians from doing what is right. This happens on all levels; from national laws to societal and relational pressure.

The world hates it when Christians live like Christians because it is very convicting. For example: the Christian sexual ethic has always been attacked. People don't like it when you say, "You can't have sex unless you are married. And even then, marriage is one man and one woman for life."

So we should expect in some form, that if we live righteous lives then we will experience suffering from others. It could be gossip, "Can you believe she hasn't had sex..." It could be insults, "You are so bigoted! I can't believe you think everyone is going to Hell except for Christians!" It could be blame, slander, or unfair bias, or even physical abuse.

では、どのように対応すればいいのでしょうか？ そういう時はどう考えればいいのでしょうか？

ペテロはまず、義のために苦しむなら、「あなたがたは幸いです」と言っています。幸い？ どうして？

実は、イエス様も同じことを言われていて、マタイ5:10-12では、なぜ幸いであるのかを教えてください。

神に従ったために苦しむと、なぜ幸いであるのでしょうか？ それは、いつの日かすべてが正されるからです。イエスが戻ってきて、正義で強力な裁判官となり、すべての悪を破壊し、すべてを善く、正しく、純粋なものにしてくれます。神の国が来て、神の御心が天で行われるように地でも行われるのです。そしてその時、私たちは自分の義のために報われるのです。

私たちが苦しみの中にあっても幸いであるのは、後になって自分の正しさが示されるからです。私たちは、後に正しいことが証明され、イエス様が用意してくださった報いを受けることとなります。この現実、今のあなたにとって真実でなければなりません。その報いを念頭に置いて、今、現在を生きなければなりません。そして、その報いが現実のものとなり、自分を不当に接する人々を愛そうと心を動かすようにならなければなりません。

「人々の脅かしを恐れたり、おびえたりしてはいけません。むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。」ともペテロが言われました。

これは最高なことで、ペテロはイザヤ書8章12～13節を参照しています。イザヤの歴史的な状況については触れませんが、非常に重要なのは、ペテロがこの箇所を引用し、自分の手紙の中で使用しているのですが、何かを変えているのです。主に言及している部分に「キリスト」を付け加えているのです。主は真の唯一の神です。ユダヤ人がこの名前に何かを付け加えたり、何かを取り除いたりすることは、神への冒瀆に等しい。これは非常に重大なことです。では、なぜペテロは「キリスト」と付け加えたのか。彼はイエス・キリストが主であると信じているからです。ナザレのイエスは受肉された神です。

So how do we respond to that? What should we think in those situations?

Peter says first of all that if you suffer for righteousness' sake, "you will be blessed." How?

Well, actually, Jesus tells us the same thing and he tells us why we are blessed in Matthew 5:10-12

Why are we blessed if we suffer for obeying God? Because one day everything will be made right. Jesus will come back and he will be a just and powerful judge who destroys all evil and makes everything good and right and pure. God's kingdom will come and God's will will be done on earth as it is in heaven. And when that happens we will be rewarded for our righteousness.

We are blessed now in the midst of suffering because later we will be shown to be right. We will be vindicated and receive the reward that Jesus has for us. This reality has to be true to you now. You have to live now, in the present, with that reward in mind and it has to be so real to you that it motivates your heart to love people who treat you unfairly.

Peter also says, "Have no fear of them, nor be troubled, but in your hearts honor Christ the Lord as holy."

This is awesome, he is referencing Isaiah 8:12-13. We won't go into the historical situation of Isaiah, but what is very significant is that Peter takes this passage and uses it in his letter, but changes something. He adds "Christ" to the part that addresses the Lord. The Lord is the one true God. For a Jew to add anything or take anything away from this name would equate blasphemy. This is very serious. So why did Peter add, "Christ"? Because he believes that Jesus Christ is the Lord. Jesus of Nazareth is God Incarnate.

使徒たちや初代教会が、イエスは本当に神であると信じていたかどうかを疑う人がいるかもしれないので、これを指摘したいと思いました。新約聖書では、イエスが神であると信じられていることが非常に明確になっています。

そこでペテロは、義のための苦しみに対する私たちの対応として、相手を恐れないことを挙げています。相手を恐れないことです。なぜ、どうやって？ 自分の仕事を台無しにされたらどうしよう？ 自分の評判を落としたりどうしよう？ 私や私の愛する人々を傷つけたら？ 恐れないわけがないでしょう。

イザヤ書8章13節では、神は「万軍の主」と呼ばれています。私たちに敵対するものや誰かよりも、はるかに大きな力があります。私たちの味方である方は、私たちに敵対する者よりも大きいのです。恐れということは、より大きな恐れによって追いつかれます。イエスは神です。神が創造の中だけで持っている力を考え、その力が破壊の中で使われていることを考えれば、エベレスト山や木星やシロナガスクジラを創造したのと同じ神が恐ろしいということがすぐにわかります。もし私たちが神の力をもう少し熟考したら、もっと適切な恐れを持つことができるでしょう。

では、今、クリスチャンとして、その言葉によってすべてを創造し、支えているこの最強の存在は、あなたの味方です。神はあなたの敵ではなく、あなたの友人です。では、誰を恐れる必要があるのでしょうか？ 誰も怖くありません。私たちは良く守られています。

ですから、恐れを抱いて怒りに満ちた反論をするのではなく、誰よりもキリストを主と聖なる方として、優しさと敬意をもって誰にでも対応できるようにしなければなりません。もし誰かがあなたがクリスチャンであることをバカだと言ったら、あなたはどうすればいいかわかりますか？ その人の話を聞いて、「へえ、あなたは本当にクリスチャンであることが馬鹿げていると感じているんですね」と理解の賜物を与えようとすることができます。「ああ、なるほど、わかります。」そして、彼らが何を言っても全く動揺しないことです。なぜなら、彼らは主ではなく、イエスが主だからです。

I show you that in case you ever hear anyone doubt whether the Apostles or the early church believed that Jesus really was God. It is VERY clear throughout the New Testament that Jesus is believed to be God.

So Peter says our response to suffering for righteousness is to not fear our opponents. Don't fear them. Why? How? What if they ruin my career? What if they ruin my reputation? What if they hurt me or people I love? How could I not fear them?

In Isaiah 8:13, God is called, "Lord of Hosts." There is a much greater power than anything or anyone who opposes us. He who is for us is greater than they who are against us. Fear is expelled by a greater fear. Jesus is God. If you think about the power God has just in creation and then you think of that power being used in destruction you quickly realize that the same God who created Mt. Everest and Jupiter and Blue Whales is terrifying. If we contemplated God's power a little more we would have more appropriate fears.

Now, as a Christian, this most powerful being who created and sustains everything by his Word, is on your side! He is not your enemy, but your friend. So, who is there to fear? No one. We are in good hands.

So instead of fear, which typically results in angry rebuttals, we should honor Christ above all others and be able to respond to anyone with gentleness and respect. If someone calls you an idiot for being a Christian, you know what you can do? You can listen to them and attempt giving them the gift of understanding, "Wow, you really feel that it is idiotic to be a Christian. Yeah, I hear that." And be totally not upset by what they say because they are not the Lord, but Jesus is.

15節の話をしていると、私たちは皆、自分の信仰の正当性を守り、いつでもプロの弁解者のレベルで誰とでも議論できるようにならなければならない、という意見を聞くことがあります。これはそういう話ではないと思います。むしろ、ペテロが言っている用意とは、心の用意のことです。(ちょっと言っておきますけれども、私たちの希望の最も基本的な理由は、復活です。もし、イエス様が死からよみがえらなかつたら、イエス様はキリストではなく、私たちは罪から救われません。)

私たちは、自分がクリスチャンであることを誰かに話すことをためらわないように、また、この社会では非常に奇妙なことであるにもかかわらず、なぜクリスチャンであり続けるのかを説明することをためらわないように、何よりも神を恐れるようにして下さるよう、常に神に願い求めるべきです。

そして、私たちは愛に満ちた方法で人々に対応しなければなりません。そうすれば、たとえクリスチャンであることを馬鹿にされたとしても、私たちがとても優しく温かいので、相手が恥ずかしいと感じるでしょう。本当に、クリスチャンはこの世で最も親切で優しく温かい人々であるべきなのです。

私たちは、自分がクリスチャンであることに永遠に驚くべきなのです。私たちの反応はこの感じかもしれない、「すごいでしょ！ こんな私がクリスチャンだなんて！ ハッ！？ これはおかしい。まだ信じられないですよ。私はそれに全く値しないのに、それが真実なのです！ 神様は私を愛し、私を救ってくれました。ワオ！」

セクション2: 3:17を読んでください

なぜ、善を行うために苦しむことが良いのでしょうか？ まず第一に、ペテロがすでに言ったように、私たちは幸いです。第二に、私たちの（キリスト教の）信念が本当に社会にとって良いものであり、他の人の（他の宗教や無神論など）信念が他の人を中傷したり、苦しみを与えたりすることにつながることを示すことができるので（3:16をもう一度読んでみて下さい。そののしりがノンクリスチャンから言われるわけです。）、キリスト教全体に利益をもたらします。また、ペテロは、善を行いながら苦しむことは、神の御心かもしれないと言っています。神に逆らうよりも、神の御心に沿った正しい苦しみを受ける方が良い。邪悪な生き方をして正当な苦しみを受けるよりも、不公平な苦しみ、不当な苦しみ、間違った苦しみを受けても、神に忠実である方が良いのです。

In speaking of verse 15 sometimes I have heard people say that we all need to be able to defend the legitimacy of our faith and at any time be able to argue with anyone on the level of a professional apologist. I don't think that's what this is talking about. I think it is VERY important for us to know why we believe, but the preparation that Peter is talking about is heart preparation. (However, the most foundational reason for our hope is the resurrection. If Jesus didn't rise from the dead then he is not the Christ and we are not saved from our sins.)

We ought to continually be asking God to make us fear him above anything else so that we are never hesitant to tell someone about the fact that we are Christians or to explain why we persist in being a Christian despite the fact that it is very weird in this society.

And we should respond to people in a loving way so that even when they make fun of our Christian commitments they feel ashamed because we're so kind and warm. Really, Christians ought to be the kindest and most gentle and warm people on earth.

We should just be forever shocked that we are Christians. Our response might be something like, "I know, can you believe it? Me! A Christian! Ha! This is crazy. I can't believe it. I don't deserve it at all and yet it's true! God loves me and saved me. Wow!"

Section 2: Read 3:17

Why is it better to suffer for doing good? Well, first of all, as he already said, we will be blessed. Secondly, it benefits Christianity as a whole because it shows our beliefs really are good for society and the beliefs of others lead them to slander and inflict suffering on others (this is show in 3:16 since the slander is coming from non-Christians). Also, Peter says it might be God's will for you to suffer while doing good. It is better to be a righteous sufferer who is in line with God's will for your life than to be opposed to God. It is better to suffer unfairly, unjustly, wrongly and to be faithful to God than to suffer justly for living an evil life.

3:18-22を読んでください

これらの節は、聖書の中でも最も分かりにくいものの一つです。これらが何を意味しているかについては、ほとんど意見が一致していません。そこで、いくつかの説と私の考えをシェアします。

18節の最初の部分は混乱していません。非常に明確です。英語では「for」で始まっていることに気づくでしょう。日本語では最後に「の」が付いていて、ペテロが論理を続けていることを示しています。これは、善を行うために苦しむことが良いとされるもう一つの理由です。それは、私たちの救世主であり、私たちのキリストであり、私たちのリーダーであるイエスが同じ経験をされたからです。それは、あなたがイエスとさらに同一視するようになるということです。それは良いことです。

「キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくないものたちの身代わりになられたのです。それは、...あなたがたを紙に導くためでした。」これは、すべての知識の中で最も美しいことです。すべてを良いものとした創造主である神は、被造物がその神を拒絶し、自分たちの方が神よりも信頼できると決断した。それで彼らは反抗したので、すべての地球と全宇宙が壊れてしまった。その同じ創造主の神が肉をまとい、私たちと同じように、母の胎内を通して被造物の中に入りました。彼（イエス様）は、これまでで最も美しい人生を送りました。イエスの行動はすべて、神への信仰に基づいて行われました。イエスは、私たちが持つべき神との信仰関係を完全に果たしました。イエスは義人でした。そして、イエスは今まで生きてきた中で唯一の義人です。

人間には、正しい人と正しくない人の2つのカテゴリーがあります。神様に忠実な人と、忠実でない人がいます。イエス様は史上唯一の義人であり、私たちや他のすべての人は不義人のカテゴリーに入ります。全世界で唯一の正しい人であるイエス様は、正しくない人のために苦しみを受けられました。義とは、神を信じて生きることだとすれば、不義とは、他のものを信じて生きることであり、主に、神よりも自分を信じる、または自分を信頼することを選びます。

Read 3:18-22

These verses are some of the most confusing in all of scripture. It seems like there is very little agreement on what these mean. So I'm going to tell you a few theories and what I think.

The first part of verse 18 is not confusing. It is very clear. You'll notice this begins with "for" in English. In Japanese there is a の at the end to show he is continuing his logic. This is another reason why it is better to suffer for doing good. It's because our savior, our Christ, our leader, did the same thing. It means you get to identify even more with Jesus. That's a good thing.

"Christ also suffered once for sins, the righteous for the unrighteous, that he might bring us to God." — this is the most beautiful thing in all knowledge. The Creator Lord God who made everything good—his creation rejected him and declared their own selves to be more trustworthy than him. So they rebelled and thus all the earth and the whole universe is broken. That same Creator God put on flesh and entered into his creation as we do, through the womb of his mother. He lived the most beautiful life there ever was. Everything he did was done according to faith in God. He perfectly fulfilled the faith relationship that we are supposed to have with God. He was righteous. And he is the only righteous person who has ever lived.

There's two categories of humans: righteous and unrighteous. There are those who have been faithful to God and those who have been faithless. Jesus is the only righteous person ever and we and everyone else falls into the category of unrighteous. He, the one righteous person in all the world ever, suffered on behalf of unrighteous people. If righteousness is living with faith in God, then unrighteous means you live your life trusting in other things, primarily we choose to trust ourselves rather than God.

この自己信頼を、聖書は「罪」と呼んでいます。罪の結果は、死と神からの永遠の分離です。私たちは皆、それに値するのです。イエス様は、神様を信頼しないで何かをしたことがない唯一のお方です。彼は常に父の御心に従って生き、それが自分にとって最善であることを信じていました。それなのに、イエス様は十字架にかけられ、殺されました。イエス様が十字架にかかって死んだとき、イエス様は自分の罪のために死んだのではありませんでした。償うべき罪はありませんでした。イエス様は、私たちの罪のための罰を、ご自分の体で受けられたのです。これは、身代わりの贖いと呼ばれています。イエス様は私たちのために、身代わりの犠牲となりました。

さて、もしあなたがイエスの十字架の犠牲が、あなたの不義な人生を償うのに効果的であったと信じるなら、あなたの罪に対する罰はもうありません。その上、神様は、キリストが義であるように、あなたも義であるかのように接していただきます。イエス様は私たちの罪と義の身代わりです。

そして、その身代わりの目標は、私たちを神のもとに連れてくることです。これが最終的な救いです。罪の赦しは救いではありません。イエス様が私たちの罪の罰を贖ってくださることは救いではありません。神様から義と認められることは救いではありません。これらのことはすべて、救いの前提条件です。神様と一緒にいるためには、義人でなければなりません。神様は聖なるお方ですから、神様と一緒にいるためには、あなたも聖なる者でなければなりません。イエス様は、あなたが神様と一緒にいられるように、あなたの身代わりとなってくださいました。イエス様は十字架上で、あなたが永遠に神様の存在を経験できるように、神様の不在を経験されました。

次に、これにはいろいろな解釈があります。一つの例として、アウグスティヌスが挙げられます。彼は、第一ペテロ1:11に、キリストの霊（聖霊のこと）が預言者を通して説教する者であったと書いてあることを指摘しています。また、第2ペテロ2:5では、ノアは「義を述べ伝えたノア」であったと書かれています。つまり、ノアの時代には、キリストの霊がノアの周りの人々に福音を宣べ伝えていたということでしょう。しかし、彼らは悔い改めなかったため、今、彼らの霊は「捕らわれている」、つまり、イエスがすべての人を裁くまで、死者の領域にいます。

「捕らわれている霊たち」とは、地獄で裁きを待っている悪魔の霊のことだと考える人もいます。これらはどちらも、この箇所を解釈する上で受け入れられるものです。

This self-trust is what the Bible calls sin. The consequence for sin is death and eternal separation from God. All of us deserve that. Jesus is the one person who never did anything apart from trusting God. He always lived in accordance with the Father's will and trusted that it was what was best for him. And yet, Jesus was crucified and killed. When he died on the cross Jesus was not dying for his sins. He had no sins to pay for. He was receiving in his flesh the punishment for our sins. This is called substitutionary atonement. Jesus was the substitutionary sacrifice for us.

Now, if you trust in Jesus' sacrifice on the cross as being effective to pay for your unrighteous life then there is no more punishment for your sin. And on top of this, God treats you as though you are righteous as Christ is righteous. Jesus is our substitute for sin and righteousness.

And the goal for this is that he might bring us to God. This is final salvation. Forgiveness of sins is not salvation. Having the punishment for our sins paid for by Jesus is not salvation. Being considered righteous by God is not salvation. All of these things are prerequisites for salvation. In order to be with God, you have to be righteous. God is holy, so to be with him, you have to be holy. Jesus became your substitute so you can be with God. On the cross Jesus experienced God's absence so that you could experience his presence forever.

Next, there are a lot of ways that this is interpreted. One example is from Augustine. He points out that in 1 Peter 1:11 it says that the Spirit of Christ (talking about the Holy Spirit) was the one preaching through the prophets. It also says in 2 Peter 2:5 that Noah was a herald of righteousness. So perhaps what is being said here is that in the days of Noah, the Spirit of Christ was proclaiming the gospel to the people around Noah. They did not repent and so now their spirits are "in prison" or are in the realm of the dead until Jesus judges all people.

Some people think that "spirits in prison" refers to demonic spirits awaiting judgement in Hell. These are both acceptable ways of interpreting this passage.

私がこの箇所でも理にかなっていると思うもう一つの説は、イエスが自分の体を墓に置いたまま実際に何かをしたというものです。ルカの福音書23章43節では、イエスは十字架にかけられていたとき、犯罪者の一人に「あなたは今日、わたしと共にパラダイスにいます」と言ったとあります。ヨハネの福音書19章30節には、「イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。」とあります。

イエス様は十字架で贖罪をされた後、亡くなられました。つまり、金曜日の夜、土曜日の一日、そして日曜日の朝まで、魂が肉体から切り離されるといって、人間の死を経験されたのです。その間、イエスの魂は聖書の中でパラダイスとかよみと呼ばれる場所に行きました。彼はそこでは苦しみませんでした。イエスの罪の苦しみは十字架で終わりました。しかし、イエスはそこに行って、ノアのメッセージを聞いたがノアを信じなかった人々の魂の中から選ばれた聴衆に向かって宣言しました。

すごい。ちょっと変だけど。なんで？ なぜノアを信じない人たちに伝えたのかな？ 何を宣言したのか？

ペテロがノアを信じない人たちに宣べ伝えたことを強調しているのは、ノアの経験とペテロが書いている教会の経験が似ているからだと思います。

私たちの日本での経験は、この手紙の最初の受取人の経験やノアの経験と非常によく似ています。その理由は以下の通りです。

- ノアの時代には、地球上の信者の数は非常に少なかった。実際には、8人でした。
- ノアは、人々が聞いていないにもかかわらず、大胆に福音を伝えていました。
- 神の裁きが迫っていました。

日本にはクリスチャンがあまりいません。もし、これからも誰もクリスチャンにならなかったら？ もし、教会が成長しなかったら？ あなたは、イエスが戻ってくるまで、忠実にイエスに従い、友人、家族、同僚に伝道しますか？

Another theory that I think makes the most sense in this passage is that Jesus actually did something while his body lay in the tomb. In Luke 23:43, while he was on the cross he told one of the criminals, "Today you will be with me in paradise." In John 19:30 it says, "When Jesus had received the sour wine, he said, "It is finished," and he bowed his head and gave up his spirit."

So after Jesus made atonement on the cross, he died. He experienced the human experience of what it is like to be dead; that is have your soul separated from your body on Friday night, all day Saturday, and until Sunday morning. During that time, his soul went to the place that is referred to in Scripture as either paradise, or Sheol, or Hades. He didn't suffer there. His suffering for sins was over. But he went there and proclaimed to a select audience of the souls of those who heard Noah's message, but didn't believe him.

Wow. That's weird. Why? Why the people that didn't believe Noah? What did he proclaim?

I think Peter is emphasizing that he proclaimed to those who disbelieved Noah because of the similarities between Noah's experience and the experience of the churches that Peter is writing to.

Our experience in Japan is very similar to the experience of the original recipients of this letter and Noah's experience. Here's why:

- In Noah's day the amount believers on the earth was very few. In fact, it was 8 people. Total!
- Noah was boldly preaching the gospel despite people not listening.
- Judgment from God was coming.

There's not a lot of Christians in Japan. What if no one else ever became a Christian? What if the church never did grow? Would you faithfully follow Jesus and evangelize your friends, family, and coworkers until he comes back?

洪水が来たとき、ノアは義認だと感じたと思いますか？ 私はそう思います。ノアはののしられました。社会からの同調圧力もありました。しかし、ノアは続けました。箱舟を作りながら説教を続けました。そしてある日、洪水がやってきました。それは神が言ったとおり、ノアが説いたとおりに起こりました。神様は、8人という人数は少なすぎるとは思わなかったようです。もし、日本でキリスト教が普通だと思われるほど普及しなかったら、あなたは最後まで神に忠実でいられますか？

必ず報いは来る。それは価値あるものになるだろう。ノアは忠実であり続けました。救われたのはたったの8人でした。そこでイエス様は、金曜日の夕方から土曜日一日中、死者の場所に行き、彼らに勝利を宣言して、「私はやった。私は救いを成し遂げました。そして日曜日の朝、私は死者の中からよみがえります。そして、あなた方は間違っていた。聞いても信じなかったのだから。」

また、この説は文章の流れにも合っていると思います。18-22節では、イエス様の苦しみ、死、復活、昇天が描かれています。そして、ペテロは18、19、20節を、イエスの死という歴史的瞬間に位置づけているようです。

ここでペテロは何をしているのか。私たちの人生はイエス様の人生に倣っているのだから、良いことをするために苦しむ方が良いのだということを、神学的な深さで示しているのです。イエス様が亡くなられたとき、誰もが、本当に誰もが、イエス様はただの過剰な宗教的な愚か者だと思っていました。彼は自分が神のキリストであり、世界の救い主であると主張して死んだのです。弟子たちも敵も、イエス様が死から復活したのを見て、とてもショックを受けました。

そして、それは私たちにも当てはまります。社会、家族、友人は、あなたのことを奇妙な過剰宗教の馬鹿者だと思うかもしれません。そして、あなたが死んだとき、彼らは、「ああ、やっこの人は、私がイエスを信じて、私が罪人だと言うことについて、私を悩ませるのをやめたんだ。」と思うかもしれません。しかし、いつかあなたは復活します。

イエスは永遠から降りてきた。降りてきて、苦しんだのです。イエスの生涯は苦しみによって特徴づけられました。そして、死なれました。そして、よみがえり、今、イエス様は父なる神とともに、すべての力と権威をもって天におられます。私たちの人生も、少なくとも、このパターンに従っています。私たちは苦しみの中に生まれます。そして、死ぬのです。そして、栄光のうちに復活します。

Do you think Noah felt vindicated when the flood came? I do. All the mocking. All the societal pressure to conform. But he persevered. He kept preaching as he built the ark! And one day, the flood came and it happened exactly as God said and exactly as Noah preached. Apparently God thought 8 people were not too few. If Christianity never gets enough traction in Japan to be considered normal, will you be faithful to God until the end?

Vindication will come. It will be worth it. Noah stayed faithful. There were only eight people that were saved. So Jesus potentially went to the place of the dead on Friday evening and all day Saturday and proclaimed victory over them, "I did it. I accomplished salvation. And on Sunday morning, I'm going to raise from the dead. And you were wrong. You didn't believe when you heard."

I also think this theory fits with the flow of the text. In verses 18-22 we see Jesus' suffering, death, resurrection, and ascension. And Peter really seems to put verses 18, 19, and 20 in the historical moment of Jesus' death.

Here's what Peter is doing. He is showing in extraordinary theological depth, how it is better to suffer for doing good because our lives are patterned after Jesus' life. When Jesus died everyone, EVERYONE thought he was just another overly-religious idiot. He claimed to be God's Christ, the savior of the world and he died. His disciples and his enemies were all absolutely shocked to see him resurrected from the dead.

And so it is with us. Society, your family, your friends might think you are a weird overly-religious idiot. And when you die, they might think, "Oh finally he's done bothering me about believing in Jesus and telling me I'm a sinner." But one day you will be resurrected.

Jesus descended from eternity. He descended and suffered. His whole life was characterized by suffering. Then he died. Then he rose and now he is in heaven with God the Father with all power and authority. Our lives follow that pattern to a lesser degree. We are born into suffering. We die. Then we are resurrected in glory.

ペテロは4章でこのように言っていますが、私たちは人生における苦しみに驚いてはいけません。苦しみは普通のことなのです。

3章21節を読んでください

さて、最後の問題はバプテスマです。バプテスマは、ノアの洪水をどのようにして形にしたものなのでしょうか。そして、それはこの箇所の残りの部分とどのような関係があるのでしょうか？

バプテスマはキリスト教の開始の儀式であり、信仰を持って行われ、私たちがキリストに結びついていることを示すものです。エド・クラウニーという学者は第一ペテロの注解の中で、「外見上のしるしとしてのバプテスマは、罪の汚染を脱ぎ捨て、キリストにある新しい命の始まりを示すものである」と述べています。バプテスマの水は私たちが救うものではありません。ペテロはこのことをはっきりと言っています。バプテスマの水には、罪を清める性質はありません。バプテスマの水は、私たちが神を信じて生きることを神に誓う、外見上のしるしなのです。

続けて、クラウニー先生はこう言っています、「洗礼が洪水の水に例えられるとき...水の脅威的な象徴性が浮かび上がってきます。クリスチャンは、キリストの復活の命に守られた岩の上に立つために、死の水、破壊の洪水をくぐり抜けるのです。」

つまり、バプテスマ自体が、キリストの人生と同じ形を私たちの人生に伝えるためのものなのです。私たちは、自分の死を象徴する水の中に入ります。そして、水から上がってくるのは、神様との新しい命を象徴しています。

ここでも、クラウニーの言葉を引用します。「ノアが象徴的ではあるが、神の恵みによって解放されたように、彼らも解放された...キリストが彼らを救ったのです。キリストが彼らの罪のために死に、その復活によって彼らに命を与えたからです。私たちはキリストに結ばれており、それはバプテスマによって示されます。キリストが私たちの罪のために決定的な死を遂げたのは、私たちが神のもとに導くためです。イエスの贖いの死の勝利は、イエスの復活と、神の右手への勝利の昇天に見られます。イエスが死んだのは、私たちがイエスが今いるところに連れてくるためなのです。」

Peter says this in chapter four, but we should not be surprised at suffering in our lives. It is NORMAL.

Read 3:21

Now, the last issue is baptism. How is baptism a form of the flood of Noah? And what does that have to do with the rest of the passage?

Baptism is the initiatory rite of Christianity, done with faith, that shows we are united to Christ. Ed Clowney in his commentary on 1 Peter says, "Baptism as an outward sign marks the putting off of the pollution of sin, and the beginning of new life in Christ." The water of Baptism doesn't save us. Peter says this clearly. The water of baptism does not possess any sin-cleansing qualities. It is an outward sign of our pledging to God to live a life of faith in him.

Clowney continues and says, "When baptism is compared to the waters of the flood... the threatening symbolism of water is brought into view. Christians are brought through the waters of death, the flood of destruction, in order that they might be established upon the rock, secure in the resurrection life of Christ."

So baptism itself is meant to convey the same shape to our life as Christ's life. We go down into the water that symbolizes our death. And we come up out of the water symbolizing new life with God.

Again, I'll quote Clowney here: "As Noah was delivered by the grace of God, although only in symbol, so have they been delivered... Christ has saved them, for he died for their sins and gave them life through his resurrection. We are united to Christ and that is shown through baptism. Christ's conclusive death for our sins was accomplished to bring us to God. The victory of his atoning death is seen in his resurrection, and in his triumphant ascension to the right hand of God. He died to bring us to where he now is."

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. クリスマンであるために苦しむことは怖いことですか？なぜですか？
2. 3:15には、私たちが持っている希望の理由を問われると書かれています。あなたはクリスマンである理由を聞かれたことがありますか？その会話はどうでしたか？もしなければ、それはなぜだと思いますか？
3. 3:16には、私たちは、私たちが中傷する人が恥をかくような善良な生き方をしますと書かれています。あなたの生き方がキリストを反映していない部分はどこですか？
4. クリスマンとして生きていく上で、人を恐れない大胆さと自信を身につけるためにはどうしたらいいでしょうか。
5. イエスが戻ってきたときに私たちが擬人とされることを知っていると、大胆に人を愛したり、大胆に人々に福音を伝えたり、非倫理的な行為に参加せずに大胆に仕事に励んだりする動機になりますか？ そうであれば、为什么呢？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. Is suffering for being a Christian a scary idea? Why?
2. In 3:15 it says we will be asked for a reason for the hope we have. Have you ever been asked why you are a Christian? How did that conversation go? If not, why do you think that is?
3. In 3:16 it says we will have such good behavior that anyone who slanders us will be put to shame. What areas does your behavior not reflect Christ?
4. What can you do to grow in boldness and confidence in living as a Christian and not being fearful of others?
5. How does knowing we will be vindicated when Jesus comes back motivate you to boldly love others, or boldly tell people the gospel, or boldly work hard at your job while not participating in any unethical practices?

Spend some time praying together. Pray specifically for what was discussed.

ペテロの手紙第一 聖書の学び

寄留している者のための希望

4

クリスチャンとして苦しむこと

1 Peter Bible Study

Hope for Exiles

4

Suffering as a Christian

事前の祈り

クリスチャンライフを一言で表すとしたら、あなたは何と言いますか？ 勝利？ 成長？ 困難？ 第一ペテロ4章では、クリスチャン生活は「神のみこころにより苦しみながら、善を行いつつ」と特徴づけられています。

4章では、ペテロはキリストに結ばれた人生の実際的な意味を説明しているようです。注意：この章は個人的な話になります。あなたは、この章に書かれていることが好きではないかもしれませんが、しかし、神様の御言葉はすべて私たちの益になるものです。私たちはそれが正しいと信じていますし、もし反対なら、それは間違っているのです。

神様の言葉は、あらゆる文化を超越する。神様の言葉は伝統を超越します。あなたの性格を超越し、すべての時代を超越します。始める前に、祈りの時間を持ちましょう。

- 神様があなたを謙遜にくださり、何が正しいかという自分の意見を聖書に委ねることができるように祈り求めてください。
- あなたの教会でも、神様の御言葉の前に同じように謙遜になれるように祈ってください。
- あなたの教会の指導者たちが、聖書が語っていることを理解し、それをどのように教会に適用していくことができるようにお祈りください。
- 私たち全員が、聖書を読むときに、自分のプライドや自己中心的な動機で盲目になることがないようにお祈りください。

Pre-study prayer:

If you were to characterize the Christian life with one phrase what would you say? “Victory?” “Growth?” “Difficulty?” In 1 Peter 4 the Christian life is characterized as “suffering according to God’s will while doing good.”

In chapter 4 Peter seems to be explaining the practical implications of the life that is united to Christ. Just as a warning, this chapter is going to get personal. You may not like the things that this says. But all of God’s Word is for our benefit. We trust that it is right and if we disagree, then we are wrong.

God’s Word transcends all cultures. God’s Word transcends traditions. It transcends your personality type and it transcends all time. Before you begin, spend some time in prayer:

- Pray and ask God to humble you and help you submit your opinions of what is right to Scripture.
- Pray for your church to have the same humility before God’s Word.
- Pray for the leadership of your church to have insight into what Scripture says and how to apply it to the church.
- Pray that all of us will not be blinded by our pride or self-centered motives when we read the Bible.

学び

本文を4つに分けてみました。キリストに結ばれた生活は

- ・ 武装する 4:1-7
- ・ 愛する 4:8-11
- ・ 喜ぶ 4:12-16
- ・ 委ねる 4:17-19

まずは武装する。4:1-7を読んでみてください。

ペテロはまず、私たちとキリストとの結びつきから始めます。私たちの救い主であるキリストが肉体をもって苦しまれ、私たちもその運命を共有するのですから、私たちはイエスと同じ考え方を持つべきなのです。

まず、その考え方はどのようなものでしょうか。ペテロがずっと言っているのと同じことです! この人生がすべてではありません! 今の苦しみも、これから来る死も、終わりではないのです! 苦しみ、死に、それから、栄光のうちによみがえるのです。そして、これは神様のなさることなのです。神は忠実な方です。あなたは信仰によってキリストに結ばれているのですから、あなたの終わりが苦しみでないことを知って、忍耐してください。あなたの現在の状況は苦しみかもしれませんが、あなたの終わりは栄光と誉れです。

第二に、ペテロは「こう心構えしなさい」というだけではありません。この「心構えで武装しなさい」と言っています。クリスチャンとして生きるのは大変なことです。朝起きると、自分勝手なことを考えてしまうからです。そして、感謝することを考えるために戦わなければなりません。どこに行っても、私たちを取り巻く世界全体が私たちがそれに合わせるように求めているのに、私たちはそれとは違う生き方をするために戦わなければならないからです。サタンとその悪魔は非常に強力な悪の霊的存在で、あなたを滅ぼすことだけに専念しているので、イエスへの信仰を持って生き続けるために戦わなければならないので、つらいのです。

Study:

I've separated the text into 4 sections. The united-to-Christ life is:

- ・ Arming 武装する 4:1-7
- ・ Loving 愛する 4:8-11
- ・ Rejoicing 喜ぶ 4:12-16
- ・ Entrusting 委ねる 4:17-19

First, "Arming" - Read 4:1-7

Peter begins immediately with our union with Christ. Since our Christ, our savior, suffered in the flesh and since we share his fate, we ought to adopt the same thinking that Jesus had.

First of all, what is that way of thinking? It's the same thing Peter has been saying all along! This life is not all there is! Your current suffering and your death that is coming is not the end! You suffer and die and THEN you are raised to glory. And this is God's doing. He is faithful. You are united to Christ by faith, so persevere knowing that your end is not suffering. Your present situation may be suffering, but your end is glory and honor.

Secondly, Peter doesn't just say "think this way." He says, "arm yourselves" with this way of thinking. Living as a Christian is hard. It is very hard every day because you wake up and start thinking selfish thoughts. And you have to fight to think grateful thoughts. It is hard because the whole world around us every where we go wants us to conform to it and we have to fight to live differently. It is hard because Satan and his demons are very powerful evil spiritual beings who are solely focused on your destruction and you have to fight to continually live with faith in Jesus.

だからペテロは「武装しなさい」と言っているのです。これは武器を装備せよということです。どんな武器ですか？ 考え方です。心構えです。私たちの武器は、聖書のメッセージです。それは福音です。そして、私たちは常にそれを手に取り、戦わなければなりません。あなたの心の中にある、聖書に反する考えと戦ってください。それらに耳を貸してはいけません。戦ってください。文化があなたに与える間違ったメッセージと戦いなさい。それらを考慮してはいけません。それらと戦いなさい。悪魔からの疑いや非難と戦いなさい。それらにこだわってはいけません。それらと戦いましょう！

プロテスタントの改革者、マルティン・ルターの言葉を紹介します。

悪魔があなたの罪を攻撃し、あなたが死と地獄に値すると宣言したら、悪魔にこれを伝えてください：「私は死と地獄に値すると認めますが、だからどうだというのか？ 私は私の代わりに苦しみ、満たされた方を知っています。彼の名前はイエス・キリスト、神の御子であり、彼がいるところにまた私もいるでしょう！」

なぜ、このような考で武装するのでしょうか。4:1-3をもう一度見てください。

私たちは、キリストと結ばれているからこそ、武装するのです。キリストが神のために苦しむことを決められたように、私たちも神のために苦しむことを決めます。ペテロは、もしあなたが苦しみを受けたら、何か神秘的なことが起こり、魔法のようにもう罪を犯さなくなる、と言っているわけではありません。キリストと共に苦しむという決断は、あなたの人生の新しい方向性をもたらすと言っているのです。もう自分の罪深い欲望のために生きるのではなく、他人の罪深い欲望のために生きるのでもありません。神様の御心のために生きるのです。あなたの人生はもはや罪によって特徴付けされることはありません。あなたはまだ罪を犯すことがあります、それはあなたの人生を定義するものではありません。クリスチャンになると、あなたの人生は神への従順さによって定義されます。

この直前の3章では、ペテロがバプテスマについて話している。彼は、それが「健全な良心が神に対して行う誓約」であると言いました。聖書にはもともと章と節の番号がないので、3章と4章の区切りはありません。ですから、ペテロのバプテスマについての議論もこの節とつながっています。バプテスマを受けるといふ決断は、自分をイエスと同一視することを公に示すという決断です。バプテスマは、罪深い欲望に従う古い生活から離れ、神様の御心に従う生活を始めることを示す方法です。この一つの行為が苦しみをもたらすことがあります。バプテスマを受けるだけで、別離、中傷、裁きをもたらすことがあります。

So Peter says, "arm yourself." This means to equip yourself with weapons. What kind of weapons? A way of thinking! Our weaponry is the message of Scripture. It is the gospel. And we have to constantly pick it up and fight with it. Fight the thoughts in your mind that are contrary to scripture. Don't listen to them! Fight them! Fight the false messages that the culture gives you. Don't consider them. Fight them! Fight the doubts and accusations of condemnation from the Devil. Don't dwell on them. Fight them!

Here's what Protestant Reformer, Martin Luther said:

So when the devil throws your sins in your face and declares that you deserve death and hell, tell him this: "I admit that I deserve death and hell, what of it? For I know One who suffered and made satisfaction on my behalf. His name is Jesus Christ, Son of God, and where He is there I shall be also!"

Why do we arm ourselves with these thoughts? Look again at 4:1-3.

We arm ourselves because we are united to Christ. Just as Christ decided to suffer for God so we decide to suffer for God. Peter is not saying if you suffer then something mystical happens and you magically don't sin anymore. He is saying that the decision to suffer with Christ brings with it a new direction of your life. You no longer live for your own sinful passions or for the sinful passions of others. You live for God's will. Your life is no longer characterized by sin. You still sin, but it is not the way your life is defined. Once you become a Christian your life is defined by obedience to God.

Just before this in chapter 3 Peter talked about baptism. He said it was an "an appeal to God for a good conscience." Scripture did not originally have the chapter and verse numbers so there was not a separation from chapter 3 to chapter 4. So Peter's discussion of baptism is also connected to this verse. The decision to be baptized is the decision to show publicly that you identify yourself with Jesus. Baptism is the way you show that you are leaving your old life of following your sinful passions and beginning a life that follows God's will. This one act can bring about suffering. Just being baptized can bring separation, slander, judgment.

だからペテロは、聖書の考え方で、心構えで武装しなさいというのです。私たちはもう昔の私たちではないので、昔のようなことはしないということです。「異邦人がしたいと思っていることを行ない...それは過ぎ去った時点で十分です」と言うのは、基本的に「あなたはもう十分に罪を犯しました。クリスチャンになる前は、罪を犯すのに十分な時間だったのです。もうこれ以上する必要はない。」と言っているのです。

そして、3節では、私たちがもうやっていないことの例をいくつか挙げている。このリストには、あるテーマがあります。そのテーマとは、自制心が全くないことです。これは、欲望に支配された人生です。それはクリスチャンの生活ではありません。イエス様は「自分を捨てなさい」(マルコ8: 34)と言われました。つまり、私たちは自分の心の奥底に、単にそれを感じるから従うべきだと本気で思っている欲望を持つようになるということですが、イエス様は、そのような欲望こそ、捨てなければならないと言われます。

次のようなことを考えたことはありませんか？

- ・「どうにもならない。時々、本当に見たい時にポルノを見ちゃうの。」
- ・「聖書には酔ってはいけないと書いてあるけど、楽しいと思うからどうしても酔ってしまおう。」
- ・「ゴシップは悪いことだとわかっているけど、どうしてもしてしまう。」
- ・「寝た方がいいのはわかってるけど、もう一回見たいんだ。」
- ・「家族と過ごすのが辛すぎる。また遅くまで働いてしまう。」
- ・「聖書を読んで祈る時間や教会に行く時間に起きるのは辛すぎる。もうちょっと寝ていよう。」

これらはすべて、ノンクリスチャンが行っている考え方です。もし、この中のどれかが許される考え方のように思えるなら、あなたは変わる必要があります。もう、そのようなことはしてはいけません。

このリストの中で、日本のプロフェッショナルの世界で特に重要だと思われるフレーズが2つあります。それは、「泥酔」と「宴会騒ぎ」です。聖書的には、飲酒は悪いことではありません。酔っぱらうことは悪いことです(エペソ5: 18、1テモテ3: 3、8、テトス1: 7参照)。酔うということは、何杯飲むかという問題ではなく、圧倒されることです。酔いがさめないということです。つまり、酔わないためには、シラフでいる必要があるのです。これは衝撃的なことかもしれませんが、これが聖書の教えなのです。

So Peter says to arm ourselves with Biblical thinking because we are not who we used to be and that means we don't do what we used to do. When he says, "For the time that is past suffices for doing what the Gentiles want to do" he's basically saying "You have done enough sinning. The time before you became a Christian was plenty of time to sin. You don't need to do anymore."

Then in verse 3 he gives some examples of these things that we don't do anymore. There is a theme to this list. And that theme is a complete lack of self-control. This is a life that is governed by its desires. That is not the Christian life. Jesus said, "deny yourself" (Mark 8:34). That means we will have desires deep in the core of our being that we really think we ought to follow simply because we feel them. Jesus says that it is precisely those desires that we must deny.

Do you ever find yourself thinking any of the following?:

- "I just can't help myself. Sometimes when I really want to I just look at porn."
- "I know the Bible says don't get drunk, but I just think it's fun so I really want to."
- "I know gossip is evil, but I just can't help it."
- "I know I should go to bed but I just want to watch one more episode."
- "It's too hard to spend time with my family. I'll just work late again."
- "It's too hard to get up in time to read my Bible and pray or go to church. I'll just sleep a little longer."

These are all ways of thinking that non-Christians do. If any of these sound like permissible ways of thinking then you need to change. You must not do those things anymore.

There are two phrases in this list that I think is especially important in the Japanese professional world. Those are "drunkenness" and "drinking parties." Biblically, drinking is not wrong. Getting drunk is wrong (see Ephesians 5:18; 1 Timothy 3:3, 8; Titus 1:7). Drunkenness is not a matter of how many drinks you have, it is a matter of being overpowered. It means you're not sober. This means that to avoid being drunk you need to stay sober. This might be shocking, but this is the Biblical teaching.

このリストがあるからこそ、私たちは飲み会の参加について考えなければならないと思うのです。何があっても職場の飲み会に行ってもいけないというのは違うと思いますが、「自分の会社の飲み会では普通に何が起こるのか？」と自問してみる必要があると思います。みんなでお酒を楽しむだけの楽しい時間なのか？ それとも、ほとんどの人が酩酊するほど飲んでいるパーティーなのでしょうか？ もし、後者であれば、行かない方がいいかもしれません。「そんなことをしたら、私の仕事に支障が出るかもしれない」と思うかもしれません。そうかもしれませんね。だからペテロはこの手紙を書いたのです。イエスに従うことは苦しみにつながるからです。イエス様の考え方で武装してください。

クリスチャンは社会と違う。このような生き方を始めたらどうなるのでしょうか。ペテロはすでに知っています。4節から5節をもう一度読んでください。

クリスチャンのように生きることで、社会的、職業的な反響があるでしょう。このとき、「私は本当にイエスが私の救い主であり、主であると信じているのか？ キリスト教信仰を人生のあらゆる局面で生かすことができるだろうか？」と自問する必要があります。

これがクリスチャンの生活です。私たちにはリーダーがいますが、それは首相でも上司でも両親でも配偶者でも子供でもありません。イエス様なのです。自分自身を武装してください。あなたの人生がイエスの人生を反映していることを魂の奥深くで知ってください。イエスは苦しみ、死にました。あなたの罪のために十字架にかけられたとき、彼は悪口を言われました。そして今、彼は栄光の中にいます。私たちの行き先は彼と共にいることであり、福音に従わない者の運命は正しく裁かれることなのです。信者は恵みを受け、不信者は裁きを受けるのです。

4:6-7をもう一度読んでください。

6節では、ペテロが教会を励ましているのでしょう。キリスト教が始まって、永遠の命が与えられると言われて死んだとき、他のクリスチャンは福音が本当なのかどうか疑い始めたかもしれません。ペテロは、「今は、死ぬのが当たり前のだ」と念を押しているのである。「死んだ人々」というのは、おそらく生きていた間に福音を聞いて、信じてクリスチャンになり、その後死んだ人たちのことを指しているのでしょう。ペテロはまた、「死は終わりではありません。イエスがそうであったように、私たちの人生もそうなのです。」とされています。

Because of this list I think we have to think about participation in nomikai. I don't think it's right to say that no matter what you can't go to your workplace's nomikai, but you have to ask yourself, "What typically happens at my company's nomikai?" Is it just a nice time where we all enjoy some drinks together? Or, is it a party where most everyone is drinking to the point of intoxication? If it's the latter, you might consider not going. You might think, "That could threaten my job." Yes it could. This is why Peter wrote this letter. Because following Jesus leads to suffering. Arm yourself with Jesus' way of thinking.

Christians are different than society. What will happen if you start living this way? Peter already knows. Read verses 4-5 again.

There will be social and professional repercussions for living like a Christian. At this point you have to ask yourself, "Do I really believe Jesus is my savior and my lord? Am I willing to let my Christian faith be part of every aspect of my life?"

This is the Christian life. We have a leader and it's not the Prime Minister or our boss or our parents or our spouse or our kids. It is Jesus. Arm yourself. Know deep down in your soul that your life reflects Jesus' life. He suffered and died. He was maligned while he hung on the cross for your sins. And now he is in glory. Our destination is to be with him and the destiny of those who don't obey the gospel is to be judged justly. Believers get grace and unbelievers get justice.

Read 4:6-7 again.

In verse 6 Peter is probably encouraging the churches. When Christianity started and people were told they would be given eternal life and then they died, other Christians may have begun to doubt whether the gospel was true. Peter is just reminding them that for right now, it is normal to die. The phrase "those who are dead" probably refers to people that heard the gospel while they were alive, believed and became Christians and then died. Peter is saying again, "Death is not the end. to die is not even a sign of God's displeasure. It is not a sign that our beliefs are wrong. this is the pattern of our life, just as it was Jesus' life."

7節では、なぜ私たちがこのような兵士の考え方を持つ必要があるのか、その理由を述べています。その理由は、終わりが近いからです。

どうのことだろう。ペテロはイエスが数日で戻ってくると思っていたということでしょうか？ そうではありません。ESVスタディ・バイブルはこのようなコメントを出しています。「これはむしろ、神の偉大な救いの計画におけるすべての主要な出来事が...すでに起こったことを意味します。したがって、キリストの再臨はいつでも起こりうる。ペテロの時代にも、そして今日も、それは『近い』のです。」

神様の救いの計画の中で次に起こることは、イエス様の再臨です。私たちは、夜警の兵士のようにする必要があります。主の再臨を待つ兵士である以上、酔っぱらってはいけないのです。目を覚まし、警戒を怠らないのです。そのための主な方法は、祈りです。酔っていても、祈ることはできません。そして、クリスチャンとして、私たちは常に祈る必要があります。もし、あなたが祈りが自分の人生にそれほど必要でないと思うなら、自分の状態がどれほど悪いか、全くわかっていないことになります。

私たちの状態はどうなっているのでしょうか。私たちは霊的戦争の中にいるのです。私たちの武器（聖書）を使うには、そして援軍（神の力）を得るには、祈るしかないのです。無線通信のない兵士を想像してみてください。あなたは完全に孤独で、助けもないでしょう。しかし、もしあなたが司令官と直接通信する方法を持っているなら、敵と戦うために必要なすべての助けを得ることができます。

このことについて考えてみましょう。クリスチャン生活における霊的な戦いをどのように戦うか？

エペソ人への手紙6章10～20節を読んでください。17節と18節に注目してください。私たちが持っている一つの武器は何でしょうか？ 私たちはその武器をどのように使うのでしょうか？

聖書は私たちの唯一の武器です。私たちが聖書を使って戦う方法は、聖書を祈ることです。

In verse 7 he's giving the reason why we need to have this soldier mindset. The reason is because the end is near.

What does that mean? Does that mean that Peter was expecting Jesus to return in a matter of days? Not really no. The ESV Study Bible gives this comment: "This means, rather, that all the major events in God's great salvation plan... had already occurred. Therefore Christ's return could happen at any time: it was "at hand" in Peter's day, and it still is today."

The next thing to happen in God's plan of salvation is Jesus' return. We need to be like soldiers on the night watch. You don't get drunk when you are a soldier waiting for your Lord to return. You stay awake and you stay alert. And the main way we do that is through prayer. You can't pray if you are drunk. And, as Christians we need to pretty much be constantly praying. If you don't think prayer is that necessary to your life then you have no idea how bad your condition really is.

What is our condition? We are in a spiritual war. The only way to use our weapon (the Bible) and the only way to get reinforcements (God's power) is to pray. Imagine being a soldier with no radio communication. You would be completely alone and without help. But, if you have a way to communicate directly to the Commander then you can get all the help you need to fight the enemy.

Think about this: How do you fight the spiritual battle of the Christian life?

Read Ephesians 6:10-20. Pay close attention to verses 17 and 18. What is the one weapon we have? How do we wield that weapon?

The Bible is our one weapon! The way we fight with Scripture is by praying it! Read James 4:7. This is a promise that if we fight then we will experience victory over sin and temptation.

次は愛すること。4:8-11です。

1節から7節までは、私たちが世界とどのように関わっていくかに焦点が当てられていましたが、この節では、私たちが教会で互いにどのように関わっていくかがより明確に示されています。では、キリストに結ばれている私たちは、お互いにどのように接したらよいのでしょうか。

キリスト教において最も重要な徳目は「愛」です。だからペテロは「何よりも...」と言っているのです。そして、それを「熱心に」実行しなさいというのです。ある注解書によると、このギリシャ語は、引き伸ばされたものを表現するために使われるそうです。私たちはいつも互いに愛し合っています。クリスチャンが愛することをやめようと思う瞬間は決してないのです。私たちから憎まれるようなことは何もないのです。

この8節は、もしあなたが誰かを本当に愛しているならば、その人の欠点やあなたを傷つける方法をすべて無視する、という意味だと私はいつも思っていました。そして、もしあなたが本当に大人なら、相手があなたにする傷ついたことをすべて受け入れて、あなたの怒りや傷の感情をすべて詰め込むことになるでしょう。しかし、それはこの節の意味ではありません。

相手に自分の欠点を見せないのは、愛とは言えません。マタイ18:15-17で、イエス様はお互いに和解するための手順を示しています。「もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たこととなります。」

ここでは、兄弟を「得る」ことが目的であることがわかりますね。このようなやりとりの目的は、「あなたが俺にこんなことをして、俺は怒っていて、あんたはひどい!」と言うことではありません。それもまた、愛ではありません。それは復讐と呼ばれるものです。まず、相手を赦さなければなりません。誰かを赦すということは、彼らがあなたに与えた傷の代価を支払うということです。あなたは、彼らがしたことの代価を彼らに返さないことを選択します。それは、相手の噂話をしないことを意味します。その人を中傷しない、その人に会っても復讐しない、その人について恨み言を言わないということです。

Next is “Loving” - 4:8-11

Verses 1-7 focused more on how we relate to the world, where these verses show more how we relate to each other in the church. So, as we are united to Christ, how do we treat each other?

The most important virtue in Christianity is love. That’s why Peter says, “Above all...” And he says to do it “earnestly.” One commentary said this Greek word is used to describe something that is stretched or extended. We always love each other. There is never a moment when a Christian decides to stop loving. There is nothing that merits hate from us.

Now I’ve always thought this verse meant that if you really love someone then you will ignore all their faults and the ways they hurt you. And if you’re really mature you will just accept everything hurtful they do to you and stuff all your feelings of anger and hurt. But that is not true.

It is not loving to not show someone their faults. In Matt. 18:15-17 Jesus gives the protocol for reconciling with each other. He says, “If your brother sins against you, go and tell him his fault, between you and him alone. If he listens to you, you have gained your brother.”

You see here the goal is to “gain” your brother. The whole goal of these interactions is not to say, “You did this to me and I’m so mad and you’re terrible!” That also is not loving. That is called revenge. First, you must forgive them. To forgive someone means you pay the price for the hurt they caused you. You choose to not pay them back for what they did. It means you don’t gossip about them. You don’t slander them, when you see them you don’t take revenge in your treatment of them, and you don’t let yourself think resentful thoughts about them.

そして、相手を赦したら、愛を持って相手のところへ行き、謙虚に相手の罪を指摘するのです。しかし、もしあなたのゴールが相手と和解することでないなら、あなたはその会話をする準備ができていないのです。あなたのゴールは、彼らとの関係を取り戻すことではなければなりません。そうでないなら、あなたは愛によって行動しているのではありません。「愛は多くの罪をおおう」とは、箴言10:12を引用したものです。それは、「憎しみは争いを引き起こし、愛は全ての背きをおおう。」とっています。

箴言の引用の周りの節を読むと、賢い人、正しい人は悪を隠したり、無視したりしないことがわかります。それは、悪い人や愚かな人がすることです。むしろ、賢い人は戒めと命と知恵と知識を与えることも受け取ることもします。

ですから、互いに熱心に愛し合うということは、頻繁に和解する会話をするということです。相手を恨むのではなく、相手に怒らず、相手を赦し、そして、相手からどのような接し方を受けたと感じたかを優しく話す決めていくということです。

通常、こうした会話は、相手の行動を誤解している可能性がないか、好奇心をもって始めることが賢明です。「もしよろしければ、いつかお時間があれば、お聞きしたいことがあるのですが...」と尋ねて、相手に予告するのもよいでしょう。そして、相手と話すことができたなら、こういう話し方をしてみてください。「今日、あなたがあんなことを言ったとき、私は傷ついたと思った。でも、私が誤解していたかもしれないから、どういう意味か聞いてみたかったんだ。でも、私はあなたを愛しているし、私たちの関係を大切に思っているから、あなたが私に腹を立てていないかどうか、私にできることがあるかどうかを確かめたいのです。」

4:9をもう一度読んでみてください。

1世紀当時、旅は危険なものであったから、もてなしはとても愛に満ちた行為であった。もし街に宿があったとしても、それは通常、危険な場所でした。もし、宿屋に泊まらず、街に知り合いもいなければ、外で寝なければならなかった。イエス様がお生まれになったときも、ここでお休みになったのかもしれませんが。ベツレヘムでは誰もヨセフとマリアをもてなせなかったので、イエス様は飼い葉桶で寝られたのかもしれませんが。

Then, once you've forgiven them you go to them, in love, and humbly point out the wrong they did. But if your goal is not to be reconciled to them then you're not ready to have that conversation. Your goal must be to gain their relationship back. If it's not then you're not acting in love. "Love covers a multitude of sins" is a quotation of Proverbs 10:12. It says, "Hatred stirs up strife, but love covers all offenses."

If you read the surrounding verses you see that the wise or righteous persons don't conceal or ignore evil. That is what the wicked or fool does. Rather a wise person both gives and receives commandments and life and wisdom and knowledge.

So to keep loving one another earnestly means we are frequently having conflict resolution conversations. It means that instead of holding a grudge against someone, you decide to not be angry at them, forgive them, and then gently talk to them about how you felt treated by them.

It is usually wise to begin those conversations with curiosity to see if it's possible that you misunderstood their actions. You might give them notice by asking, "If it's okay, if you have time sometime I wanted to ask you something." And then when you are able to talk to them you could say, "Earlier today when you said such and such I felt hurt by that. But I wanted to ask you what you meant because maybe I misunderstood you. No matter what though, I love you and I care about our relationship so I want to see if you are upset with me and if there is something I can do."

Next, read 4:9 again.

In the first century hospitality was a very loving act because travel was dangerous. If there was an inn in the city it was typically a dangerous place to stay. If you didn't stay at the inn and you didn't know anyone in the city then you had to sleep outside. This may have been where Jesus slept when he was born. It is possible no one in Bethlehem was hospitable to Joseph and Mary so Jesus slept in a manger.

しかし、2000年後の日本の都市部に住む私たちには、どのように映るのだろうか。ペテロは「不平を言わないで」といっているように、ここでも私たちの心に焦点をあてているのです。ですから、「私はもてなす心を持っているか?」と自問してみてください。つまり、自分の人生を人に開いて、人を受け入れることを楽しんでいるか、それとも、自分の時間やエネルギーや空間を人に取られて、いらいらしているか? もてなしにはいろいろな方法があります。都会では、誰もが自分の好きな場所、よく行く場所を持っています。あなたはそこに人を迎え入れることができますか? 行きつけのレストランがあれば、一緒に行こうよ、ご飯を買っていこうよと誘うことはありますか? 趣味やスポーツがある人は、一緒に遊ぼうと誘うことがありますか? あなたは歓迎していますか?

4:10-11をもう一度読みましょう。

教会の一員であることは、とても素晴らしいことです。それは、神様が御霊を通して、教会のすべての人に少なくとも一つの賜物を与えてくださり、それを使って他の人に仕えることができるということです。これは神からの恵みであり、私たちは神の栄光のためによく使わなければなりません。

賜物の目的は他の人に仕えることですから、自分の名誉や賞賛を得るような他の目的のために賜物を使わないでください。ペテロは、聖霊が与える賜物の種類を、「語ること」と「奉仕すること」の2つのグループに分けています。もしあなたが話したり、教えたり、説教したり、翻訳したりするなら、それは神様の言葉を話すような真剣さが必要です。私たちは、「神様はこの聖書箇所をこの人たちにどのように教えるだろうか?」と自問すべきです。

もしあなたが奉仕するならば、自分の力ではなく、神の力に頼って行うべきです。神は、私たちが互いに仕え合うための力を実際に与えてくださっています。私たちは、互いに仕え合うために必要な力がないのではと不安になる必要は決してありません。神は私たちが従うために必要なものを与えてくださるので、私たちは互いに仕え合うときに全力を尽くすことができるのです。

そして、11節の終わりには、「この方に栄光と力がよ限りなくありますように。アーメン。」とある。「この方」とは誰でしょうか? それはイエス様か父なる神様です。どちらの解釈も正しいのですが、この手紙におけるペテロの神学を考えるなら、イエス様の現在の栄光の状態に注目することは理にかなっています。

But what does it look like for us in urban Japan 2000 years later? Again Peter is focusing on our heart because he says, “without grumbling.” So you could ask yourself, “Do I have a hospitable heart?” In other words, do you enjoy opening your life to others and letting them in or are you irritated at people for taking your time and energy and space? There are various ways to do this. In the city everyone has their own area that they particularly enjoy or frequently visit. Do you welcome people into it? If you have a favorite restaurant do you ever invite someone to go with you and buy their meal? If you have a hobby or a sport you enjoy do you invite someone to play with you? Are you welcoming?

Look again at 4:10-11.

There's something incredible about being part of the church. That is that God, through his Spirit, has given every person in the church, at least one gift through which they can serve others. This is grace from God that we are to use well for his glory.

The purpose of gifts is to serve others so don't use gifts for other purposes like getting honor and praise for yourself. Peter breaks the kinds of gifts that the Holy Spirit gives into two groups: speaking and serving. If you speak or teach or preach or translate then it should have the level of seriousness as if we were speaking God's words. We should ask ourselves, “How would God teach this text to these people?”

If you serve then you should do it not in your own strength, but relying on God's strength. God actually gives strength to us to serve one another. We never need to feel anxious that we won't have the strength we need to serve each other. God will give us what we need to follow him so we can give our whole effort when we serve each other.

Then at the end of verse 11 he says, “To him belong glory and dominion forever and ever. Amen.” Who is the “him”? Well it's either Jesus or God the Father. Either interpretation is correct, but if we think about Peter's theology in this letter it would make sense that he would call attention to Jesus' present glorified state.

私たちの全人生は神様の栄光のためにあるのですから、教会で互いに仕え合うことも、私たちのためではなく神様の栄光のためにあることは明らかです。栄光と力は神のものです。ペテロはそう願っていることを表現しています。教会が神の力によって福音を宣べ伝え、福音の真理に従って生きるとき、イエスの支配権と力が全地上に実現し、すべての時代と永遠にわたってますます多くの栄光がイエスのもとに与えられるのです。

次は喜び。4:12-16です。

繰り返しになりますが、もっと言うべきです。クリスチャンとしての苦しみは当たり前の経験です。そして、ペテロが考えているのは、墮落した世界に住むすべての人に起こる一般的な苦しみではないことが、文脈からわかります。ペテロは、クリスチャンであることを理由に特別な苦しみを受けることがあっても、驚いてはいけなと言っているのです。

むしろ、そのような状況でも、私たちは喜びを持つべきです。なぜなら、私たちはさらにイエスと一致することができるからです。なぜそれを望まないのでしょうか？ 主はいつか栄光のうちに来られるのです。その日、私たちは、困難の中にあっても、イエスに忠実であったという喜びでいっぱいになるのです。「もし私がクリスチャンであるために特別な苦しみを受けていないなら、私は本当にイエスに従っているだろうか？」と自問するでしょう。

14節は、この聖書箇所でもエキサイティングな発見の一つである。ペテロはイザヤ書11章2節を引用しているのです。イザヤ書11:1-5を読んでみてください。

これは誰のことを言っているかわかりますか？ すべての時代の終わりに、キリストが正しい裁きを行うという予言です。イエスがすべてのものを正しくすることについて話しています。聖霊がキリストの上にとどまって、その働きをするための装備を整えることが書かれています。そして、ペテロはそれを普通のクリスチャンに適用しているのです。

ペテロは何を言っているでしょう？！

イエスに従ったことで侮辱されたとしても、神の子メシアであるイエスが贖いを成し遂げるために備えてくださったのと同じ御霊が、特別にあなたの上にも宿っているから、あなたは幸いだと言っているのです。

Our whole lives are for God's glory so obviously the way we serve each other in the church is also meant to be for his glory and not ours. Glory and dominion belong to God. And Peter expresses his desire for that to be so. As the church proclaims the gospel and lives according to the truth of the gospel, by the power of God, then Jesus' dominion is realized throughout the earth and more and more glory is given to him throughout all time and into eternity.

Next is "Rejoicing" - 4:12-16

Again, this can't be said enough, suffering as a Christian is the normal experience. And the context tells us that Peter is not thinking of general suffering that happens to everyone who lives in a fallen world. He is actually saying don't be surprised when you suffer specifically for being a Christian.

Rather, we should have joy in those situations because we get to further identify with Jesus! Why would we not want this? He will come in glory one day. And in that day we will be filled with so much joy that we were faithful to him even in the midst of difficulty. This really makes us question ourselves, "If I'm not receiving some kind of suffering specifically for my being a Christian, am I really following Jesus as I ought?"

Verse 14 is one of the most exciting discoveries in this text. Peter is referencing Isaiah 11:2. Take a moment to read Isaiah 11:1-5.

You know who this is talking about? It's a prophecy about the Christ doing his work of righteous judgment at the end of all time. It's talking about Jesus making all things right. It says that the Holy Spirit rests on the Christ in order to equip him to do that work. And Peter applies it to normal Christians!

What is Peter saying?!

He's saying that when you are insulted for following Jesus, you are blessed because the same Spirit who rests on Jesus, the messiah, the Son of God in order to equip him to accomplish redemption also rests on you in a special way.

私たちは常に、もし私たちが本当に神に完全に頼るならば、神は私たちを失望させるだろうと考えています。それは真実ではありません。神様は、私たちが神様に従っていくのに不自由な状態を放置されることはありません。イエスは、ご自分に従う者たちに聖霊を与えることを約束されました。それは、決して小さな約束ではありません。あなたのクリスチャン・ライフに何が起ころうとも、神があなたを見捨てたということは決してないのです。

4:15でペテロは、悪いことをしても苦しめないようにと、再び私たちに注意を促しています。悪いことをするのは、本当に愚かなことです。法律を破ってはいけません。他人を傷つけようとしないうこと。他の人のものを勝手に取ってはいけません。そして、「干渉するものとして苦しみに会うことがないようにしなさい」とも言っていることに注目してください。干渉する人とは、他人の仕事に口出しする人のことです。基本的にペテロは、教会に「いらいらさせるな」と言っているのです。押しつけがましくなったり、おせっかいになったりしないように。悪事を働いて苦しむことは、クリスチャンが誇るべきことではありません。私たちは、善を行いながら苦しむべきです。

16節はすごくいいと思います。これは、聖書の中で「キリスト者」という言葉が出てくる数少ない回です（使徒11章26節が初出です）。1世紀当時、「キリスト者」という言葉は、おそらく蔑称だったようだ。英語は、ギリシャ語の*Xristianos*の音訳である。ここでの日本語は、どちらかというと、「キリスト者」のような意味の訳語である。それが本来の言葉の意味を正確に表しているのだろう。「あなた方はキリストに執着している。まるでキリストの群れのように」と言うふうに言われたかもしれない。

ペテロは、もし誰かがあなたのことをクリスチャンと呼び、軽蔑的な意味で言ったとしても、喜んでいいのだと言っています。恥じることなく、むしろ喜びなさい。そうすれば、あなたが苦しみの中で神のキリストと一致することになり、神に栄光を帰することができます。クリスチャンであることを恥ずかしいと思わないでください。イエスは現在、栄光の中におられます。彼は永遠にすべての栄光と支配権を持っています。私たちは、宇宙の王と結びつくことを恥じるべきではないのです。もし恥ずかしいと思うなら、その罪を悔い改めなければなりません。

We constantly believe that if we really depend totally on God then he will let us down. That's not true. God does not leave us ill-equipped to follow him. Jesus promised the giving of the Holy Spirit to his followers. It was not a small thing to promise. No matter what happens in your Christian life, there will never be a time when God has abandoned you.

In 4:15 Peter reminds us again to not suffer for doing evil things. Doing evil things is really foolish. Don't break the law. Don't seek to harm others. Don't take without permission something that belongs to someone else. And notice he says to not suffer as a meddler. Someone who meddles is someone who interferes in other people's business. Basically Peter is telling the churches to not be irritating. Don't be pushy or nosy. Suffering for doing evil is not something Christians should be proud of. We are to suffer while doing good.

Verse 16 is pretty cool. This is one of the few times in the Bible we see the word "Christian" (Acts 11:26 is the first occurrence). It seems that in the first century the term "Christian" was probably derogatory. The English is a transliteration of the Greek word *Xristianos*. The Japanese here is more of a translation meaning something like, "Christ person." That's probably an accurate representation of how the word originally came across. "You people are obsessed with the Christ. You're like a bunch of Christ-people."

Peter says that if anyone calls you a Christian and means it in a derogatory way, you can rejoice. Don't be ashamed, but rather rejoice and thus give glory to God that you would identify with his Christ in suffering. Don't be embarrassed about being a Christian. Jesus is presently in glory. He has all glory and dominion forever. We should not be ashamed to be associated with the king of the universe. If we are embarrassed then we need to repent of this sin.

もしあなたがクリスチャンなら、それを受け入れなさい。クリスチャンであることを喜びなさい。イエス様と、イエス様の教会と関わっていることを喜びましょう。神様の民の一員であることを喜びましょう。あなたがクリスチャンであることを他の人に伝えましょう。会話の中でそのことを話題にできるときは、いつでもそうしてください。あなたの信仰は、あなたの人生で最も重要な部分です。ですから、信仰について話し、信仰に従って生活してください。

最後は委ねる。4:17-19です。

17-18節で、ペテロは再び旧約聖書を参照しています。17節では、預言者たちが、神が自分の民の不義を裁くことをどのように預言していたかを述べています。そして、18節では、箴言11:31を参照しています。ここでのペテロの主張の要点は、信者は自分の人生の後に裁きを受けることになり、それによってやっと救われるということではありません。

これをペテロの文脈で読む必要がある。彼は、私たちの現在の生活や経験する苦しみは、私たちに聖別し、最終的な救いに導くための神の懲らしめという意味で、神の裁きだと言っているようだ。

「もし私たちが救われ、その人生が苦しみによって特徴づけられるなら、それは私たちに聖化するための神の懲らしめの方法であり、イエスを信じないことはもっと悪い裁きを受けることになる」と、私たちはより確信できるのです」と、彼はまた励ましてくれているのです。このことを言い換えると、クリスチャンはこの地上での生活が地獄に最も近いということになります。

最後の節は、基本的にこの手紙全体の要約文である。「ですから」と言っているのは、今言ったことすべてを根拠にしていることを意味しています。私たちはキリストに結ばれ、キリストの運命を共有しているので、そしてイエスが全地を支配しているので、そして神が私たちの苦しみを支配しており、それは神の栄光のためなので、私たちは良いことをしながら、自分の魂を神に委ねなければならないのです。神は忠実です。神は変わりません。私たちが失望させません。神を信じましょう。

If you are a Christian, embrace it. Be glad to be a Christian. Be glad to be associated with Jesus and with his church. Be glad to be part of God's people. Tell other people that you are a Christian. Any time you can bring it up in conversation do so. Your faith is the most important part of your life so talk about it and live according to it.

Last is "Entrusting" - 4:17-19

In Verses 17-18 Peter is again referencing the Old Testament. In verse 17 he is referencing the prophets and how they prophesied God judging his own people for their unrighteousness. And in 18 he is referencing Proverbs 11:31. The gist of his argument here is not that believers will come into judgement after our lives and that we will barely be saved through that.

We have to read this in Peter's own context. He seems to be saying that our current lives and the suffering we encounter is God's judgment of us in the sense that it is God's discipline to sanctify us and bring us to final salvation.

He's encouraging us again by basically saying, "If we are saved and our life is characterized by suffering which is actually God's way of disciplining us in order to sanctify us, then we can be all the more certain that to not be a believer in Jesus will result in judgment that is much worse." One way to restate this is that this life on earth is the closest Christians ever get to Hell.

The last verse is basically the summary statement of this whole letter. He says "therefore" which means that he is basing this on everything else he has just said. Since we are united to Christ and share his destiny and since Jesus rules the whole earth and since God is in control of our suffering and it is for his glory, we ought to entrust our souls to him while doing good. God is faithful. He will not change. He will not let us down. Trust him.

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. 4:3または4:15にある罪のリストの中で、告白し悔い改める必要があるものはありますか？ これらの罪を克服するために、教会はどのような手助けをしてくれますか？
2. あなたが信じてしまいがちな、戦うべき嘘とはどんなものでしょうか？ どのようにしたら、もっと意図的に嘘から身を守ることができますか？ このような嘘に対して、役に立つ聖句は何ですか？
3. あなたはどのような方法でもてなすことができますか？ あなたがもてなしをすることができる人は誰ですか？ クリスマンとノンクリスマンについて考えてみてください。
4. イエスと苦しみで一致しているとわかっていれば、苦しみの中でも喜べると思いますか？ あなたはクリスマンであることを恥ずかしいと思いますか？ なぜですか？
5. 苦しみは神様の御心に従って起こることを知り、どんな困難が訪れても神様を信じられると感じますか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. Is there anything from the list of sin in 4:3 or 4:15 that you need to confess and repent of? How can the church help you overcome these sins?
2. What kind of lies are you prone to believe that you need to fight against? How can you be more intentional to arm yourself against them? What is a helpful Scripture for these lies?
3. What are some ways you can be hospitable? Who is someone you can show hospitality to? Try to think of Christians and non-Christians.
4. Do you think you can rejoice when suffering if you know you are sharing suffering with Jesus? Are you ashamed to be a Christian? Why or why not?
5. Knowing suffering happens according to God's will, do you feel you can trust God no matter what difficulties come in your life?

Spend some time praying together. Pray specifically for what was discussed.

ペテロの手紙第一

聖書の学び

寄留している者のための希望

5
地域の教会

1 Peter

Bible Study

Hope for Exiles

5
The Local Church

事前の祈り

ペテロ5章を読み、次のように祈ってください。

- あなたの教会の長老や指導者たちが、神の群れを牧し、強制されるのではなく、神が望まれるように、喜んで監督を行い、卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をし、また割り当てられている人たちを支配するのではなく、群れの模範となるように、神が助けくださるよう祈りましょう。
- 神様が、あなたをその力強い御手のもとにへりくだらせてくださるよう祈りましょう。
- あなたが不安に思っていることをすべて書き出し、もう心配することがないように、神様がすべてを管理してくださるようお願いしましょう。神様がそうしてくださると信じてください。

Pre-study prayer:

Read through 1 Peter 5 and pray about the following:

- Pray that God would help the elders and leaders of your church to shepherd his flock, exercising oversight, not under compulsion, but willingly, as God would have them, not for shameful gain, but eagerly; not domineering over those in their charge, but being an example to the flock.
- Pray that God would humble you under his mighty hand.
- Write down everything you are anxious about and ask God to take care of everything so that you don't worry anymore. Trust him to do so.

学び

第一ペテロの学びの最後です！この5章は、ペテロが手紙の宛先である教会に向けた最後の思いであるように思われます。ペテロは、教会の長老たちに語りかけ、そして、教会のすべてのメンバーに語りかけます。

5:1-4 長老たち...

ここでも、章と節の番号が後から付けられたことと、この文章がその前の文章とつながっていることが重要である。ペテロは、直接手紙を書いている地域教会の長老たちに宛てて、この文章を書いています。彼はここで、地域教会の長老たちの仕事について大きな発言をしているのです。この手紙の後半はクリスチャンの行動に焦点が当てられているので、ペテロは教会を前の章に従うように導く責任は長老たちにあると言っているようだ。

これは、先に述べたことを暗示して、長老たちに命じているのである。「私は、あなたがたのうちの長老たちに...群れを牧しなさい」と言っているのです。これは、この立場にある者を膝をついて祈らせるほどの重責である。また、もしあなたが地域の教会のメンバーなら、長老や牧師のために祈ることを思い出すとよいでしょう。なぜなら、彼らはあなたの祈りを必要としているからです！彼らはあなたの魂のために神の前で責任を負っています。そして、彼らはあなたの魂をどのように見張りをしてきたかについて、神に申し開きをしなければならないのです（ヘブル人への手紙 13:17）。

しかし、ペテロはこれらの教会の長老たちに大きな重荷を負わせているだけでなく、彼らにも同調しているのです。ペテロは、自分自身が実はある教会の長老であることを語っています。つまり、ペテロはイエス・キリストの使徒であり、長老として地域の教会に仕えていたのです。

Study:

We've come to the end of 1 Peter! This chapter seems to be Peter's closing thoughts to the churches to whom he's writing. He addresses the elders of the churches and then he addresses all the members of the churches.

5:1-4 So, Elders...

Again, it is important to remember that the chapter and verse numbers were added later and that this sentence is connected to what came before it. Peter addresses the elders of the local churches to whom he is writing directly. He is making a big statement here about the job of local church elders. The second half of this letter is focused on Christian conduct so Peter seems to be saying the responsibility to guide a church toward obeying the previous chapters lies on the elders.

It is a command he gives to the elders as an implication of what he has said before. He says, "Thus, I exhort the elders... shepherd the flock." This is a massive responsibility that should drive anyone in this position to their knees in prayer. Also, if you are a member of a local church, it is a good reminder to pray for your elders and pastor because they need your prayers! They are responsible before God for your souls. And they will have to give an account to God for how they kept watch over your souls (Hebrews 13:17).

However, Peter is not just throwing a huge burden on all the elders of these churches, he's identifying with them as well. He tells us that he himself is actually an elder of a local church. So Peter was an Apostle of Jesus Christ and he served a local church as an elder.

新約聖書に示されている教えと模範は、新約の人々（クリスチャンたち）は常に地域の教会に正式に参加することによって、神の国に属することを表明してきたということである。12使徒の最初に選ばれたペテロでさえ、地域教会にいる長老たちの一人の長老であった。彼は、自分が地域教会の権威の外にある、あるいは上にある存在だとは思っていなかったのです。

1-4節にかなりフォーカスします。なぜなら、地域教会のメンバーであることの意味について、私たちが学べるものがたくさんあるからです。

まずは教会のリーダーシップ。

当たり前のことだが、ペテロが手紙を書いた教会には、その教会を指導する責任者である長老たちがいると想定していたことを指摘することは重要である。これは、新約聖書全体を通しての標準です。使徒14:21-23によると、パウロは地域の教会に長老グループができれば、教会設立の働きは完了すると考えていたようです。

これは、初代使徒が亡くなった後、使徒という地位はもう教会には存在しないはずだと指摘する聖句のもう一つの部分である。グローバルな教会は一つしかないのです。そして、それは地域的な表現に現れています。それらの地域教会には、長老がリーダーとして存在します。長老は教会における権威の最上位に位置するものです。複数の教会を支配するビショップや使徒という地位は存在しません。

新約聖書には、長老という役職を表すさまざまな言葉がある。

プレズテロス（長老と訳される）。

エписコpos（監督と訳される）

ポイメノス（羊飼または牧者と訳される）注：英語では「Pastor」と言うが、これはラテン語に由来する。

新約聖書でこれらの言葉がどのように使われているかを見てみると、互いに置き換え可能であることがわかる。これらはすべて、教会を指導する立場を指す言葉として使われています。この立場には、教会を教え、支配する責任があります。そして、それぞれの地域教会は、それ自体で機能するように意図されています。

The teaching and example set forth in the New Testament is that New Covenant people have always expressed their citizenship in the kingdom of God through formal involvement in a local church. Even Peter, the first of the 12 Apostles, was one elder among many in a local church. He did not see himself as operating outside of or above the authority of a local church.

We will focus on verses 1-4 quite a bit because there's a lot that we can learn about what it means to be a member of a local church.

First, let's focus on church leadership.

It seems obvious, but important nonetheless to point out that Peter assumed each church he was writing to had a group of elders that were responsible for leading that church. This is the standard throughout the New Testament. Acts 14:21-23 seems to show that Paul considered his church planting efforts complete once a local church had its own group of elders.

This is another part of scripture that points to the fact that after the original apostles died, the position of Apostle should not have existed in the church anymore. There is only one global church. And it is seen in local expressions. Those local churches have elders as their leaders. The elder is the top position of authority in the church. There is not a position of Bishop or apostle that rules over multiple churches.

In the New Testament there are various words used to describe the position of elder:

- *Presbuteros* (translated elder, 長老)
- *Episkopos* (translated overseer, 監督)
- *Poimenos* (translated shepherd, 牧師) note: in English we say "Pastor" which is derived from Latin.

If you look at how these words are used in the New Testament you will see that they are interchangeable with one another. They are all used to refer to the position of leadership over the church. This position has the responsibility to teach and rule the church. And each local church is meant to function on its own.

ここでペテロは、この3つの言葉を使って、同じ立場を表現しています。長老たち（プレズテールス）に向かって、教会の羊飼い（ポイマナテ）をするように言っているのです。そして、羊飼いの意味を説明し、監督（エписコプンテス）をするように言っています。

また、「あなたがたのうちにいる、神の羊の群れ」と書かれていることにも注目してください。教会は神様のものです。長老の教会ではありません。牧師の教会でもありません。牧師の教会でもなく、メンバーの教会でもない。神のものなのです。これが、私たちが教会でどのように振舞うべきかについて、聖書が語っていることを常に探求したい理由の基礎となるものです。教会がどのように運営されるかは、私たちが決めることではありません。それはすでに神が決めたことであり、私たちは神が書かれたものを見て、それに従うようにしなければなりません。クリスチャンや教会のリーダーは、教会がどのように統治されるかについて、規則やプロセスを作ることにはできません。むしろ、私たちは、神がすでに聖書の中で定めておられることを忠実に実行する責任を負う管理者なのです。（パウロが同じことを言っているのを見るために、第1コリント 3:1-4:7と第1テモテ3:14-15を見てみましょう）。

さて、長老はどのように仕事をすればいいのでしょうか。ペテロは説明してくれます。これはすべての教会と教会開拓にとって本当に重要なことです。なぜなら、主が望まれるなら、各地の教会で長老が設立され、私たちは彼らが何をするか、そして、私たちが彼らをどう奉仕し、助け、励ますことができるかを知らなければならないからです。これはまた、どのような人を長老として肯定すべきかを理解するための指針でもあります。もし、聖書に書かれている資格に合わない長老になりたいと願う人がいたら、その人を長老に選ばないようにするのが教会の責任です。（長老、執事、また教会のために働く女性の資格については、1テモテ3:1-13とテトス1:5-9も見てください）。

また、もし聖書に書かれているような性格や能力のない人が長老になった場合、その人をその職からはずすのは教会の責任です。第1テモテ5:19-22には、長老になることを承認し、悔い改めない長老を公的に叱責するプロセスが書かれています。

神の民を指導することは、極めて重大なことである。私たちは、その方法に注意しなければなりません。そして、神の民の上に人を置くことを急いではなりません。

Here Peter uses all three words to describe the same position. He addresses the elders (*presbuterous*) and tells them to shepherd (*poimnate*) the church. Then he explains what he means by shepherding by telling them to exercise oversight (*episkopountes*).

Also, notice it says, “*the flock of God that is among you.*” The church is God’s. It is not the elder’s church. It is not the pastor’s church. It is not the member’s church. It is God’s. This is the basis for why we want to always search what Scripture has to say about how to behave in the church. We don’t get to decide how the church operates. It is already decided by God and we need to see what he wrote and then try to obey it. Christians and church leaders do not get to make rules and processes for how the church governs herself. Rather, we are stewards that are responsible for faithfully carrying out what God has already set down in the Bible. (Take a look at 1 Corinthians 3:1-4:7 and 1 Timothy 3:14-15 to see Paul saying the same thing.)

Now, how is an elder supposed to do his job? Well, Peter tells us. This is really important for all churches and church plants because, Lord willing, there will be local elders established and we must know what they do and how we can serve and help and encourage them. This is also a guide for understanding what kind of men we should affirm as an elder. If there are men that desire to be elders that do not fit the qualifications described in Scripture then it is the responsibility of the church to not select them as elders. (Also take a look at 1 Timothy 3:1-13 and Titus 1:5-9 for the qualifications of elders, deacons, and women who work for the church.)

Also, if there are men who are elders that do not have the character or ability described in Scripture it is the responsibility of the church to remove them from that office. 1 Timothy 5:19-22 describes the process of affirming men to eldership as well as publicly rebuking those elders who are not repentant.

The governing of God’s people is extraordinarily serious. We should take care how we do it. And we should not rush to put people in leadership over God’s people.

ペテロは長老の仕事について、3つの対照的な表現で説明しています。

1. 「強制されてではなく、神に従って自発的に」

長老になるのは、自分がそうしなければならないと思っているからではありません。義務感でなるではありません。他の人がそうして欲しいと言うからそうするではありません。長老になるのは、自分がそうしたいと思うからです。もちろん、長老になるには多くの人格的資格が必要です。ですから、望みがあるからといって誰でもできるわけではありません。しかし、長老は長老の仕事をしたいと望むからこそ、その役割を果たすことが要求されます。強制されたのではなく、自発的に行うのです。

2. 「卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい」

金儲けのために長老になるべきではありません。ペテロは、これが金銭的な利益であると特定しているわけではありません。卑しい利得には他の種類もあります。名誉や尊敬や注目を浴びることが好きだから、その地位につきたいと思うかもしれません。それも長老になるための間違った理由でしょう。長老になるのは、利益を得るためにするではありません。与えるためにする役割なのです。それは奉仕です。そして、ペテロは、それを喜んで行うべきであると言っています。長老は犠牲を恨むのではなく、それを喜ぶのです。

3. 「割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい」

長老の地位に伴う権威は、過酷な方法で使われるものではありません。それは召使いを支配する王の立場ではなく（イエスは正反対だと言っています！ マタイ20:25-28を見てください。）、むしろ羊を持つ羊飼いの立場なのです。ペテロは、「割り当てられている人たち」と言っています。長老は、その地域教会のメンバーに対して責任があるのです。教会のメンバーにクリスチャンとしてのあり方を知ってもらうためには、自分の生き方で示すことが主な方法です。長老の役割には多くの権威がありますが、その権威を使って教会を牧会する最善の方法は、本当に素晴らしい模範となるクリスチャンになることです。

さて、この聖句では、1世紀の教会がメンバーシップを実践していたことも指摘されている。時々、人々はメンバーシップは新しいもの、あるいは西洋の考えだとも思いますが、ある人は、メンバーシップは聖書的でない、霊的でない、厳しすぎる、分裂的であるとも考えるかもしれません。私はそのようなことはないと思っています。健全な教会では、常に誰がメンバーであるかを記録してきたと思います。

Peter describes the job of an elder in three contrasting statements:

1. “not under compulsion, but willingly, as God would have you”

A man should not become an elder because he feels like he must. He should not do it out of duty. He should not do it because other people want him to. He should be an elder because he wants to. Of course there a lot of character qualifications for being an elder. So not anyone can do it just because they have the desire. But it is required that an elder be in that role because they desire to do the work of an elder. They do it voluntarily, not as one compelled.

2. “not for shameful gain, but eagerly”

A man should not be an elder in order to use it as a means of making money. Peter is not specific that this is financial gain. There are other kinds of shameful gain. You could want to be in that position because you love honor and respect and attention. Those would also be wrong reasons to be an elder. It is not a role you do in order to get gain. It is a role you do in order to give. It is a service. And Peter says it should be done with a cheerful readiness. An elder does not resent the sacrifice, but is glad for it.

3. “not domineering over those in your charge, but being examples to the flock.”

The authority that comes with the position of elder is not to be used in harsh ways. It is not a position of a king over servants (Jesus says it is the exact opposite!! See, Matthew 20:25-28), but it is rather the position of a shepherd with sheep. Peter says, “those in your charge.” The elders are responsible for the members of their local church. The main way to help church members know how to be Christians is to show them with your own way of life. The role of elder has a lot of authority, but the best way to use that authority to shepherd the church is to be a really great example Christian.

Now these verses also point out that the first century churches practiced church membership. Sometimes people might think that church membership is something new or perhaps a western idea. Some might think that church membership is unbiblical, unspiritual, too strict and divisive. I don't think any of that is true. I think healthy churches have always had a record of who is a member.

5:1では、ペテロは「あなたがたのうちの長老たち」といっています。そして5:2では、長老たちに「あなたがたのうちにいる神の羊の群れを牧しなさい」といっています。そして、5:5では、教会に「長老たちに従いなさい」と語っています。

これは通常、ポジティブな意味では使われないが、教会の場合は明らかに内と外がある。そして、内側にいるのが良いのです。もちろん、クリスチャンとしては、より多くの人にクリスチャンになってもらいたいので、内側にいる人を増やしたいと常に思っています。しかし、私が言いたいのは、ペテロが書いている教会には、長老たちや他のクリスチャンたちが属している明確なグループがあったということなのです。長老たちは特定の群れを持っていました。そして、他のクリスチャンたちにも特定の長老がいました。

新約聖書には、長老たちに従いなさいということがいろいろと書かれています。また、長老たちには、教会を世話するようにと、さまざまな命令があります。これらすべてについて、「クリスチャンとして、自分の長老が誰であるかをどうやって知ることができるのか」と問わなければなりません。そして、「長老として、どのクリスチャンに責任があるのか」を知ることができるのでしょうか？ その答えは、教会のメンバーシップであることです。

長老は誰の面倒を見るべきか、メンバーは誰に従うべきかを知るために、メンバーである人々の名前リストを持っていることは、霊的でないことではありません。聖書には、神の民のリストが至る所にあります。その民を数えることもあります。実際、神様御自身も、クリスチャンの名前をすべて列挙した本を持っておられます。黙示録13:8を読むと、神ご自身の教会のメンバーの名簿を見ることができます。

だから、長老というのはとても大きな仕事なのです。しかしペテロは5:4で、「大牧者」（イエスが羊飼いの長です-ヨハネ10:11-18参照）が現れるとき、彼らは栄光を受けると長老たちを励ましています。ですから、期待されることは大きく、責任も大きいのですが、長老になることは価値があることなのです。

この章のテーマは「謙虚さ」かもしれませんね。長老になることは謙遜なことです。謙虚な人は良い長老になります。

In 5:1, Peter says, “the elders among you.” And in 5:2 he tells the elders, “shepherd the flock of God that is among you.” Then in 5:5 he tells the church to “be subject to the elders.”

This is typically not used in a positive sense, but with the church there is an obvious 内 and 外 (inside and outside). And it is good to be on the inside. Of course, as Christians, we always want more people to be on the inside because we want more people to become Christians! But the point of what I am saying is that it in the churches Peter is writing to there was a definable group to which the elders and the other Christians belonged. The elders had a specific flock. And the rest of the Christians had specific elders.

Throughout the New Testament there are various commands to submit to the elders. And there are various commands to the elders to care for the church. With all of these you have to ask, “As a Christian, how can I know who my elders are?” And “As an elder, how can I know what Christians I am responsible for?” The answer is church membership.

It is not unspiritual to have a list of names of people who are church members so that the elders know who to care for and the members know who to submit to. There are lists of God’s people all throughout Scripture. There are even numbers of them. In fact, God himself has a book of a list of all the names of Christians. Read Revelation 13:8 to see God’s own church member roster.

So, it is a very big job to be an elder. But Peter encourages the elders in 5:4 by saying that when the chief Shepherd appears (Jesus is the chief Shepherd— see John 10:11-18), they will receive glory. So despite the high expectations and the big responsibility, it will be worth it to be an elder.

I think the theme of this chapter might be humility. It is humbling to be an elder. Humble men make good elders.

5:5-10 そして、教会には...

そして、5:5からペテロは、私たちが互いに、また長老たちと関わる方法は、謙遜であるべきだと告げています。(箴言 3:34を参考にしている。) その理由は、神は高ぶる者には敵対し、へりくだる者には恵みを与えられるからです。

謙虚さはクリスチャンであるために必要なことです。福音があなたにとって良い知らせとなるためには、自分が救いを必要としていることを信じなければなりません。

しかし、謙虚さとは何でしょうか? どうしたら謙虚になれるのでしょうか? 謙虚になろうと常に考えていても謙虚にはなれないので、謙虚さはなかなか得られません。謙虚になろうと思えば思うほど、自分のことを考えるようになります。そうすると、自己中心的でプライドが高くなります。謙虚さを手に入れたと思った瞬間は、謙虚さを失った瞬間でもあるのです。

謙虚な人とは、自分は偉くないと自分に言い聞かせようとしている人ではない。謙虚な人とは、ただ神を愛し、人を愛することを常に考えている人のことです。

どうすれば謙虚になれるのか? ペテロはこれを命令として与えているのですから、私たちはそれを実行しなければなりません。しかし、どうすればいいのでしょうか? 謙虚な人は、自分の努力で謙虚になれるとは思わないでしょう。それは高慢なことです。

その鍵は6-7節にあるのかもしれませんが。5:6-7をもう一度読んでみましょう。

謙虚さとは、自分がすべて神に依存していることを知ることです。謙虚な人はまた、不安な人でもありません。謙虚な人とは、常に最善を尽くし、必要なものをすべて与えてくださる神の力を信頼する人です。謙虚な人は、自分が今どんな立場にしようと、それは神の支配下にあることを知っています。

そして、もし不安があっても、それを心配し続けることはない。むしろ、すべての物事に対する神の主権を認めているので、一つひとつの状況において神の御心を求めるのです。そして、神に謙虚に服従し、神が最善のことをされると信頼し、神がその言葉である聖書で指示されたことに従って行動を起こします。

5:5-10 - And to the church...

Then beginning in 5:5 Peter tells the church that the way we relate to each other and to the elders should be marked by humility. (He is referencing Proverbs 3:34.) The reason we should relate to each other with humility is because God opposes the proud but gives grace to the humble.

Humility is required for being a Christian. In order for the gospel to be good news to you, you have to believe you are in need of salvation.

But what is humility? How do you become humble? Humility is hard to get because you can't become humble by constantly thinking about being humble. The more you think about trying to do it, the more you are thinking about yourself. And that makes you self-centered and prideful. The moment you think you have achieved some humility is also the moment you have lost it.

A humble person is not someone who is trying to tell themselves they are not great. A humble person is someone who is just constantly thinking about loving God and loving others.

How do you get humility? Peter gives this as a command, so we need to do it. But how do we do it? Well, a humble person would not think that they could get humble by their own effort. That would be prideful.

Perhaps the key is in verses 6-7. Read 5:6-7 again.

Humility involves knowing we are dependent on God for everything. A humble person is also not an anxious person. A humble person is someone who trusts in God's strength to always do what is best and provide everything they need. A humble person knows that whatever position they are in at the moment, it is under God's control.

And if they have any anxieties they don't continue worrying about them. Rather, because they acknowledge God's sovereign power over all things, they ask God to do his will in each and every situation. And then, in humble submission to God, they trust him to do the best thing and they take action according to what God has instructed in his Word, the Bible.

つまり、謙虚な人とは、神への信仰心がある人のことです。そして、「私は謙遜ではない」と思っている方へ、まず、それは確かにそうです。あなたは謙遜ではありません。謙虚な人は、今自分のことを考えたりもしないでしょう。でも、もしそう思うなら、神様に謙虚にしてくださいとお願いしましょう。

この節には、「神は高ぶる者には敵対し、へりくだる者には恵みを与えられる」とあります。私たちが謙遜になるため、実は神が私たちの高慢に反対してほしいという意味があるのです。神に自分のプライドに反対して、へりくだるようにお願いしましょう。それは怖い経験ですが、良い祈りです。

6節には、神様は「ちょうど良い時」に私たちを高くあげてくださると書かれています。それはいつでしょう？ まだその時ではありません。ペテロ第一の手紙の他の部分を見ると、私たちが高くあげられる時は、イエス様が戻ってこられる時だと考えられます。しかし、今は、謙遜の時です。

次に、8~9節です。謙遜とつながっているのは、目を覚ますという考え方です。クリスチャンには霊的な敵がいます。この敵対者とは、悪魔、つまりサタンです。サタンの人生の最大の目標は、クリスチャンを滅ぼすことです。彼はいつもそうしているのです。ですから、私たちは、身を慎み、目を覚まさなければならないです。

私たちが身を慎み、目を覚ますとはどういうことでしょうか。これは、簡単に言うと「起きていて警戒している」という意味です。つまり、私たちは夜警の兵士のように、敵からの攻撃を見逃さないように目を見開いていなければならないのです。私たちは、攻撃されたときに不意をつかれたい、驚いたりしてはならないのです。私たちは、サタンと戦う準備をしておかなければならないのです。

In other words, a humble person is someone with faith in God. And if you think, "I'm not humble." First of all, you're right, you're not. A humble person wouldn't even think about themselves right now. But if you think that, then ask God to make you humble.

The verse says, "God opposes the proud, but gives grace to the humble." There is a sense in which we actually want God to oppose our pride so that we get humble. Ask God to oppose your pride and humble you. It's a scary experience, but it is a good prayer.

In verse 6 it says that God will exalt us at the "proper time." When is that? That time is not yet. If we take the rest of 1 Peter into account we can assume that the time when we are exalted is when Jesus comes back. Right now, though, is a time of humility.

Next, verses 8-9. Connected to humility is a mindset of alertness. Christians have a spiritual adversary. This adversary, this enemy, is the devil, or Satan. Satan's main goal in his life right now is destroying Christians. That's what he does all the time. So we are to be sober-minded and watchful.

What does it mean for us to be sober-minded and watchful? These are words that simply mean to be awake and alert. So, we are to be like soldiers on the night watch who keep their eyes open looking for an attack from the enemy. We should not be caught off guard or surprised when we are attacked. We should be ready to fight Satan.

サタンはさまざまな方法で攻撃してきます。聖書における例としては、以下のようなものがあります：

- 人生に困難をもたらし、人生を楽しんでくれない神を拒絶するよう（ヨブ記1:6-2:10）。
- 快適さや権力、自己満足、神以外のものを崇拜するように誘惑する（マタイ4:1-11）。
- 私たちの罪の記録を証拠として、神の前で私たちを非難する（ゼカリヤ3:1-5）。

では、これらの攻撃にどう対抗すればよいのでしょうか。その第一歩は、これらの攻撃がほとんど絶え間なくやってくることを知り、それによって準備不足に陥ったり、攻撃を受けても驚いたりしないようにすることです。サタンの攻撃に抵抗する鍵は、9節にあるペテロが言う「堅く信仰に立って」にある。

サタンに対抗する方法は、サタンの嘘に対抗して、聖書にある福音の真理と約束を強く信じ続けることです。

さて、どうやるのでしょうか？

サタンの嘘に対抗して信仰を堅持する最大の方法の一つは、聖句を暗記することです。例えば、サタンが「自分は偉い」「人より優れている」「人から認められ、ほめられなければならない」と攻撃してきたら、この嘘に対してローマ12章10節にある「兄弟愛をもって互いに愛し合い、互いに相手をすぐれたものとして尊敬しあいなさい。」を使えばいいのです。また、ガラテヤ人への手紙6章3節には、「だれかが、何者でもないのに、自分を何者かであるように思うなら、自分自身を欺いているのです。」とあります。サタンが言う自分の偉大さには、自分が欺かれているという真実で対抗し、誰かと競争するのであれば、相手から名誉を受けるのではなく、相手にどれだけ名誉を示せるかであるべきだ、ということです。

サタンが投げかけてくるあらゆる嘘に対して、私たちはこのような抵抗をしなければならないのです。サタンは獲物を狙うライオンのようなものです。彼はあなたの信仰を破壊しようとしますが、あなたは自分の信仰をしっかりと持ち、反撃しなければなりません。ですから、もしあなたが不安、恐れ、高慢、怠け、欲望、その他何でもあんなら、サタンの嘘に対抗するために聖句を暗記しましょう。

Satan will attack in various ways. Examples in Scripture include:

- bringing difficulty in our life so that we reject God for not making life easy (Job 1:6-2:10)
- tempting us toward comfort or power or self-aggrandizement or worshipping anything other than God (Matthew 4:1-11)
- accusing us before God by incriminating us with our sinful record (Zechariah 3:1-5)

So how do we resist these attacks? The first step is knowing that they will come, almost incessantly, and thereby not being unprepared or surprised that they do come. The key to resisting Satan's attacks is in verse 9 where Peter says, "firm in your faith."

The way to resist Satan is to continue strongly believing the truths and promises of the gospel in Scripture in contradiction to Satan's lies.

Well, how do you do that?

One of the greatest ways we hold firmly to our faith against Satan's lies is by memorizing Scripture. For example, if Satan attacks me by telling me that I am great and that I am better than other people and that I need to be recognized and praised by others, then I can respond to this lie with Romans 12:10 which says, "Love one another with brotherly affection. Outdo one another in showing honor." Also I can add Galatians 6:3, "For if anyone thinks he is something, when he is nothing, he deceives himself." So now I have combatted Satan's lies about my greatness with the truth that I am self-deceived and that if I'm going to be competitive with anyone it ought to be in how much I can show them honor, not receive honor from them.

This is the kind of resistance that we must do with every sort of lie that Satan will throw at us. He is like a lion looking for prey. He wants to destroy your faith, but you must firmly hold on to your faith and fight back. So if you are anxious, fearful, prideful, lazy, lustful, or anything else, memorize Scripture to combat the lies of Satan.

また、ペテロは、すべてのクリスチャンがこのような苦しみを経験すると言って、教会を励ましています。それは、私たちが特別ではないということで、謙虚な思いである。クリスチャンとして、罪の言い訳になるような困難な経験はないのです。すべてのクリスチャンは、いつでも、どこでも、困難や誘惑やサタンからの攻撃を経験しますが、私たちは皆、その中で聖なる生活をするように召されているのです。これは謙遜な考えですが、あなたは一人ではないので、励みにもなります。私たちが経験したことに共感できるクリスチャンは、いつの時代にも、世界中にいるのです。私たちは本当に一人ではないのです。

また、ペテロが使っている、新改訳では「通ってきている」と訳されている言葉は、文字通り「満たされている」、つまり「苦難を満たしている」と訳することができます。このことから改めて思い起こされるのは、苦しみもまた神の計画の中にある、ということです。それは無駄なことではありません。無意味なことではありません。目的に向かっていて、つまり終わりに向かっているのです。苦しみは終わりを迎え、その計画された目的を達成するのです。それは希望を与えるものです。

さて、5章9節です。これは本当に美しいです。ペテロは再び私たちの全生涯を「しばらくの苦しみ」と言っているのです。確かに私たちは苦しみますが、永遠の壮大な計画の中では、70-90年というのはそれほど長くはありません。

そして、10節の残りを読んでください。救いとは、神と共にいることです。苦難の時が終わる時、私たちは個人的に神と共にあり、神が個人的に私たちを回復させ、固く立たせ、強くし、不動のものとしてくださいます。神ご自身が私たちを完成させ、神とともに栄光の中で永遠の命を全うするためにふさわしい者としてくださるのです。

キリスト教の神は、遠い神ではありません。個人的な存在です。そして、あなたのことを気にかけておられます。あなたを愛しています。そして、あなたを求めておられます。愛する父親のように、あなたを抱き上げて立たせ、壊れているものをすべて治してくださいます。主は、肉体的に壊れたものをすべて修復してください。私たちは、肉体的には完璧になり、心も体も完全に健康で、完全なものになります。しかし、それ以上に、私たちの罪深い心を完全に完成してください。もう二度と罪はありません。私たちは皆、完全に謙遜になり、互いに完全に従順になります。毎日が美しくなります。すべての人が、内面も外面も美しくなるのです。

Also Peter encourages the church by saying that all Christians experience this kind of suffering. That is also a humbling thought because it means we are not special. There is no experience you have as a Christian that is so difficult that it excuses sin. All Christians in all places at all times have experience difficulty and temptations and attacks from Satan, but we are all called to live holy lives in the midst of that. This is a humbling thought, but it is also encouraging because you are not alone. There are Christians throughout time and all over the world that can relate to the experiences we have. We are truly not alone.

Also, the word Peter uses that is translated “being experienced” in English is literally “to fulfill further” or you could translate it “the suffering that is being accomplished.” What this reminds us of again is that suffering also has its place in God’s plan. It is not in vain. It is not pointless. It is leading toward a goal and that means it is leading toward an end. Suffering will end and it will bring about its designed purpose. That gives hope.

Now, 5:10. This is absolutely beautiful. Peter again refers to our whole life as “a little while.” Yes, we do suffer, but in the grand scheme of all eternity, 70-90 years is not very long.

Then, read the rest of verse 10. Salvation is being with God. When our time of suffering is complete, we will personally be with God and God will personally restore, confirm, strengthen, and establish us. God himself will perfect us and make us fit for eternal life in glory with him.

The God of Christianity is not a distant deity. He is personal. And he cares about you. He loves you. And he wants you. Like a loving father, he will pick you up and stand you up and repair everything that is broken. He will repair everything physical that is broken. We will be physically perfect; completely healthy and whole in our minds and body. But more than that he will completely perfect our sinful hearts. There will not be any sin ever again. We will all be perfectly humble and perfectly submissive to one another. Everyday will be beautiful. Every person will be beautiful inside and out.

5:11 礼拝

11節では、ペテロは礼拝しています。彼はすべての支配権を神に帰しています。これは、寄留の民として生きることをテーマとした手紙の中で、特に重要なことです。今の時代も来るべき時代には、王は一人です。神である。将来にはその支配は霊的に教会に見られるだけでなく、物理的に全世界に見られるようになる。その時、私たちは故郷を感じることができます。私たちは故郷にいるのです。神をほめたたえましょう。

5:12-14 最後

最後の節では、シルワノ、マルコ、バビロンの教会、口づけについて見ていきましょう。

シルワノは、使徒の働きでシラスと呼ばれている人物でもあります。彼はペテロのためにこの手紙を届けたようです。

マルコは、使徒の働きや他の手紙に登場するヨハネ・マルコと同じである（使徒の働き 12:12）。教会設立当初に最初に集まったのは、ヨハネ・マルコの母親の家であった。そして、このマルコが福音書を書いたのである。

この日本語訳では、ペテロがバビロンの教会について話していることを明記しています。ペテロはバビロンの教会について話しているのであって、人のことについて話しているではありません。ヨハネも手紙の中でこのように書いています。英語の方では「彼女」で訳されていますが、教会とは、キリストの花嫁ですから、女性名詞で呼ぶのが普通です。

ペテロが手紙を書いた当時、バビロンは廃墟になっていたのも、バビロンという表現は興味深い。だから、ペテロはバビロンから手紙を書いたのではない。おそらく、ペテロはローマから書いていて、ローマをバビロンと称しているのでしょう。

なぜ、そんなことをするでしょう？

旧約聖書で神の民が捕虜となって流された時、バビロンは世界の大国であった。バビロンが来てエルサレムを滅ぼし、その住民を帝国中に拡散させた。

5:11 - Worship

In Verse 11 Peter worships. He attributes to God all dominion. This is especially significant in a letter with a theme of living as exiles. Now and in the age to come, there is one king: God. And in the future, his rule will not only be seen spiritually in the church, but it will be seen physically throughout the whole world. In that time, we will feel at home. We will be in our home country. Praise God.

5:12-14 - Closing

In the final verses let's look at Silvanus, Mark, the church in Babylon, and kisses.

Silvanus is also the person called Silas in other letters and in Acts. He apparently delivered this letter for Peter.

Mark is the same John Mark that we see in Acts and other letters. It was in John Mark's mother's house that the church first met in at the very beginning of the church (Acts 12:12). And this is the same Mark who wrote the Gospel.

In this Japanese translation they specify for us that Peter is talking about a church in Babylon. He's not talking about a person. John also writes this way in his letters. It is normal to refer to the church in the feminine because the church is the Bride of Christ.

The reference to Babylon is interesting because at the time Peter wrote the letter, Babylon was in ruins. So Peter was not writing from Babylon. What is probably happening is Peter is writing from Rome and he is referring to Rome as Babylon.

Why is he doing that?

Babylon was a great world power at the time when God's people were taken captive into exile in the Old Testament. Babylon came and destroyed Jerusalem and spread the inhabitants all over the empire.

そこでペテロは、ずっと使っている自分のテーマを示しているのです。世界中に散らばっている教会、それは新しいディアスポラです。私たちは神の民でありながら、故郷にいないのです。しかし、いつの日か、神が私たちを迎えに来て、家に連れ戻してくれるのです。

ついに、口づけです。

「愛の口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。」

では、私たちは皆、キスをするのが当たり前なのでしょうか？ キスがすでに適切な挨拶の形である文化では、私は「その通りです」と言うでしょう。しかし、日本では答えは明らかに「ノー」です。

これは聖書の中で非常にユニークなことで、ある時代、ある文化にしか適用されないものがある数少ない例だからです。

ESVスタディバイブルには、こんなことが書いてある。

「文化によって変わる象徴的な意味を持つ他の習慣（足を洗う、妻に頭をかぶるなど）と同様に、「聖なる口づけ」は、1世紀当時と同じ意味を今日伝えることはできないでしょうし、ほとんどの文化で深刻な誤解を受けるでしょう。このような命令には、現代の文化で同じ意味を伝えるような行為で代用するのが最も良い方法です。例えば、握手やハグ、お辞儀など、文化によって異なります。」

So Peter is showing his theme that he has been using the whole time. The church, that is scattered all over the globe is the new diaspora. We are the people of God and we are not at home. But one day, God will come and get us and bring us home.

Finally, kissing.

“Greet one another with the kiss of love.”

So are we all supposed to be kissing each other? In some cultures where kissing is already an appropriate form of greeting, I would say yes. But in Japan the answer is obviously no.

This is very unique in scripture because this is one of the few times when there is something that only applies to certain cultures at certain times.

Here's what the ESV Study Bible says:

Like some other practices with symbolic meanings that change from culture to culture (such as foot washing, or head covering for wives) a “holy kiss” would not convey the same meaning today that it did in the first century, and in most cultures it would be seriously misunderstood. Such commands are best obeyed by substituting an action that would convey the same meaning in a modern culture. For example: a handshake or hug or bow, varying by culture.

ディスカッション

以下の質問について考え、グループで話し合う準備をしましょう。

1. 長老や教会員（教会のメンバー）に関する話で、意外だったことはありますか？
2. 神様があなたを謙遜にしてくれるように祈ったことがありますか？ その理由は何ですか？
3. サタンの攻撃方法として挙げられた3つの方法のうち、最も聖句を暗記する必要があると感じるのはどれでしょうか？ サタンの嘘に対抗するための約束を聖書から探し、それを暗記しましょう。グループでディスカッションするときのために用意しておきましょう。
4. 歴史上、そして世界中に、あなたと同じような苦しみに共感できるクリスチャンがいることを知って、慰めになっていますか？ 歴史上、そして世界中のクリスチャンの経験をもっと知るにはどうしたらよいでしょうか？
5. 具体的には、神様があなたを回復させ、固く立たせ、強くし、不動のものとしてくださることを、あなたはどんなふうに待ち望んでいますか？

一緒に祈りの時間を持ってください。特に祈り課題のために祈ってください。神様がすべての支配権を持ち、私たちの王であることをほめたたえましょう。

Discussion

Think about these questions and be prepared to discuss together with your group.

1. Was there anything from the discussion of elders and church membership that was surprising for you?
2. Have you ever prayed for God to humble you? Why or why not?
3. In the three ways listed for how Satan attacks, which one do you feel you need to memorize Scripture for most? Look in the Bible for a promise to combat Satan's lies and memorize it. Have it ready for when you meet to discuss.
4. Is it comforting to know there are Christians throughout history and throughout the world that can relate to the same kind of suffering you have? How can we learn more about the experiences of Christians from history and throughout the world?
5. Specifically, what are you looking forward to when God restores, confirms, strengthens, and establishes you?

Spend some time praying together. Pray specifically for what was discussed. Praise God that he has all dominion and he is our king.

その他のリソース・ Additional Resources

MUSTARD SEED クリスマン教会の 信仰告白文 MUSTARD SEED CHRISTIAN CHURCH Statement of Faith

私たちがクリスマンであるかどうか、それによって本当に神の民の一人であるかどうかを確認する最も根本的な方法の一つは、私たちが聖書の教えに同意した信仰を持っているかどうかを確認することです。この信仰告白は、真のキリスト教の信仰に関する聖書の教えを非常に基本的にまとめたものです。時間をかけてこの告白に目を通し、参照している聖書箇所も調べてみてください。

One of the most foundational ways of confirming if we are Christians and thereby truly one of God's people is to confirm whether we have a faith that accords with the teaching of Scripture. This statement of faith is a very basic summary of the Bible's teaching on true Christian beliefs. Take some time to read through this statement and look up the Scripture references.

読みながら、2つの質問をしてみてください。(1) 私はこれを信じるか? (2) これは聖書の教えを正確に同意しているか?

As you read it ask two questions: (1) Do I believe this? (2) Does this accurately reflect the teaching of Scripture?

聖書 The Bible

私たちは、聖書が旧新約ともに(マタイ22:43; 使徒1:6, 4:25, 28:25-27; ヘブル3:7; 第一ペテロ1:11-12; 第一テモテ5:18; 第二ペテロ3:15-16)、原典においてに誤りのない(詩篇19:7-9; ヨハネ10:35; テトス1:2)、神の靈感を受けた神のみことばであり(第二テモテ 3:16)、人類の救いという神のみこころの完全なる啓示(申命記 13:1-5, 18:20-22, 29:29; 第二テモテ3:15)、すべてのキリスト者の信仰とその人生に対して、神聖かつ最終的な権威を持つものであると信じます(申命記 4:2; 箴言 30:5-6; マタイ5:17-19; 黙示録 22:18-19; 第二テモテ3:16-17)。

We believe the scriptures, both Old (Matthew 22:43; Acts 1:6, 4:25, 28:25-27; Hebrews 3:7; 1 Peter 1:11-12) and New Testaments (1 Timothy 5:18; 2 Peter 3:15-16), to be the inspired Word of

God (2 Timothy 3:16) without error in the original writings (Psalm 19:7-9; John 10:35; Titus 1:2), the complete revelation of his will for the salvation of men (Deuteronomy 13:1-5, 18:20-22, 29:29; 2 Timothy 3:15), and the Divine and final authority for all Christian faith and life (Deuteronomy 4:2; Proverbs 30:5-6; Matthew 5:17-19; Revelation 22:18-19; 2 Timothy 3:16-17).

神 God

私たちは、すべての創造主であり(創世記1:1)、聖なる方であり(イザヤ6:1-3)、永遠に三位一体(父なる神 [第一ペテロ1:2]、御子[ヨハネ20:28]、聖霊 [使徒5:3-4])である唯一の神を信じます(第一テモテ 2:5)。

We believe in one God (1 Timothy 2:5), creator of all things (Genesis 1:1), holy (Isaiah 6:1-3), and eternally existing in three persons: Father (1 Peter 1:2), Son (John 20:28), and Holy Spirit (Acts 5:3-4).

イエス Jesus

私たちは、イエス・キリストが、被造物ではない、永遠の昔から存在しておられる(コロサイ 1:16-17) 神のひとり子であることを信じます(ヨハネ1:1,14, 3:16; ヘブル1:8, 10)。私たちは、この方が、受肉において、聖霊により宿り、処女マリアよりお生まれになった(ルカ1:34-35)、まことの神であり、まことの人なる方であり(ガラテヤ4:4-5)、聖書のみことば通りに、完璧な生涯を送り、私たちの罪のために完全かつ最終的な捧げ物として十字架の上で死なれた方であると(第一コリント15:3; ヘブル4:15; 10:11-14)、さらには死からよみがえり(第一コリント15:4; ルカ 24:36-43)、天に昇り(使徒1:9)、全能の父なる神の右に座しておられる方であると信じます(ヘブル1:3)。

We believe that Jesus Christ is the one and only Son of God (John 1:1, 14; 3:16; Hebrews 1:8, 10) who is not created but has existed from eternity (Colossians 1:16-17). In the Incarnation, he was conceived of the Holy Spirit and born of the Virgin Mary (Luke 1:34-35) as truly human and truly God (Galatians 4:4-5). He lived a perfect life and died on the cross as a perfect and complete sacrifice for our sins according to the Scriptures (1 Corinthians 15:3; Hebrews 4:15; 10:11-14). Further, he rose bodily from the dead (1 Corinthians 15:4; Luke 24:36-43) and ascended into heaven (Acts 1:9), where he sits at the right hand of God the Father (Hebrews 1:3).

聖霊 Holy Spirit

私たちは、聖霊なる神が、永遠の昔から永遠の未来に至るまで、父なる神、子なる神との完全な一致の内に存在される方であることを信じます(詩篇139:7; マタイ28:19; ヨハネ15:26; 第一ヨハネ4:8, 12-13)。私たちは、この方が、世に罪を認めさせ(ヨハネ16:8)、罪人を新生させ(ヨハネ3:5; テトス3:5)、全てのキリスト者のうちに住まれる(ヨハネ7:39; 14:17; ローマ8:9-11)方であることを信じます。この方はキリスト者のうちに住まれることで、キリスト者を神の子供とみなし(ガラテヤ4:6)、敬虔に生き、仕えるための力を与え(ローマ8:13; ガラテヤ5:16-23; 第一コリント12:7; 第二コリント3:6)、永遠の希望を保証される(第二コリント 1:21-22, 5:5; エペソ1:13-14)方であると信じます。

We believe the Holy Spirit exists eternally in perfect union with God the Father and God the Son (Psalm 139:7; Matthew 28:19; John 15:26; 1 John 4:8, 12-13). He convicts the world of sin (John 16:8), regenerates the sinner (John 3:5; Titus 3:5) and indwells the believer (John 7:39; 14:17; Romans 8:9-11). Through the indwelling of the Holy Spirit he identifies the believer as God's child, (Galatians 4:6), empowers the believer for godly living (Romans 8:13; Galatians 5:16-23) and service (1 Corinthians 12:7; 2 Corinthians 3:6), and guarantees the believer's eternal hope (2 Corinthians 1:21-22, 5:5; Ephesians 1:13-14).

人間と罪 Humanity and Sin

私たちは、すべての人間が神のかたちに造られていると信じます(創世記 1:26-28; ヤコブ3:9)。しかしながら、罪の結果として(創世記 3; ローマ5:12; 第一コリント15:21-22)、新生される以前の状態では神に背いており(ローマ3:9-20, 8:8; エペソ2:1-3)、永遠の刑罰に定められています(マタイ25:46; ヨハネ 3:18; ローマ8:1; 第二テサロニケ1:5-10)。

We believe that all humanity is created in the image of God (Genesis 1:26-28; James 3:9). However, as a result of sin (Genesis 3; Romans 5:12; 1 Corinthians 15:21-22), all unregenerate humanity is now in rebellion against God (Romans 3:9-20, 8:8; Ephesians 2:1-3) and under eternal condemnation (Matthew 25:46; John 3:18; Romans 8:1; 2 Thessalonians 1:5-10).

救い Salvation

私たちは、救いは、恵みのゆえに、キリストへの信仰によってのみもたらされ(ヨハネ14:6; 使徒4:10-12, 15:11; ローマ4:5; ガラテヤ2:16; エペソ2:8-9)、イエスキリストの完全な従順と身代わりの死と復活のみが、信じる者すべての義認と聖化、栄化の根拠となること(ローマ3:21-26, 4:22-25; 第二コリント5:21)、そして、信じる者はすべて神の子とされることを信じます(使徒4:12; ローマ3:21-26, 5:15-19, 8:15-17; エペソ2:8-9)。

We believe that salvation is by grace alone through faith alone (Acts 15:11; Romans 4:5; Galatians 2:16; Ephesians 2:8-9) in Christ alone (John 14:6; Acts 4:10-12). The perfect obedience and sacrificial death of Jesus Christ and his resurrection provide the only ground for justification, sanctification, and glorification for all who believe (Romans 3:21-26, 4:22-25, 2 Corinthians 5:21), and those who believe become the children of God (Romans 8:15-17; Galatians 4:4-7; 1 Peter 3:18; Revelation 21:1-7).

キリストの再臨 Return of Christ

私たちは、キリストご自身が肉体を伴い(ヨハネ14:3; 使徒1:11; 第一テサロニケ4:16)、栄光に満ちて(マタイ16:27, 24:30, 25:31)再び戻って来られること、そしてその再臨が信じる者の日々の歩みと奉仕に欠かせないことを信じます(マタイ16:24-28; マルコ8:34-38; 第一ヨハネ3:2-3)。

We believe in the personal, bodily (John 14:3; Acts 1:11; 1 Thessalonians 4:16), and glorious (Matthew 16:27, 24:30, 25:31) return of the Lord Jesus Christ, and that Christ's return has a vital bearing on the personal life and service of the believer (Matthew 16:24-28; Mark 8:34-38; 1 John 3:2-3).

復活と永遠 Resurrection and Eternal States

私たちは、死者が肉体を伴って復活すること(第一コリント15:35-49)、そして、イエスが生きている者と死んだ者をさばかれること(マタイ25:31-33; 第一テモテへ4:1)を信じます。さばきにおいて、主は、信じる者を主ご自身と過ごす永遠の祝福と喜びに(マタイ25:14-23, 34; 第一テサロニケ 4:13-18)、信じない者を永遠の刑罰と永遠の滅びに(マタイ25:46; 第二テサロニケ1:5-10)定められます。

We believe in the bodily resurrection of the dead (1 Corinthians 15:35-49) and that Jesus will judge the living and the dead (Matthew 25:31-33; 2 Timothy 4:1): of the believer to everlasting blessedness (Matthew 25:34) and joy (Matthew 25:14-23) with their Lord (1 Thessalonians 4:13-18), and the unbeliever to eternal punishment (Matthew 25:46) and eternal destruction (2 Thessalonians 1:5-10).

教会 Church

私たちは、真の教会は(第二テモテ2:19)、イエスキリストを救い主として信じ(使徒 16:30-31; エペソ 1:13)、聖霊によって新生され(ヨハネ3:5-6; テトス3:4-7)、イエスがかしらであるキリストのからだに連なっているすべての人々によって形成されると信じます(第一コリント12:12-13; エペソ4:15-16)。

私たちは、地域教会は、普遍的教会の地上における目に見える表れである(使徒9:31; ローマ16:5; 第一コリント16:19)と信じます。地域教会は真の福音を宣べ伝え、バプテスマと主の晩餐の礼典を執行します(マタイ28:18-20; 使徒2:37-38;

ローマ6:3-4; 第一コリント2:1-5, 15:1-8, 11:17-34; ガラテヤ3:27; 第一テモテ4:16; 第二テモテ 1:13-14)。

We believe that the true Church (2 Timothy 2:19) is composed of all such persons who have saving faith in Jesus Christ (Acts 16:30-31; Ephesians 1:13) and have been regenerated by the Holy Spirit (John 3:5-6; Titus 3:4-7) and are united in the body of Christ of which he is the head (1 Corinthians 12:12-13; Ephesians 4:15-16).

We believe local churches are the visible and earthly expression of the universal church (Acts 9:31; Romans 16:5; 1 Corinthians 16:19). Local churches proclaim the true gospel message and administer the ordinances of baptism and the Lord's Supper (Matthew 28:18-20; Acts 2:37-38; Romans 6:3-4; 1 Corinthians 2:1-5, 15:1-8, 11:17-34; Galatians 3:27; 1 Timothy 4:16; 2 Timothy 1:13-14).

聖書を読むプラン

なぜ聖書を読むのは大切なのか？

詩篇の1:1-3にこう書かれています。「幸いなことよ、悪しき者のはかりごとには歩まず、罪人の道に立たず、嘲る者の座に着かない人。主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び、その葉は枯れず、そのなすことはすべて栄える。」

聖書は神様のことばです。神様が救いを教えてくれる、特別な啓示です。そして神様の力によって、聖書には私たちをもっとイエス様に似たものへと変える力があります（2テモテ3:14-16）。

聖書を日々読み、覚え、祈り、しっかりと思いを巡らすことで、聖書が私たちの人生をより聖いものへと変えるように神様が働いてくださいます。

聖書は、食事を食べたり水を飲んだりするのと同じように読むべきです。健康を保って成長するためには、毎日、複数回聖書を読む必要があります。私たちが聖書を読み、しっかりと考え、理解しようとするのは、神様の完璧な言葉によって正され、悔い改め、イエス様に従うためです。

そして、読んだ聖書の箇所について祈りましょう。特にその箇所がはっきりと理解できるように祈りましょう。他のクリスチャンと一緒に読むのもおすすめです。聖書を読んで、それを理解して従おうとすることは、クリスチャンとしての生活の大切な一部です。

聖書を読むことを習慣にしよう

詩篇の1篇が言っているように、私たちは昼も夜も神様のおしえである聖書を口ずさむべきです。

どのようにしたら、それができるでしょうか？ 聖書を読むことを習慣にしましょう。あらかじめ以下のことを決めておくと助けになります。

時間： いつ聖書を読みますか？ 朝の7時ですか？ 夜の9時ですか？ 両方ですか？

Bible Reading Plan

Why is it important to read the Bible?

Psalm 1:1-3 says, "Blessed is the man who walks not in the counsel of the wicked, nor stands in the way of sinners, nor sits in the seat of scoffers; but his delight is in the law of the LORD, and on his law he meditates day and night. He is like a tree planted by streams of water that yields its fruit in its season, and its leaf does not wither. In all that he does, he prospers."

The Bible is God's Word. It is specific revelation from God that teaches the way of salvation. And, by God's power, Scripture is powerful in our lives to make us more like Jesus (2 Timothy 3:14-16).

By God's power, habitually reading, memorizing, praying, and meditating on Scripture will bring about sanctification in our lives.

So we read the Bible the same way we eat food and drink water. Every day, multiple times a day, in order to grow and be healthy. We read and digest—or in other words, think about and try to understand—what we read so that we can be corrected by God's perfect word, repent, and follow Jesus more closely.

We pray about what we read. We ask God for clarity. We study it with other Christians. To read the Bible and try to understand it so that we can obey it is a regular practice of the Christian life.

Making a Habit of Reading the Bible

Like the psalmist in Psalm 1, we need to meditate on God's Word, the Bible, day and night.

How can we do that?

Make it a habit. Decide beforehand:

A time - When you will read the Bible? Will it be 7:00 am? 9:00 pm? Both?

場所: どこで聖書を読みますか? 食卓ですか? 電車の中ですか? 両方ですか?

プラン: どのようにして聖書を読んでいきますか? 1日1章ですか? 1日10章ですか? もうあるプランを使いますか? 自分でプランを立てますか? 読んだときにどうしますか? 注解書を一緒に読みますか? 教会のメッセージの箇所を一緒に読んでいきますか? 暗記しますか? 助けになった部分を祈りますか?

自分のプランに従うための準備をしましょう。朝起きる必要があるなら、目覚ましをセットしたり、早く寝るようにしましょう。スケジュールに書き込み、友達との約束と同じように考えましょう。聖書を読むための時間に、誰かに誘われたらこう答えましょう。「実はその時間にはもう予定があって、ごめんなさい。」自分のプランに従いましょう。

みなさんが聖書を読むのを習慣にするのを助けるために、教会では2年間の聖書プランを作りました。このプランでは2年の間に、新約聖書を3回、詩篇と箴言を4回、残りの旧約聖書を1回読めるようになっています。

聖書を読むときに、どのように理解すればいいの?

聖書を読むときには、次の3つの質問を考えてみてください。

この箇所は神様について何を教えてくれるの?

聖書は神様からの贈り物です。神様がどんな方なのか、神様がどのように罪人を救い、自分の造った世界を贖ってくださるのかを教えてください。読んだ聖書の箇所から神様の性質、思い、願い、力など神様について何がわかるかを考えてみてください。

この箇所は自分自身について何を教えてくれるの?

私たちは罪人であって、救いを必要としています。聖書は神様がどのように救いを与えてくれるのかを教えてください。今日読んだ箇所が、自分自身について何を言っているのか考えてみてください。具体的には例えば次のような質問を考えてみてください。「私はどうやって救われているんだろう?」「私はどれほど罪深いんだろう?」「人生で必要なものは何だろう?」「何を変えたらもっと神様に喜ばれるだろう?」

この聖書の話は、どのようにイエス様につながっているの?

聖書のすべてがイエス様について書かれています! 旧約聖書は一貫して、イエス様が救い主として来られてすべてを成就する時を待ち望みつつ指し示しています。福音書はイエス様の人生、死、復活を通して救いが成し遂げられ、神の国が新しい形でこの世界におとずれたことを語っています。新約聖書の他の部分は、神様の作られた新しい神様のコミュニティーである教会について書かれています。また、イエス様の教会である私たちがイエス様の再臨を待ち望みつつどう生きるべきかという教えも書かれています。

A place - Where you will read the Bible? At your kitchen table? On the subway? Both?

A plan - How will you read the Bible? One chapter a day? Ten chapters a day? Will you follow a plan or make your own? How will you interact with what you are reading? Will you read a commentary with it? Will you follow the preaching schedule of your church? Will you memorize a verse? Will you pray a section that was especially helpful?

Then, make the proper preparations to do your plan. Set your alarm earlier. Go to bed earlier. Put it in your calendar and treat it like an appointment. If you are invited to do something when it is time to read your Bible, say, "I'm sorry, I already have something at that time." Stick to your plan.

In order to aid you in developing the habit of Bible reading the church has created a two-year Bible reading plan. This will take you through the New Testament three times, the Psalms and Proverbs four times, and the rest of the Old Testament once.

How to Engage With the Bible When You Read

When you read the Bible, answer these three questions:

What does this teach me about God?

The Bible is from God. It teaches us about him and what he has done and will do to save sinners and redeem his creation. Think through what the section you read is saying about God, his character, his desires, his will, his power, etc.

What does this teach me about myself?

We are the sinners that need saving. The Bible tells us how God does that for us. Think about what you read that day tells you about yourself. Think through questions like: "Where does my salvation come from?" "How sinful am I?" "What are my needs in life?" "What things can I change that would be pleasing to God?"

In the story of the Bible, how is this related to Jesus?

Finally, the whole Bible is about Jesus. The Old Testament is constantly looking forward to when Jesus came as the Savior and the fulfillment of everything it was about. The Gospels are the story of how Jesus brought God's kingdom to earth in a new way, fulfilled the Old Testament, and accomplished salvation in his life, death, and resurrection. The rest of the New Testament is the story of the new community of God that Jesus established, called the church. There are also instructions for how we are to live as members of Jesus' church as we wait for his return.

2年間をかけて聖書を読むプランはこちらでアクセスができます：聖書プラン

(この聖書プランの紙のコピーをご希望の方は、info@mustardseedsendai.com までメールでご連絡ください。)

もしこの聖書プランに従うなら、祈りの時間も含めて毎日20~30分くらいを聖書を読んで過ごせる予定です。

例えば5月3日にこの聖書プランに従って聖書を読むとすると、民数記1章、2コリント8章、詩篇124編を読むことになります。

「この箇所は神様について何を教えてくれるの?」という質問には、例えばこのように答えることができます。

- ・民数記1章：神様はしっかりと秩序があるのを喜ばれる。グループにたくさん人がいても、神様は一人ひとりを覚えていてくださる。神様はとても聖なる方だ。
- ・2コリント8章：神様はご自分の人々に必要なものを与えてくれる。神様は私が寛大であることを喜んでくれる。
- ・詩篇124編：神様がすべてを造った。

「この箇所は自分自身について何を教えてくれるの?」という質問には、例えばこのように答えることができます。

- ・民数記1章：私は小さな1人の人間にすぎないけど、神様は大切に思ってください。私は悪と戦う神様の軍隊の一兵士みたいだ。自分の好きなようにではなく、神様の言われたように神様に近づく必要がある。
- ・2コリント8章：私は結構ケチだ。他の人たちの必要よりも自分のことを考えてしまう。どうやったらもっと寛大になれるか考える時間を持ちたい。
- ・詩篇124編：私の希望も、助けも、救いも神様にしかない。

「この聖書の話は、どのようにイエス様につながっているの?」という質問には、例えばこのように答えることができます。

- ・民数記1章：神様のもとに行く方法はイエス様だけ。イエス様が王。私のリーダー。イエス様が一番の敵である罪に勝ってくれたから、私も罪に勝つことができる。イエス様が神様の教会のリーダーで、私はその教会の一員だ。
- ・2コリント8章：私が神様との永遠のいのちを受け取るために、イエス様がすべてを捨ててくれた。
- ・詩篇124編：私の代わりにイエス様が、神様の怒りの大水と濁流に飲み込まれてくれた。神様が私を無条件に愛してくれる理由はイエス様にある。

For an example of a two-year Bible reading plan follow this link: [Bible Plan](#)

(If you prefer to have a paper copy of this plan please send an email to info@mustardseedsendai.com and request a copy)

If you do this plan, including time for a short prayer, it will take between 20 and 30 minutes each day.

For example, if you were to do this plan and today was May 3, you would read Numbers 1, 2 Corinthians 8, and Psalm 124.

For the first question, "What does this teach me about God?", you might write down the following.

- Numbers 1: God likes structure and records. God keeps track of individuals in the group. God is very holy.
- 2 Corinthians 8: God provides for his people. God wants me to be generous.
- Psalm 124: God created everything.

Then to answer the second question, "What does this teach me about myself?", you might think the following:

- Numbers 1: Even though I'm just one person, I matter to God. I am like a soldier in God's army against evil. I can't approach God any way I choose, I need to follow his instructions for how to come to him.
- 2 Corinthians 8: I'm not very generous. I think about myself a lot more than the needs of others. I need to think about how I can excel in generosity.
- Psalm 124: My only hope and help and salvation is in God.

Finally, for the third question, "In the story of the Bible, how is this related to Jesus?", you might think the following:

- Numbers 1: Jesus is the way for me to be with God. Jesus is the king. He's my leader. He defeated the greatest enemy, sin, so I can have victory over sin in my life. Jesus is the head of the church, God's people, and I am a member of the church.
- 2 Corinthians 8: Jesus gave up everything for me so that I would receive an inheritance of eternal life with God.
- Psalm 124: Jesus was overcome by the flood and torrent of God's wrath for my sin so that I wouldn't be. He is the reason God loves me unconditionally.

心を新たにする

クリスチャンが肉の欲を避けるようにするもう一つの方法は、心を新たにすることです（ローマ 12: 2）。これは、聖書を読んだり、祈ったり、教会と集まったり、他のクリスチャンから励まされたり、聖書の教えを聞いたりするときに行われます。また、私たちは、自分が信じている特定の嘘に対して、意図的にそれを行うことができます。

例えば、ある朝起きたら、なぜかとても気分が悪かったとしましょう。もしかしたら、前の晩に何かとても愚かなことをしまったのかもしれませんが。もしあなたが非常に動揺していたら、次のようなことを自分に言い聞かせるかもしれません。「私は無価値だ。あんなことをしたなんて信じられない」。また、その逆もあり得ます。もしかしたら、先日、素晴らしいことをして、とてもいい気分になっているかもしれません。自分にこう言い聞かせているのかもしれませんが。「私は素晴らしい。私はとても良い人間だ。私の友人や家族が私と一緒にいることはとても良いことだ。私がいなければ、彼らは混乱していただろう。」

クリスチャンとしては、この両方の考えを修正する必要があります。どうすればいいのでしょうか？ どうやって考え方を変えるのでしょうか？ 良い考えの基準は何ですか？

その答えは、「心を新たにすること」です。そのためには、祈りをもって聖句を探し、自分の考えを修正することです。下の図は、心を新たにする方法の例です。毎晩寝る前に、毎週末になど、定期的に行うとよいでしょう。

わたしの考え	聖句	わたしの新しい考え
「わたしは価値がない...」 「わたしは素晴らしい...」	創世記 1:27; 詩篇 8:3-5; コリント第一 12; エペソ 2:1-10	「私には固有の尊厳と価値があります。私は神の形として創造された。しかし、私は罪人です。一方、神様は私を愛し、恵みによって救ってください、神様や人に仕えるための賜物や価値ある仕事を与えてくださいました。私は悔い改め、愛されていることを知って神に従う必要があります。」

Renewing Your Mind

Another way Christians abstain from sin is by renewing our minds (Romans 12:2). This is done when we read the Bible, pray, gather with the church, are exhorted and encouraged by other Christians, or listen to Biblical teaching. We can also very intentionally do it ourselves with specific lies we believe.

For example, let's say you wake up one morning and for some reason you feel really bad. Maybe you did something really foolish the night before. If you are very upset you might tell yourself something like, "I am so stupid. I am a worthless. I can't believe I did that." Or the opposite could also be true. Perhaps you did a great thing the other day and you feel pretty good about it. Maybe you tell yourself, "I am great. I am such a good person. It is so good that my friends and family have me in their life. Without me, they would be a mess."

As a Christian both of these thoughts need to be corrected. How do we do that? How do we change the way we think? What is the standard for good thoughts?

The answer is, we renew our mind! And we do that by prayerfully searching Scripture to correct the thoughts we have. Below is an example chart for a method of renewing your mind. It is a good practice to do regularly (i.e. every night before bed, at the end of every week, etc.).

My thoughts	Scripture	My new thoughts
"I'm worthless..." "I'm great..."	Gen. 1:27; Ps. 8:3-5; 1 Cor. 12; Eph. 2:1-10	"I have inherent dignity and value. I am made in God's image. But I am a sinner. However, God loves me and saved me by grace and he has given me gifts to serve him and others and valuable work to do. I need to repent and follow him knowing I am loved."